

二五九 十月八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

漁業行政ハ農業人民委員部ニ移リ漁業全權モ

交替トナリタル旨報告ノ件

### 第三二八号

山口第一五七号

目下来浦中ノ「アンドリアーノフ」ヨリ極東漁業行政ノ系統ニ関シ聞キタル處ニ拠レハ今回食糧人民委員部ノ廃止ト共ニ漁業行政ハ一時新設ノ内國貿易人民委員部ノ管轄ニ移サレタル處十月一日ヨリ漁業行政ハ農業人民委員部ニ移リ其漁業全權ハ「ピヨートル・チフォフエーウィツチ・モモノーフ」ニシテ國營漁業部ハ最高國民經濟會議ノ管轄ニ移

リ國民經濟會議極東工業事務局（ダリプロム・ビューロ）ノ直営トナリ最高國民經濟會議極東全權ハ「スタルコフ」ナリ依テ「アンドリアーノフ」ハ全ク漁業行政ヲ離レ専ラ外國貿易委員部全權トナレリ猶同氏ハ漁業庁長官ト共ニ來ル十一日「ハバロフスク」ニ赴キ漁業庁ノ「ハバロフスク」移転ハ今月中ニ終了シ当地ニハ西南区漁業監視官残ルノミノ趣ナリ  
叙上ノ次第ニテ今後漁業ニ關スル諸問題ノ交渉ニハ其都度「ハバロフスク」ニ赴クカ電信又ハ郵便ニ依ルノ外ナキ状態トナレリ

### 事項七 第二次奉天・直隸兩派ノ交戦

二六〇 四月二十八日 斎藤朝鮮總督ヨリ

加藤總理大臣宛

奉直兩派ノ關係甚懸念ニ堪ヘサルモノアリ此際眞面目ニ態度安維持ノタメ我方ノ自衛的措置執行ニ関スル

意見具陳ノ件

拝啓御転地ノ効果ノ顯著ナルヘキヲ信シ恐悦申上候陳者支

那奉直ノ關係甚懸念ニ堪ヘサルモノアリ此際眞面目ニ態度

ヲ御定メ相成彼等ノ蠢動ヲ戒メ罷間違ハ東洋平和ノ為メニ

滿州ヲ一時御保管相成候迄ノ決心ヲ御示シアランコト切望

ノ至ニ堪ヘス別紙覚書（ヲ）以テ意見具陳仕候素ヨリ彼等

カ治安ヲ乱リ平和ヲ毒害スルコトノ実現スルニアラサレハ

我兵ヲ動カスノ要ナク毫モ侵略的ノ精神ニアラサルコトハ

申迄モナキコトニ付列國ニ對シテ其誤解ナカラシムル様充

分ニ諒解セシムヘクコレ一日モ早ク御發表相成予防的ニ御

處理ヲ希望スル所以ニ御座候今日ノ儘成行ニ任セ置候ハハ

益々野心家ノ蠢動妄挙ハ其根ヲ深クスルノミナラス彼支那人ノ増長相高シ遂ニハ滿州朝鮮ニ於ケル帝国ノ威信地ニ落

（別紙）

加藤首相 開下

實

（別紙）

加藤首相 開下

（別紙）

チ万事休スルノ状況ニ陥ルヲ保シ難クト存候別紙相添態ト私信トシテ表情ヲ吐露仕候段御賢察被下度若シ不明ノ点有之候ハハ御招喚次第上京ノ上親シク陳述仕様可致何分ノ御沙汰待上候

時下不順折角御自愛奉祈候 敬具

四月二十八日

帝國政府ハ東洋平和ヲ維持スル為此際特ニ滿蒙ニ對スル意見ヲ内外ニ宣明セラレタキ事

支那ノ現況ニ鑑ミルニ此際滿州ニ於テ猥リニ軍事行動ヲ取リ治安ノ妨害ヲ為スモノアレハ延テ滿鉄沿線租借地及朝鮮ノ治安ヲ攪乱スルニ至ルヘキヲ以テ帝國ハ自衛上已ムヲ得

ス兵力ヲ用ヒテ之ヲ鎮压セサルヘカラサルコトヲ内外ニ宣明シ之ヲ華府會議關係ノ列國ニ通知スルト共ニ一方支那政

## 理由

奉直再戦説ニ関シテハ各方面各種ノ情報アリテ其真相捕捉シ難シト雖現ニ吳佩孚ノ態度ニ鑑ミル處アリテカ張作霖モ極力戦備ヲ怠ラス又吳ハ今日ヲ以テ張ヲ討ツノ最好機ナリト思惟ナルカ如キ状勢顯著ナルニ於テハ兩者ヲ駆テ兵力ヲ交フルニ至ラシメサルコト之ヲ断言シ難シ況ノヤ臆病者流ノ無稽ナル虚喝ハ往々不慮ノ衝突ヲ見ルノ実例アルニ於テヲヤ

彼等一度衝突ヲ惹起センカ其勝敗ハ短時日ニ決スヘシト予想セラル之レ既ニ昨年ノ実例ニ徴シ疑ヲ容レサル処ナリ而シテ今回モ張作霖側ニ勝算少シトノ観察有力ナルカ如シ若

シ張ニシテ一朝敗北センカ東三省ノ状況ハ何人ニ依テ統治セラルルニモセヨ一大混乱ニ陥ルヘキコト明カナル所ニシテ馬賊モ不逞鮮人モ此ノ虚ニ乘シテ各々凶暴ヲ恣ニスヘク滿鉄沿線朝鮮国境ノ治安ヲ維持スルノ必要上帝國ノ出兵ヲ余儀ナクセラルルニ至ルヘシ

若シ此秋ニ当リ突然出兵ヲ實行センカ如何ナル理由ヲ以テスルモ諸外国ハ猜疑ノ念ヲ以テ我行為ヲ批難攻撃シテ止マサルヘク或ハ西比利出兵ノ二ノ舞ヲ演スルカ如キ結果ヲ招

従スルヤモ測ラレス加フルニ此間支那人ヲシテ輕挙妄動ノ限りヲ尽サシムルニ至ル等我對支政策上ニ不利ヲ釀スコト大ナリト信ス故ニ今ノ機會ニ於テ前述ノ如キ意見ヲ予メ外ニ宣明セラレ奉直再戦ノ如キ妄挙ヲ戒メ併セテ他日万一ノ場合ニ対スル保障タラシムルノ用意アルヲ要ス

二六一 八月二十二日

(在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

## 張作霖ハ曹錕ニ対シ直隸派力浙江ニ侵入ノ場

## 合ハ奉天側ハ断然対抗策ヲ取ル決心ナル旨申

## 送りタル件

第二六四号 (八月二十三日接受)

八月二十二日張作霖カ小官ニ語リタル處ニ依レハ最初齊變元ノ方ヨリ浙江ニ圧迫ヲ加ヘントセンヨリ浙江側ニテモ直ニ之ニ対スル相當ノ準備ニ取り掛リ同時ニ当地ヘ急ヲ報シ来レリ依テ東三省軍事當局者ヲ召集シ充分其対策ヲ協議シタル結果自分(張)ハ曹錕ニ向ケ万一直隸派ニ於テ浙江ヲ侵スカ如キコトアラハ奉天側ニ於テハ断然其対抗策ヲ取ル決心ナルヲ以テ右ノ通合ミ置カレタントノ意味ヲ申送リ我方ノ決心ヲ示シタル處曹ニ於テモ大イニ狼狽シタルト見エ

一昨日急遽特使ヲ洛陽ニ遣ハシ此際輕挙妄動セサル様訓令シタル筈ナリ尚自分モ盧永祥ニ対シ此際断シテ浙江側ヨリ挑発的行動ヲ取ルヘカラスト嚴重ニ申送リ置キタルニ付直隸側ニテ此上高圧的態度ニ出テナル限り今日ノ処時局ハ急ニ変化スルカ如キコトナカルヘシトノコトナリ

北京、天津へ暗送  
上海、杭州、南京、福州、廣東、漢口、哈爾賓、吉林へ転電

二六二 八月二十七日

(在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

## 浙江問題ニ対スル吳佩孚、總統府側ノ態度等

## 報告ノ件

第七三八号

往電第七二五号ニ關シ

其ノ後ノ情報ヲ綜合スルニ

(一)吳佩孚ハ總統府ニ対シ少クトモ盧永祥ヲシテ憾、楊兩部隊ヲ解散セシムルカ若クハ約一連隊ヲ止メテ他ヲ解散セシムルコトヲ得ハ吳ヨリ齊巡閱使ニ対シ前進中止方ヲ勧告スヘキモ然ラサレハ之ヲ中止セシムルニ由ナシ、奉天

方面ノ挙動或ハ恫喝ニ過ギサル可シトノ趣旨ヲ復電シ來レル由ナルカ一方總統府ヨリ洛陽ニ派遣セラレタル特使ノ報告ニ依レハ吳佩孚ノ態度甚タ強硬ニテ今更予期ノ行動ヲ中止スルニ由ナントテ寧ロ北京政府ニ於テ兵備整ヘリヤ否ヤヲ反問セリトノコトニテ總統府方面ニ於テモ曹ハ洛陽ノ意氣込ニ顧ミ今後ノ方策ニ就キ凝議ノ上大勢軍事行動ノ進行ニ傾キ必要ナル軍費ノ調達ニモ力ヲ尽スコトニナレリト云フ

(二)然ルニ一方張競仁カ岸田ニ語レル処ニ依レハ江浙問題今後ノ進展如何ニ依レハ種々ノ点ヨリ考慮ヲ要スモノアリ、即チ吳佩孚ト齊變元トハ内實意思ノ疏通未タ充分ナラス一方吳ト段祺瑞トノ感情ハ根本的ニハ惡シカラス吳ト盧永祥トモ多年ノ友誼アリ右等機微ナル關係ヲ顧念スルトキハ今後局面ニ意外ノ變化ヲ生シ来ルコトナントモ計ラレス只近來總統府側ノ威勢漸ク薄ラキツアルノ觀アルニ加ヘ吳ト總統府方面トノ感情モ兎角面白カラス動モスレハ吳ニ於テ懸引的乃至高圧的態度ニ出ツルノ傾ナシトセス昨今江浙問題ニ於ケル吳ノ態度トンテ伝ヘラル處ニ付テモ右種ノ内情ヲ含ミテ考究スルヲ要スヘシトノ

ムナリ

上海、杭州、南京、蘇州、奉天ニ転電シ天津、九江、廣東、漢口、長沙、福州へ暗送セリ

(奉天中継八月二十七日后五、三五)

一一一四 八月二十八日 在中国芳沢公使ヨリ 菅原外務大臣宛(電報)

江浙間ノ関係緊迫ニ対シ外交団トシテ外交部へ

警告文発送ノ件

別電

同日芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第七五一号  
右ニ閔スル英國公使立案ノ外交部宛共同通告書

第七五〇号

(八月二十九日接受)

浙江江蘇間ノ関係切迫セルニ鑑ニ此際昨年ノ例ニ倣ヒ日、英、米、仏四国公使ヨリ外交部ニ対シ警告書ヲ発スルコト致シタ旨二十七日付書面ヲ以テ英國公使ヨリ提議ノ次第アリタルヲ以テ二十八日右ニ同意ノ旨同公使ニ回答シ置キタル処他關係公使ニ於テモ何レモ之ニ賛同シ同日付ヲ以テ別電第七五一号ノ如キ英國公使立案ノ共同通告書ヲ發スルコトナレリ

上海へ転電セリ

一一一四 八月二十九日 在中国芳沢公使ヨリ

菅原外務大臣宛(電報)

江浙開戦ノ際我方ノ採ルベキ態度ニツキ意見

稟申ノ件

第七五四号(極秘)

(八月三十日接受)

浙江方面緊張ノ直接原因ハ臧楊軍ノ浙江遁入ニ在ルカ如キモ奉直戦争以来水炭相容レサル両派ノ關係カ常ニ今回ノ形勢ヲ挑リ居タルハ周知ノ事ナルト共ニ奉天ニシテ急ニ事ヲ構ヘサル以上財政窮迫セル北京政府ハ却テ平和ヲ希望シ一度開(脱)使者ヲ以テ吳佩孚ヲ説キタルモ浙江ヲ屠レハ結局奉天ヲ屈スルニ足ルト信シ居ル彼ハ此勧説ニ応セサルノミナラス逆ニ北京政府ヲ鞭撻シテ終ニ其意ニ服セシメタル傾アリ(往電第七三八号)時局カ急転直下セルハ全ク之力ニシテ今日トナリテハ曹錕始メ政府ノ要路ハ唯彼ノ意志ニ従フノ外殆ト策ナキモノノ如ク江浙ノ開戦ハ結局吳ト齊變元ノ結束如何ニ懸レル状態ナルヲ以テ支那ノ平和ヲ顧念スル諸外国カ北京政府ニ何等勸告ヲ試ムルコトアリトスルモ其効果甚タ疑ハンク従テ当地外交団トシテモ戰爭防止ヲ討議スル迄ニ至ラス漸ク英國公使ヨリ上海ヲ交戦区域外

(別電)

八月二十八日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第七五一号

英國公使立案ノ外交部宛共同通告書

第七五一号

We, the undersigned Representatives of Great Britain, Japan, France and the United States, learning of the grave danger of hostilities breaking out between these provincial authorities of Kiangsu and Chekiang, feel it our duty to remind the Chinese Government of the terms of the communication addressed by us to you on August 11, 1923, and to repeat and affirm in the most solemn manner the declarations contained in that communication regarding the obligations of the Chinese Government in the present crisis to prevent loss of life and property to members of the foreign community in and around Shanghai.

Yoshizawa

ニ置カムトスル提議アリ本使ハ固ヨリ出来得ヘクムハ戦争ヲ阻止シタキ所存ナルモ前陳ノ通り時局ノ中心ハ急轉北京ヲ去リ機ヲ見ルニ甚タ便ナラサルコトナリ且篤ト考慮スルニ前回ノ奉直戦争ハ極メテ不徹底ナリシ為爾來形勢常ニ混沌タリシ次第ニ付今回ハ成行ニ委セ飽迄両派ヲシテ徹底的ニ戦闘セシムルコト然ルベシトハ一般ノ觀察ナルカ如ク旁々本使トシテモ往電第七五〇号所報ノ如ク右ノ提案ニ贊同スルニ止メタル次第ニシテ外交団トシテモ今後恐ラク右以上ノ措置ニ出ツルコトナカラムカト推セラル(八月二十九日英國公使ト時局ニ閔スル会談ヲ為シタル節同公使モ此上ハ上海ヲ安全ナラシムル程度以上ニ戦争阻止ノ手段ヲ執ルコトナク直隸及反直ノ両派ヲシテ徹底的ニ戦争セシムル方然ルベシトノ意見ニテ彼我ノ意見一致シタリ)而シテ江浙若シ開戦スルニ至ラハ張作霖ノ作動ハ到底免ルヘカラサルヘシトノ意見ニテ彼我ノ意見一致シタリ)而シテ江浙若シ開戦スルニ至ラハ張作霖ノ作動ハ到底免ルヘカラサルヘキコト奉天總領事ノ報告(本省宛第二六八号電報)ニ徵スルモ略々明ナル處ニシテ總統府ノ如キモ此点ヲ心配シ居ルモノト見ヘ往電第七五三号所報中日実業ニ借款申込ノ際日本ニ於テ張ノ南下ヲ阻止スベキ輿論ヲ喚起スル様民間有力者ニ運動方ヲ(脱)セル趣ナルカ我政府トンテハ此配シ

旨ノ勧告ヲ彼ニ試ミムカ彼ハ勿論盧永祥其他反直派一派ノ恨ヲ買フヘキハ当然ニシテ又必シモ彼ノ聴從スル処トナラサルヘク場合ニ依リテハ我体面上実力ヲ以テ臨マサルヲ不偏不党ヲ宣言シテ成行ヲ観望スルコト適當ナルヘキモ若シ張ニシテ敗北スルカ如キコトアラムカ東三省ハ一大紛乱ヲ來スコト火ヲ睹ルヨリ明ナルカ故ニ内密彼ニ便宜ヲ与へ少トモ現在ノ勢力及地位ヲ失ハシメサルコト我利益ノ保存及進展上肝要ノコト思考セラルニ付此点ニ関シ予メ廟議ヲ決定シ置カルル様致シタク此段不取敢稟申ス

奉天、天津、上海、南京ニ暗送シ奉天ヨリ閔東庁へ暗送セシメタリ

二六五 八月三十日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

江浙交戦ハ最早必至ナル旨ノ孫潤宇談報告ノ件

第七六六号 （八月三十一日接受）  
國務院孫秘書カ極秘トシテ池部ニ語リタル所ニ依レハ江浙戰ハ最早免カレサル運命ニアリ昨今和平運動高マリタルモ帰シ直隸派ニ対シ一擊ヲ加フルコトヲ得タリトセハ成ルヘク段祺瑞ノ再起ヲ促シ張ヲシテ彼ヲ表面ニ起タシムル様後援ヲ与ヘシムル如キ形勢ヲ誘導馴致スルノ策ヲ講スヘシ尤モ此場合ニ於テ英米ハ必ス呉佩孚ノ失脚ヲ防止センカ為メ何等カノ口実ヲ設ケテ居中調停ノ態度ニ出ツヘキ虞アルニ依リ我方トシテハ斯ル氣配ヲ看取シタル際ハ寧ロ機先ヲ制シテ兩者ノ調停ヲ計リテ直隸派ノ滅亡ヲ防止シ以テ我方カ将来ニ亘リ段派乃至奉天派ヲ牽制シ得ルノ余地ヲ残シ置クトコトハ一策ナランカ、之ニ反シ万一張作霖カ敗戦シタル場合若シ直隸軍カ遼河以東ニ侵入セントスルカ如キ形勢ナルニ於テハ帝国政府トシテハ満蒙ニ於ケル我利害關係ノ極メテ甚大且緊密ナルモノアルヲ中外ニ闡明シ苟モ當方面ニ於ケル秩序ヲ紊乱シ我經濟上ノ發展ニ対シ何等カノ妨害ヲ來スカ如キ行為ハ到底默視シ得ヘカラストノロ実ノ下ニ直

結局無効ナル可シ齊巡閱使ノ主戦説最激烈ニシテ吳佩孚ハ寧ロ調停者タルモ和平ハ二分ノ希望ヲ余スニ過ギス齊ハ浙江トノ戰争早晚免カレサルヲ確信スルヲ以テ浙江ノ準備時代即臧楊ノ軍備全カラサルニ乘シ機先ヲ制シテ盧及何豊林ヲ倒サン事ヲ深ク決心セルモノナリ吳ト齊トハ戰後齊ハ上海ヲ吳ハ浙江ヲ略スル黙契ニテ南方ノ軍事ハ齊ニ一任シ吳ハ專ラ奉天方面ニ對スル防備ヲ担当スル事ト決シ江蘇軍万不利ノ場合ハ吳ハ隕海鉄道ヲ利用シ三日ニシテ大兵ヲ戰場ニ達セシムル成算ナリ云々

御参考迄

上海、南京、蘇州、杭州、奉天、福州へ転電シ廣東、漢口、九江、天津へ暗送セリ

二六六 九月四日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

奉直開戦ニ際シ張作霖ノ勝敗ヲ想定シ我方ノ執ルベキ態度ニツキ意見上申ノ件

第二七五号 極秘 （九月五日接受）  
時局ニ關シ江浙間ニ開戦ヲ見ルトモ今日ノ處直ニ張作霖カノナリトテ支那ハ勿論諸外國ニ於テ種々ノ宣伝ヲ試ミ何等カノ形式ニ於テ我ヲ圧迫スルノ態度ニ出ツルナランモ左リトテ支那ノ為ニ實力ヲ以テ我ニ臨ム迄ノ決意ハ有ラサルヘシ故ニ我方トシテハ飽迄モ利害ノ甚大ナルモノアルヲ闡明シ断乎タル態度ニ出ツルモ敢テ憚ル処ナキニ非サルカ之ヲ要スルニ帝国政府カ萬一張作霖カ敗戦シタル場合ニ前記ノ如キ措置ヲ執ラルルノ御決心アルニ於テハ張ノ敗戦亦必シモ我ニ不利ナラス當地限りトシテハ却テ最近著シク濃厚トナリ来レル當方面ノ利権回収運動ヲ制御シ之ヲ操縦スル上ニ於テ却テ便宜ナル事態ヲ現出シ得ヘク右ハ張作霖ニ代フルニ直隸派ヲ以テ東三省ノ首脳ト為スヨリモ遙カニ有利ナランカ惟フニ英米ヲ背景トスル直隸派ノ横暴ニ対シテハ或程度迄奉天派ヲシテ牽制セシムル外途無カルヘシト思考セラル就テハ本件ハ在支公使発閣下宛電報第七五四号ト併セ予メ廟議ヲ決定シ置カルル様致シタク御参考迄敢テ卑見

申進ス

在支公使へ転電シ閩東長官ニ暗送セリ

二六七 九月五日 児玉閩東長官ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

江浙戦ノ推移ニ伴イ張作霖出動ノ場合ニ於ケ

ル我方ノ利害関係ニツキ私見開陳ノ件

第七二号

江蘇、浙江両軍間ノ衝突ノ端ヲ開キタルニ伴フ奉天側ノ態度モ最近頗ル緊張シ来レル處張氏ノ行動ニ對スル我方ノ利害關係ヲ考察スルニ

(一)張氏カ自ラ進テ閩外出動ヲナサントスルニ當リ我方カ無關係ノ態度ヲ取ルニ於テハ張氏ノ勝敗何レニ帰スルモ其以後我方ニ對スル態度ハ甚タ不利ナルモノナルヘキハ想像スルニ難ラス故ニ此際張氏カ大ニ自重シテ動カス専ラ東三省ノ保境安民治安ノ維持ニ努メンコト同氏ノ為又帝國ニ取リテモ最モ望マシク之又帝國政府ノ從來ノ方針ニ一致スル次第ナルニ付適當ノ時機ニ張氏ニ自制自重ノ勧告ヲナスコト肝要ナルヘキモ

(二)若シ張氏カ我方ニ聽クトスレハ其地位ノ安固ヲ図ルノ必

要上我方ニ對シ武器ノ供給並必要ノ場合ニ実力援助ニ付

充分確タル保障ヲ要求スルニ相違ナク

(三)或ハ張氏ニ於テ四匪ノ事情ニ迫ラレ我勸告ニ聽カスシテ飽迄閩外出動ヲナサントスルニ至ル場合モ有之ルヘク

(四)又他日若シ吳佩孚齊燮元側ニ於テ勝利ヲ得テ大勢ヲ支配スルノ位置ニ立チタル曉ニ於テハ必スヤ鋒ヲ転シテ東三省ニ臨ミ張氏ノ軍ヲ一蹴セントスル機運ヲ生スルコトモ想像セラル

就テハ之等ノ時局ノ推移ニ依リ帝國政府ノ大体方針ニ付テハ慎重ニ御考量相成リ居ル儀トハ存スルモ廟議決定ノ上ハ本官参考迄ニ何分ノ儀御示シ相成様希望ス

二六八 九月六日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

五国外交團ヨリ外交部宛ニ黃浦江及ビ其ノ河口ニ於ケル戰鬪行為禁止並ビニ上海中立問題

ニツキ共同通牒發出ノ件

第七九三号 (九月七日接受)

九月五日日英米仏伊代表者伊國公使館ニ会合ノ結果外交部宛共同通牒ヲ發スルコトトナリタルカ該通牒ハ其ノ冒頭ニ

於テ支那側カ過般關係國代表者ノナシタル言明ヲ誤解シ居レルコトヲ指摘シタル上關係國代表者ノ趣意ハ黃浦江及其ノ河口ニ於テ開戦ヲナスコトヲ許シ難キコト万一千スカル戰爭行為アル場合ニハ事ヲ防止スル為或ハ強制手段ニ出ツルコトアルヘキ旨ヲ警告シタル次第ナルヲ述ベ更ニ外交總長ノ回答中ニハ上海及其ノ付近並黃浦江ノ中立問題ニ何等言及シ居ラサリシヲ遺憾トスル旨記載セルモノニシテ今明日中發送ノ筈ナリ原文郵送ス

上海ニ転電セリ

二六九 九月七日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ハ日英米獨各國領事ニ對シ直隸側ノ攻勢ニヨリ已ムナク出動開始ノ旨並ビニ外人保護ニツキ声明ノ件

(無番号)

第二八四号

九月七日張作霖ハ日英米獨ノ各國領事(米國領事ハ過日來奉中ナリ)米國陸軍武官ト共ニ山海關ニ赴キ不在ノ為其代理トシテ副領事出席ノ來會ヲ求メ大要左ノ通声明セリ

自分ハ之迄專ラ保境安民ノ為ニ尽力シ來タリシモ今回直隸

二七〇 九月八日 児玉閩東長官ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖、松井大佐ヲ派シ直隸派トノ對戰決意  
ト日本ノ援助要望ノ件

(無番号)

張作霖ハ本月八日軍事顧問松井大佐ヲ本職ノ許ニ特派シ要旨左ノ如キ書面ヲ送リ來レリ  
「自分ハ日本ノ忠告ニ從ヒ今日迄自重忍シ居リシニ今ヤ直軍ハ浙江ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ奉天ニ對シテモ山海關方面及熱河方面ニ積極的活動ヲ開始シタル為自分ハ東三省ノ治

安維持ニ任スル職責上自衛ノ手段ニ出テサルヘカラス右ニ  
対シテハ貴国人モ同情ヲ表セラル所ナラン、貴官モ充分  
ナル助力ヲ与ヘラルコトト信ス云々」

尚松井大佐ヲシテ自分（張）ハ日本ノ忠告ヲ尊重シ過日來  
冷静自重ノ態度ヲ持続シ浙江問題發生後ト雖飽迄平和ノ解  
決ヲ希望シタルモ直隸派ノ態度ハ自分ノ期待ニ背キ浙江ニ  
向ツテ攻撃ヲ開始シタル而已ナラス奉天ニ對シテモ進撃シ  
来ラントスルニ至リ此ノ上ハ奉天モ自衛上必要ノ手段ニ出  
テサル能ハス、防禦ノ目的ヲ以テ山海關及熱河方面ニ兵ヲ  
進ムル筈ナルカ之レ全ク敵人ノ侵入ヲ防止スル為已ムヲ得  
サルノ挙ニシテ毫モ直隸ニ向ツテ侵略ノ意図ナシ、此ノ点  
日本當局ニ於テモ充分ニ諒察ノ上援助ヲ与ヘラレタク尚直  
隸派ノ背後ニ某国アルコトヲ考量ニ置カレタキ旨申添ヘシ  
メタリ、張作霖ハ此ノ際日本ノ積極的援助ヲ切望シ居ルコ  
トハ推測ニ難カラス

總理大臣、北京公使ヘ電報ス

二七一 九月九日 児玉閏東長官ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

軍隊輸送ニ關シ急速ヲ要スルモノハ領事ニテ

措置シ直ニ関東長官ノ追認ヲ受ケラレタキ件  
第八〇号 本官發長春宛電報

第七九号

貴電第一三号軍隊ノ輸送ノ件承認ス尚此種ノ輸送ニシテ急  
速ヲ要スルモノハ差当リ貴官ニ於テ措置シ直ニ本官ノ追認  
ヲ受ケラレタシ

二七二 九月九日 在長春西領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

特殊事情ナキ限り今後中國軍隊等ノ輸送ハ領  
事限リニテ承認ヲ与工閏東長官ノ追認ヲ求ム  
ルコト致シタキ件

第五一号

本官發閏東長官宛電報

（第一四号）

三姓駐屯第六旅歩四十八團全部（機関銃隊迫撃砲隊各一連  
ヲ含ム）將卒二三九八步銃二三〇三同弾六二七〇〇発、拳  
銃五七同弾四八〇〇機関銃六迫撃砲六砲弾六〇〇馬九三、  
被服九〇〇馬具八五糧秣九〇袋、炊事具一二〇軍器八五〇、

雜機械四四〇、緩爐一三〇通信及衛生材料各一五個（リュウ  
團長指揮ノ下ニ明十日ヨリ三日間ニ亘リ長春ヨリ奉天迄汽車輸  
送承認方支那側ヨリ申出アリ右ハ一部出動スヘキ奉天第六  
旅ヘノ補充ノ為ナリトノ事ナル處時局ニ際シ此種申出ハ今  
後共相當之レ有ルヘクト思考サルル処從来當地ニ頻起セル  
支那兵ノ不法事件ハ移動軍隊ノ當地滯留中惹起セルモノ大  
部分ナルニ付彼等ヲ出来得ル限り迅速ニ當地ヨリ出發セン  
ムルコト緊要ト存セラル就テハ特殊事情無キ限り今後此種  
支那軍隊等ノ輸送ハ本官限り承認ヲ与ヘタル上貴方ヘ電報  
スルコトト致シタク差支ヘ無カルヘキヤ何分ノ儀御回電相  
成度シ

二七三 九月十日 在上海矢田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

江浙兩軍ノ衝突ニ對シ租界ノ治安維持ノタメ

必要手段ヲ執ル旨ノ工部局告示報告ノ件

第二六八号 上海共同租界工部局ハ九日付ヲ以テ左記二種ノ告示ヲ發表  
セリ

一、当地租界付近ニ於テ江浙兩軍ノ敵對行為行ハルニ至  
レルコト

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 二七三 二七四

帝國政府ハ今回江蘇浙江兩軍ノ兵火ヲ交ユルニ至レルコト  
十三年九月十二日閣議決定

ヲ遺憾トシ此ノ上ハ動乱地域ノ成ルヘク局限セラレムコトヲ切望スルモノニシテ殊ニ満州地方ノ平靖ハ我ノ最重要視スル所ナリト雖帝国トシテハ差当リ傍観ノ態度ヲ執リ追テ満州ノ秩序紊乱スルカ如キ場合ニ処スヘキ方針ニ付テハ形勢ノ推移ニ応シ更ニ決定スヘシ

(欄外註記)

注意 傍観ノ態度トアルハ不干涉ノ意味

二七五 九月十二日 在中国芳沢公使(ヨリ)  
幣原外務大臣宛(電報)

上海中立問題ニ関スル在北京外交團ノ再度申入レニ對シ外交總長ヨリ英國公使ノ私見問合

セノ件

第八〇〇七号

往電第七九三号ノ共同通牒ハ七日付ニテ発送セラレタルカラニ関シ六日外交部員總長ノ命ニ依リ英國公使ヲ來訪シ黃浦江等中立問題ニ關シ中央政府トシテハ(一)吳淞砲台ノ武装解除、(二)黃浦江ニアル浙江側軍艦ノ武装解除、(三)江南機器局及竜華火薬製造所ノ閉鎖、(四)中立地帶ニ於ケル軍隊ノ撤退若クハ武装解除、(五)武装軍隊若クハ軍需品ノ中立地帶通

過禁止ヲ必要条件ト思考シ居レリトテ之ニ對スル同公使ノ私見ヲ叩キタルヲ以テ同公使ハ單ナル私見トシテ(一)、(二)、(三)及(四)ノ如ク砲台、艦隊、軍隊等ノ武装解除ヲ云々スルハ其必要無キカ如シ、若シ浙江側ニシテ此種ノ提議ヲ考慮スルニ同意セハ一定期日ヲ定メテ其軍隊軍需品ノ搬出ヲ許シ其期日後ハ之ヲ抑留スルコトトスヘク(五)ハ差支無キカ如ント答弁シタル由ナルカ十日定例接見日ニ英國公使ハ本件ノ成行ニ關シ顧維鈞ニ尋ネタルモ目下齊變元ノ意見ヲ徵シツツアリト答ヘタル趣ナリ、尤モ英國公使ハ北京政府ノ意見ハ理由無キニアラスト認メラルヲ以テ右ノ如キ申出アレハ浙江側ヲシテ之ヲ承認セシムル為斡旋ノ労ヲ執ル様領事團ヲ指揮スルコト適當ナルヘシトノ意見ヲ有スルカ如キモ多少ナリトモ浙江側ヲ圧迫シ然モ上海以外ノ地域ニ迄亘リテ武装解除ヲ行ハントスルハ諸般ノ關係上面白カラサルヤニ存セラルニ付本使トシテハ北京政府ヨリ前記ノ如キ条件ノ申出アリタル節ハ之ヲ浙江側ニ取次クニ止メ広汎ナル中立要求ハ此上強ク主張セサルコトトシ實際ハ黃浦江上ノ戰闘ニ關シテハ武力ヲ以テ之ヲ阻止スヘキモ吳淞及上海付近ニ於テハ陸上ノ戰闘ニ就テハ若シ外国人ノ生命財産ニ危

陥ヲ及ホスカ如キ場合ニハ之ヲ支那側ノ責任ナリトスル從来ノ主張ヲ固持スル程度ニ止メ置クコト可然トノ意見ナルニ付御承認置キアリタシ

上海、南京、杭州ヘ転電セリ

二七六 九月十二日 在中國芳沢公使(ヨリ)  
幣原外務大臣宛(電報)

奉直交戦ノ場合ニ於ケル英米側ノ動向予測並ビ

二我方ノ執ルベキ態度ニツキ卑見上申ノ件

第八一三号(極秘)

(九月十三日接受)

在支英國公使ハ先般本使ニ向シテ支那ノ内乱ハ「ファイトアウト」セシムルヨリ外ナキコトヲ語リ又本月十日会談ノ際モ當時「ロイテル」通信カ支那ノ秩序及平和回復ヲ目的トスル列國ノ協調的行動ヲ惹起センカ為メ英米両國間ニ目下意見ノ交換行ハレ居ル旨ヲ報シタルニ關シ斯ノ如キ行動ノ成功ヲ疑ヒ何レノ国モ併壊ノ事業ハ武力ニ依ラサルモノナク今回ノ内争ノ如キモ呉佩孚カ着々併壊ノ歩ヲ進メツツアル一部ト看做スヘク之ヲ中止スルハ全國統一ヲ阻害スルモノナリトノ趣旨ヲ語リ居リタルモ蘇浙ノ戰局ハ一張一弛容易ニ決定的勝敗ヲ見サルニ拘ハラス上海地方ノ外人方面

ハ頗ル神經ヲ高メ動モスレハ輕拳支那ノ主權ヲ無視スル行動ニ出ントスル傾向アリ且同地方英米商会ハ各々本国ニ干渉ヲ促ス為メ秘密ニ運動シ居ルヤノ情報モ存在シ又前駐支英國公使「ジョルダン」ノ如キハ各國共同シテ蘇浙ノ督軍ヲ上海ニ會議セシメンコトヲ勧奨シ英國ノ輿論ハ之等ニ刺戟セラレタル為メカ最近頻リニ干渉ヲ論スルニ至リタル趣ナルニ依リ同地方ノ交戦區域拡大スル場合ハ勿論現状ノ儘ニテモ戰爭永引クニ於テハ英國政府ハ現在ノ中立提議ニ満足セス進テ揚子江及鉄道等ノ中立ヲ提議スルカ又場合ニ依リテハ進テ一種ノ干渉ヲ試ムルナキヲ保セス而シテ米國政府ノ如キ在米代理大使往電第六六七号所報ノ事實アリトスルモ英國ノ勸誘アルニ於テハ或ハ之ニ賛同スルコトナキヲ保セサル所戰局カ拙電第七九七号所報ノ通り更ニ北支那ニ延ヒ奉直愈々交戦スルニ至ラハ一層米國ノ活動ヲ刺戟スルモノト見ルヘキ理由アリ

蓋シ反直派ノ勝利ニ伴フ日本ノ勢力増進ヲ予想シ嫌惡スルモノニ取りテハ過去ノ奉直戰ニ比シ奉天ニ有利ナル現時ノ形勢ハ必スヤ相當憂慮ノ原因タルヘキト且又然ラサル迄モ交戦ノ性質ハ純然中央的トナリ各国ノ利害ニ影響スル所頗

ル大ナレハナリ而シテ仮リニ米國ノ内情ヲ參酌センカ上記ノ外同國ニ於テ支那ニ平和ヲ与フル美名ハ現下ノ選挙競争ニ共和党ノ利用スヘキ好材料ナルヘク之ニ華府条約ノ遠因等モ加ハルニ於テハ同國カ何等カ行動ヲ開始スルカ如キハ有リ得ヘキコトナルヤノ感アリ故ニ本使ノ（私?）見ヲ以テスレハ英米政府カ現実意見ノ交換ヲ始メタルト否トニ関セス帝国政府トシテハ諸般ノ場合ヲ慮リ予メ之ニ処スヘキ方針ヲ決定シ置カルルコト極メテ必要ノ儀ト存ス惟フニ支那ノ統一ハ單ニ支那国民而已ナラス諸國ノ齊シク望ム所ナルモ或ハ議会政治ト謂ヒ或ハ連省自治ト謂ヒ人民ヲ基礎トセル政治ヲ以テシテハ容易ニ之ヲ遂ケ得サルヘク結局不世出ノ英雄ヲ得テ專制政治ヲ断（行）セシムル外策ナカラムモ斯ノ如キハ論外トシテ姑ク之ヲ措キ差当リ現下ノ情勢ヲ以テ推スニ外國ニシテ徹底的ニ干渉スル場合ハ兎ニ角居中調停乃至生温キ干渉振リニテハ到底干戈ヲ収メシムルヲ得サルハ明白ナリトス殊ニ曩日ノ奉直戦争ハ未タ雌雄ヲ決スルニ至ラスシテ了ハリ両派勢力ノ消長ニ格別ノ影響ヲ与ヘサリン為メ依然争ヲ後日ニ貽シタル次第ナルニ依リ一時ヲ糊塗スルカ如キ干渉ニテハ別段ノ効果ナキカ故大

カ如キ事態ヲ生センカ滿州ハ重大ノ動搖ヲ免レサルヘキヲ以テ我ハ獨力ニテ事態ヲ處理スルノ覺悟ヲ要ス要スルニ今回ノ戰争ニシテ奉直戦ハスシテ軍ヲ収ムルカ又ハ戦フモ決戦ヲ見シテ終ル場合ハ勿論直隸派ニ不利ノ形勢現ハル場合ニ於テモ我ハ努メテ外國ノ調停又ハ干渉ヲ妨止スルコト必要ニシテ此理論ハ自然江浙ノ交戦ニテモ同様ナルヘシ揚子江ノ如キ黃江下流ノ中立ハ可ナリトスルモ鐵道ノ中立ハ共同管理ヲ招致スヘキ廣アルカ故ニ容易ニ贊成スルヲ得殊ニ其效果ヲ満鉄ニ及ホサントスルカ如キ場合アルニ於テハ絶対ニ反対スヘキモノト思考スルニ付政府ニ於テモ予メ研究シ置カレ度シ卑見一応御参考迄上申シタル次第ナリ奉天漢口天津廣東へ暗送シ閔東庁へハ奉天ヨリ暗送セシメタリ

二七七 九月十二日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

奉天軍出動説等ニヨリ人心動搖ノタメ軍憲ヲ以テ治安ヲ維持スル旨ノ非常令發布ノ件

（九月十三日接受）

滿鉄ニヨル奉天軍ノ軍隊及ビ武器輸送二閻ス

第八一四号

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦

二七七 九月十二日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

滿鉄ニヨル奉天軍ノ軍隊及ビ武器輸送二閻ス

二七八 九月十二日 在長春西領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

七日討伐令ノ公布ニ引続キ奉天軍出動説伝ハリ殊ニ奉直再戰ノ曉奉天軍ハ飛行機ヲ以テ北京ヲ襲撃スヘシトノ謠言ハ痛ク人心ヲ刺戟シ中秋節金融切迫ノ声ト和シテ稍々人心ニ動搖ヲ來シタルヲ以テ衛戍司令王懷慶ハ十日付布告ヲ以テ目下時局不安人心動搖ノ為大總統ノ令ヲ奉シテ暫ク軍憲ヲ以テ治安ヲ維持スル旨ノ非常令ヲ發布シ即日先日來紛擾ヲ醸シツツアリタル北京第一中学ニ対シ治安紊乱ノ廉ヲ以テ解散ヲ強制スル一方教育部ニ対シテモ時局中官公立諸学校ノ厳重ナル監督ヲ知照シタル外歩軍統領憲兵司令其他ノ軍憲ヲ招致シテ治安維持ニ関シ協議シタル結果先ソ匪類ノ潛入伏在ヲ防止スル為各停車場旅館並妓樓等ノ出入ヲ嚴密監視スルコト消防隊ニ不時出動ノ準備ヲ命シ火災ヲ予防スルコト夜間城内外ノ警備ハ從来ノ巡警ノ外武装シタル遊撃隊ヲ増派シテ巡察セシムルコト等ヲ決議实行シソツアルカ折柄ノ中秋節前ニ拘ラス市況ハ一般ニ寂寥ヲ極ム

奉天ヘ転電シ天津へ暗送セリ

体ニ於テハ寧ロ決勝点ニ到着スル迄拋擲シ置クヲ可ナリト信ス尤モ今回ノ内乱ニシテ異常ナル發展ヲ遂ケ收拾スヘカラサル形勢トナルハ勿論外國人ノ生命財産危殆ニ瀕シ黙過ニシテ形勢非ナルニ至ランカ或ハ外國ノ調停又ハ仲裁ヲ求ムル（ニ）至ルヘク現ニ顏恵慶ノ如キ時局ノ收拾ハ真ニ同情アル外國ノ調停ニ待ツ外ナク輓近英米ノ対支同情滅退セルニ顧ミ此上ハ特殊關係アル日本ノ同情ニ待タサル可ラス

シ難キ場合ニ於テハ自ラ特殊ノ考慮ヲ要スヘシ將又直隸派ニシテ形勢非ナルニ至ランカ或ハ外國ノ調停又ハ仲裁ヲ求ムル（ニ）至ルヘク現ニ顏恵慶ノ如キ時局ノ收拾ハ真ニ同情アル外國ノ調停ニ待ツ外ナク輓近英米ノ対支同情滅退セルニ顧ミ此上ハ特殊關係アル日本ノ同情ニ待タサル可ラス

トノ意見ヲ有スト伝ヘラル又顧維鈞ノ如キハ現ニ往電第七五六号所載ノ如ク米國ノ力ニ依ラント計画シ居ル情報モ存在スル次第ナルニ依リ米國ノ如キカ之ニ乗スヘキハ極メテアリ得ヘキコトト云ハサルヘカラズ我國カ英米ニ追随シテ平和ヲ強ユルカ如キ場合ニ於テハ直隸派現時ノ對日態度ハ何等改善セラレサル上ニ反直派ノ怨ヲ買ヒ滿州ニ於テハ張作霖ノ反感ニ依リ不利ヲ蒙ルコト必然ナルヘク又顏ノ意見ノ如ク我國ニ干渉ヲ求メ來ル場合ニ於テモ我ハ十分成算アル場合ノ外寧ロ華府条約ノ精神ヲ楯トシテ可成不干渉ヲ主張スルコト得策ナルヘク尚奉天軍失敗ノ場合ニ於テハ恐ラク英米諸國ハ傍観スヘキ處直隸軍ニシテ長驅遼河ヲ超ユル

第八一四号

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦

二七八 九月十二日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

滿鉄ニヨル奉天軍ノ軍隊及ビ武器輸送二閻ス

第八一四号

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦

二七八 九月十二日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

## ル閏東長官ノ措置振ニツキ経伺ノ件

第五三号（至急極秘）

（九月十三日接受）

昨十一日大連満鉄本社ヨリ長春鉄道事務所ニ使者來リ今後奉直關係ニテ奉天軍ノ軍隊及武器輸送申出アリタル時ハ領事ノ承認ヲ要セス又運賃後払ニ関シ奉天満鉄公所ヨリノ指令ヲ待ツラ要セスシテドンドン輸送差支ナシトノ命ヲ伝ヘタリト謂フ右ハ當地鐵道事務所長ヨリ極秘内聞スル所ナルカ所長ノ談ニ依レハ數日前閏東長官満鉄社長ヲ訪問シ本件打合アリ（何レヨリ提議アリタルモノカ不明）次テ去ル十日重役會議開カレタルニ重役間ニハ反対モ多カリシカ結局社長ヨリ社長及閏東長官ニ於テ全責任ヲ引受クルニ付右ノ通リ取扱フヘシトノコトニテ昨日使者ノ來長ヲ見タル次第ナル趣ノ所本件指令ハ全然文書ニ依ラサルコトトシ又閏東府ヨリハ使者モ派遣セサル由ニテ當地閏東府警務署ニ於テモ何等承知セス尚當地満鉄側ヨリハ右（ノ）旨支那側ニ伝達スルヲ要セストノコトナリシ云々

今次ノ軍隊及武器輸送ニ付テハ本官発閏東長官宛電報第一四号及長官発本官宛電報第七九号写ニテ御承知ノ通り至急ヲ要スル場合ハ領事ノ独断ヲ以テ承認シ後追認ヲ受クルコト

トニ打合ヲ了シ居リ右ニ依リ何等不便ヲ感スル所ナキニ長官ハ何故何等當方ニ通知ナク規則ヲ無視シタル措置ニ出テ

タリヤ殆ト了解ニ苦シム所ナルモ右ハ何等カノ高等政策ニ奉天本部ノ命ニ依リ當地ヨリ無承認輸送ヲ為サントスル取極メタルモ本件ハ主義上ノ問題トシテ而已ナラズ支那側カ奉天本部ノ命ニ依リ當地ヨリ無承認輸送ヲ為サントスル場合面倒ナル問題トナルヘク就テハ本官自ラ閏東長官ト交渉スヘキヤ今後執ルヘキ態度ニ関シ何分ノ儀至急御回訓アリタシ

尚本件出所ニ付テハ当分絶対秘密ニ付セラレタシ  
公使奉天ヘ転電シ鉄嶺遼陽牛莊安東ヘ暗送セリ

二七九 九月十二日

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

## 奉天軍ノ軍隊及ビ武器ノ無条件輸送ノ指令事

（九月十三日接受）

本官発閏東長官宛電報

第八四号 極秘

本官ノ仄聞スル処ニ依レハ時局ニ関シ奉天軍ノ軍隊及武器輸送申出アリタルトキハ當該事務官ノ承認ヲ要セスドンドン輸送差支ナキ旨満鉄本社ヨリ鉄道事務所ニ特使ヲ以テ指令シタルヤノ趣ナルカ右事実ナルヤ、若シ事実ナリトスレハ右ハ閣下ニ於テ御承認ヲ与ヘタル次第ナルヤ、本官心得迄ニ御回電ヲ乞フ

大臣、公使、長春ニ転電シ鉄嶺、遼陽、安東へ暗送セリ

二八〇 九月十三日

幣原外務大臣ヨリ  
在中國芳沢公使宛（電報）

## 駐日米代理大使ヨリ中國動乱ニ対スル我方ノ

観測ニツキ打診並ビニ今後ノ对中国政策ニツ

キ日米間ノ意見交換方申合セニ関スル件

第五六五号

九月十日米国代理大使來省本国政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ今次支那動乱ニ対スル本大臣ノ観測ヲ問ヒタルニ付キ本大臣ハ從來諸般ノ情報ヲ綜合スルニ直隸派ニ於テハ（）有力者間ニ必シモ完全ナル意思ノ疏通アルニアラサルカ如ク又（）水害ノ結果軍事行動ニ不便ナルノミナラス（）軍資金欠乏ノ事情モアリ他面奉天側ニテハ（）文治派及省議會ト武断派

トノ態度必スシモ一致セス又（）直隸派ノ使嗾スル馬賊等力虚ニ乗シテ蜂起スルノ虞アリ加フルニ（）目下高梁ノ収穫期前ニ当リ作物ヲ荒スカ如キ軍事行動ハ官民共ニ之ヲ欲セス此等ノ事情ハ自然直隸派奉天派共ニ最後ノ決心ヲナスヲ妨クルノ原因トナリタルヤニ觀察セラル尤モ江浙戰局ノ現状ニ関スル情報一般ニ不確実ニシテ又今後ノ發展ニ至リテモ今ヨリ的確ナル判断ヲ下スコト困難ナリト告ケタル處代理大使ハ米国政府ノ観測モ貴大臣ト同一ナリト述ヘタリ次ニ本大臣ハ日本トシテハ動乱ノ拡大セサランコトヲ切望シ殊ニ五一滿州方面ニ波及スルニ於テハ帝国ノ同方面ニ於ケル莫大ナル権利利益カ危險ニ曝露スルニ至ルヘキコトヲ憂慮スルモノナルコトヲ述ヘタル後從来當國ニ於テハ米國カ吳佩孚ヲ支持スルモノノ如キ風説支那方面ヨリ伝ハリ一般公衆中ニハ之ニ迷ハサルモノ渺ナカラサルノ事実ニ言及シタル處代理大使ハ元來吳ハ利己ノ念強ク毫モ愛國ノ誠意ナク到底支那ヲ統一スルノ声望又ハ實力ナキノミナラス仮ニ吳カ一時成功スルモ必ス直ニ内訌ヲ生スヘキハ明ナリ從テ米国政府カ何等吳支持ノ政策ヲ執ルカ如キハ思モ寄ラサル次第ニシテ米国ノ輿論モ亦斯ノ如キ政策ヲ予想セサルコト



## 長官ト領事ノ承認ヲ要スル旨訓令ノ件

第一八号（至急）

貴電第五三号ニ関シ

目下ノ時局ニ関連シ満鉄ノ支那軍隊及軍需品輸送ハ別ニ何

分ノ儀申進スル迄從来ノ例規ニ従ヒ其ノ都度閏東長官乃至

貴官（最近同長官ト貴官ト打合ノ通り）ノ承認ヲ経ルヲ要

スルコト致度ニ付右ニ御含ノ上同長官ト打合ヲ遂ケラレ

タシ

右貴電通リ転電アリタシ

二八五

九月十五日

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

## 朝陽ニ於テ奉直兩軍衝突ニツキ報告ノ件

第三〇二号

（九月十六日接受）

九月十五日當地總司令部ニ達シタル情報ニ依レハ義州ヨリ

前進中ノ奉天軍ハ本日直隸軍約四個大隊ト朝陽寺付近（朝

陽縣ノ東方）ニ於テ衝突シ奉軍ハ直隸軍ヲ擊退シ且下追撃

中ナリト謂フ

公使、南京、上海、天津、廣東、漢口、蘇州、杭州ヘ転電  
セリ

二八六

九月十五日 在北京坂西中將ヨリ  
武藤參謀次長宛（電報）

軍事處ハ昨日彭寿莘ハ山海關方面、馮玉祥ハ喜峰口方面、

王懷慶ハ熱河方面ノ司令ニ吳佩孚ヲ總司令ニ任命スル密令

ヲ發セリト

軍事處ハ當地憲兵中ノ奉天吉林人ヲ基礎トスル暗殺隊ヲ編成シ本日竊ニ船ニテ天津ヲ出帆セリ上陸地點ハ大連カ營口

カ不明ナリ目的ハ張作霖始メ主要幹部ノ暗殺及術工物ノ破壊宣伝人民ノ惑乱等ナリト

関東、上海、天津、奉天濱

二八七

九月十六日 在中國芳沢公使  
幣原外務大臣宛（電報）

## 國務院秘書長孫潤宇來訪シ奉直間緊迫ニ当リ

## 中央政府支援、張作霖南下阻止等ニツキ要請

アリタル件

第八四一号（極秘）

新國務院秘書長孫潤宇ハ九月十五日張志潭（目下病床ニア

リ）ノ使者トシテ本使ヲ來訪シ左ノ通伝ヘタリ

日支両國ノ提携ハ東亜ノ政局上最必要ノコトナル処幸ニ貴

我ノ國交ハ近來頓ニ親密トナリ昨年ノ排日運動ノ如キモ政  
府ニ於テ大ニ鎮圧ニ努メ良好ノ結果ヲ奏シタル次第ナルカ  
今回ノ事変發生シタルニ付テハ政府ハ之ヲ機トシテ将来益  
益両國提携ノ実ヲ擧クルニ努力セント考ヘ居レル処若シ此  
際日本政府ニ於テ政府ニ援助若ハ便宜ヲ与ヘラルナルナラハ  
政府ハ大ニ日本ヲ徳トシ必ス之ニ報フル積ナリ、尤モ援助  
若ハ便宜ト云フモ借款或ハ軍器ノ供給ト云フカ如キモノニ  
アラス差当リ政府ノ欲スルモノハ

(一)日本新聞通信ノ取締及

(二)張作霖ノ南下ヲ阻止スルコト

ニシテ（孫ハ昨日朝陽ニ於テ奉直軍ノ前哨戦アリタリト語  
レリ）（ハ此頃日本新聞記事及通信カ甚シク直隸派ニ不利  
ナル記事ヲ以テ満サレ居ルヲ以テ之ヲ緩和スル様可然御配

ノ記事ニ就テハ本使自身モ幾分事實ヲ認メ居直隸派ニ於テ迷惑ヲ感スルコトアラント考ヘ既ニ当事者ニ向ヒテ注意ヲ与ヘタルコトアルモ完全ニ彼等ノ筆ヲ封スルカ如キへ到底不可能ノコトナルハ諒解ヲ請ハサルヲ得ス、尤モ折角ノ御申越ニモアリ尚此上尽力モシ又日本政府ニモ御依頼ノ旨報告スヘシ、又張作霖ノ件ニ就テハ其趣旨ノ存スルトコロ日本（脱）及本使ニ於テモ同感ニシテ極内密ノ話ナルモ実ハ我政府ハ是迄屢々張ニ向ヒテ輕拳盲動ヲ誠メ中央ニ乘リ出スコトノ不可ナルコトヲ注意セル次第ナリ、蓋シ自分ノ考フル処ニ拠レハ張カ仮令勝チテ北京ヲ取ルモ天下ヲ統一スルコトハ出来サル可ク又反対ニ敗北セハ東三省ハ大動搖ヲ來スヘク満州ニ絶対ノ利害関係ヲ有スル日本トシテハ到底忍ヒサルトコロナルニ依リ努メテ張ノ出動ヲ阻止セントシタル訳ナルモ今回張ハ日本ノ同様ナル勸告ヲ予防スル為直隸派ニ於テ先ニ出兵シ挑戦的態度ニ出テタルヲ理由トシ出兵ヲ断行スル旨奉天駐在ノ各国領事ニ正式通告シタル始末ナルヲ以テ彼ノ出動ヲ阻止シタキハ貴我共ニ一致セル希望ナルモ今日トナリテハ最早如何トモスルヲ得サルヘキカト思ハルル旨並張ハ戰鬪ヲ開始スルヤ否ハ蘇浙戰爭ノ發展奉天ヘ転電セリ

見シ度キ由ナルニ依リ其際ノ応酬上一応政府ノ御意向承知シ置キ度ニ付何分ノ儀予メ御垂示相成度シ

第三一一号  
(九月十七日接受)

二八八 九月十六日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

中国軍ノ付屬地内輸送ハ保安上急速措置ヲ要  
スルタメ事務官限リノ承認及ビ追認ヲ認メタ  
ル旨関東長官ヨリ回電ノ件

第八四号  
関東長官発本官宛電報

ノ記事ニ就テハ本使自身モ幾分事實ヲ認メ居リ直隸派ニ於テ迷惑ヲ感スルコトアラント考ヘ既ニ当事者ニ向ヒテ注意ヲ与ヘタルコトアルモ完全ニ彼等ノ筆ヲ封スルカ如キハ到底不可能ノコトナルハ諒解ヲ請ハサルヲ得ス、尤モ折角ノ御申越ニモアリ尚此上尽力モシ又日本政府ニモ御依頼ノ旨報告スヘシ、又張作霖ノ件ニ就テハ其趣旨ノ存スルトコロ日本（脱）及本使ニ於テモ同感ニシテ極内密ノ話ナルモ実ハ我政府ハ是迄屢々張ニ向ヒテ輕挙盲動ヲ諒メ中央ニ乗リ出スコトノ不可ナルコトヲ注意セル次第ナリ、蓋シ自分ノ考フル処ニ拠レハ張カ仮令勝チテ北京ヲ取ルモ天下ヲ統一スルコトハ出来サル可ク又反対ニ敗北セハ東三省ハ大動搖ヲ來スヘク満州ニ絶対ノ利害関係ヲ有スル日本トシテハ到底忍ヒサルトコロナルニ依リ努メテ張ノ出動ヲ阻止セントシタル訳ナルモ今回張ハ日本ノ同様ナル勸告ヲ予防スル為シタル派ニ於テ先ニ出兵シ挑戦的態度ニ出テタルヲ理由トシ出兵ヲ断行スル旨奉天駐在ノ各領事ニ正式通告シタル始末ナルヲ以テ彼ノ出動ヲ阻止シタキハ貴我共ニ一致セル希望ナルモ今日トナリテハ最早如何トモスルヲ得サルヘキカ出思ハルル旨並張ハ戰鬪ヲ開始スルヤ否ハ蘇浙戰爭ノ發展ト思ハルル旨並張ハ戰鬪ヲ開始スルヤ否ハ蘇浙戰爭ノ發展ニ依リ決スヘク万一浙江ニシテ敗北セハ張ハ或ハ開戦セサルヤモ測リ難キ旨ヲ述ヘ、併シ之又折角ノ御依頼ナルニ依リ政府ニ打電シ何分ノ意向ヲ問合ハスヘシト答ヘ置キタリ思フニ新國務總理顏惠慶ハ今回組閣ニ際シ日本ノ干渉ヲ相當氣ニシタル跡アリ（顧維鈞ヲ排シテ自ラ外交總長ヲ兼任セントシ又黃郛ヲ入閣セシメタルカ如キ）旁々往電第八三号ニモ一言セル同氏ノ日本ニ調停ヲ依頼セントノ意見モ充分ニ信ヲ置クニ足ルモノナルニ今回直隸派ノ參謀長トモ謂フヘキ張志潭ヨリ前記ノ如キ申出アリ然モ張ト顏トハ極度懇意ノ間柄ナルニ顧ミル時ハ右申出ハ或ハ予メ我意向ヲ知ラントスル瀬踏ミニナルニアラスヤトモ思ハル、尤モ今日ニ於テハ直隸派ノ敗北ヲ見タル次第ニアラサルノミナラス仮令江蘇軍敗北スルモ吳佩孚ノ扣ニル間ハ直隸派ノ破滅ヲ見ルコト之無ク旁々本使トシテモ先方ノ申出ニ対シ可成好意ヲ表スルト同時ニ諦ムヘキコトハ諦ムル様為向ケ置キタル次第ナルカ往電第八三九号ノ通愈吳佩孚モ晉京セハ政、戰兩局ニ亘リ何等カ影響ヲ生シ之力為右張ノ申出ニ變化ヲ生スルヤモ測ラレサルモ張ノ病氣モ既ニ全快ニ近ツキ此処一週間位モ経過セハ外出シ得ヘク其上ニテ親シク本使ト会

テ進ムノ外ナク本省発在支公使宛往電第五六八号本件閣議  
決定モ此ノ趣旨ニ出テタルモノナルニ付我文武諸官憲ハ歩  
調ヲニシテ嚴正ニ右方針ノ実行ヲ期スヘキコト云フヲ俟  
タス此際万一我官憲ニ於テ支那政界ノ一派ニ偏シ何等恩讐  
ノ関係ヲ作ルトキハ日支国交ノ将来ハ極メテ危險ナル地位  
ニ置カレ延テ帝国ノ威信ヲ世界ニ失スルニ至ルコトアルヘ  
シ右ハ固ヨリ十分御諒悉ノコトト信スルモ時局ノ重大ナル  
ヲ思ヒ特ニ念ノ為メ申進ス

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦

二八八 二八九

卷之三

二九〇 九月十七日

幣原外務大臣ヨリ  
斎藤朝鮮総督宛(電報)

スヘシ

中国側トノ間ニ對岸進出ヲ目的トスル交渉ヲ

試ミルコトハ日本ノ立場ニ累ヲ及ボス虞アル

ニツキ差控方申進ノ件

第四二号

帝国政府ハ支那ニ於ケル戰乱地域ノ成ルヘク局限セラレム

コトヲ切望シ殊ニ滿州地方ノ平靖ハ最モ重要視スル所ナル

モ差当リ不干涉ノ態度ヲ執ルヲ最善ノ政策ト認メ今後滿州

ノ秩序紊乱スルカ如キ場合ニ処スヘキ方針ニ付テハ形勢ノ

推移ニ応シ更ニ決定スルコトセリ奉直關係ノ發展如何ニ

ヨリテハ貴見ノ通朝鮮側ニモ重大ナル影響ヲ及ホスノ虞ア

リ固ヨリ十分注意ヲ要スル次第ナルカ去リトテ此ノ際支那

側トノ間ニ対岸進出ヲ目的トスルカ如キ國境警備ノ交渉ヲ

試ムルコトハ張作霖ヲ困難ナル立場ニ陥ラシムルノミナラ

ス支那ノ各方面並世界ノ公論ニ対シテハ日本カ支那ノ動乱

ヲ利用シテ同國ノ主權ヲ損傷スルノ企図ヲ有スルモノナル

カ如キ感想ヲ与ヘ帝国ノ立場ニ累ヲ及ホス虞モアリ尚慎重

ナル考量ヲ要スルコトト思考ス支那時局ノ大勢ハ別ニ電報

機密第四四五号

(九月二十六日接受)

大正十三年九月十七日

在支那

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

対シ外交部ヨリ回答ノ件

江蘇浙江問題ニ關スル日英米仏四國ノ共同警告ニ

曩ニ江蘇浙江間ノ關係切迫セルニ鑑ミ日英米仏四國公使ヨ

リ八月二十八日付共同通牒ヲ以テ支那政府ニ警告ヲ与ヘタ

ル次第ハ往電第七五〇号及第七五一號並八月三十日付機密

第三九八号拙信所報ノ通りニ候處右警告ニ対シ今般外交部

ヨリ別紙写ノ通り回答有之候条委細別紙ニツキ御了知相成

度此段報告申進候也

本信写送付上海

(付属書)

江蘇問題ニ關スル外交團共同警告ニ対シ外交部回答

外交部節略

九月十一日

准八月二十八日

貴國僑民切勿參加此次軍事為荷相應略復查照

(付属書)

右和訳文

外交部覚書

外交 部

九月十一日

外交部覚書

節略称英日本法美各國公使等因聞有江蘇浙江兩省省憲將行開戰之危急情形應向中國政府將本公使等於上年八月十一日去件内各語加以提醒並將該項去件内所提一切關於中國政府在此危急時有防免在滬及在上海一帶外僑生命財產損失義務之聲明再行極為鄭重重申等因業經本部轉知軍事行政各機關及分電各該省軍事長官嚴切注意旋准海軍部復稱已分別令行海軍總司令轉行各艦隊知照並准南京齊巡閱使南京杜總司令復電稱所有各國僑民生命財產無論何時無不照約力為保護又准齊巡閱使等電稱我國對於各國邦交向稱親善此次盧永祥破壞統一聲罪致討各國僑民亦必敦睦友誼不予盧氏方面以何種之協助請各國公使轉知駐在該處各領事查照等語總之中國政府對於在滬一帶外僑生命財產之安全十分重視雅不願其受何損失凡能力所及靡不竭誠設法保護也惟為便利保護起見心請告誠

討伐ノ止ムナキニ至レリ各國在留民亦友誼ニ敦睦ナレハ慮

二九一 九月十七日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

江浙問題ニ關スル日英米仏四國ノ共同警告ニ

対シ外交部ヨリ回答ノ件

付属書 右ニ關スル九月十一日付外交部節略

機密第四四五号

(九月二十六日接受)

大正十三年九月十七日

在支那

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

対シ外交部ヨリ回答ノ件

江蘇浙江問題ニ關スル日英米仏四國ノ共同警告ニ

曩ニ江蘇浙江間ノ關係切迫セルニ鑑ミ日英米仏四國公使ヨ

リ八月二十八日付共同通牒ヲ以テ支那政府ニ警告ヲ与ヘタ

ル次第ハ往電第七五〇号及第七五一號並八月三十日付機密

第三九八号拙信所報ノ通りニ候處右警告ニ対シ今般外交部

ヨリ別紙写ノ通り回答有之候条委細別紙ニツキ御了知相成

度此段報告申進候也

本信写送付上海

(付属書)

江蘇問題ニ關スル外交團共同警告ニ対シ外交部回答

外交部節略

九月十一日

准八月二十八日

本信写送付上海

(付属書)

江蘇問題ニ關スル外交團共同警告ニ対シ外交部回答

外交部節略

九月十一日

准八月二十八日

氏方面ニ対シ如何ナル協助モ与ヘサルヘシ願クハ各国公使ヨリ各地領事ニ転達承せシメラレ度旨電報アリ要スルニ中国政府ハ上海一帯在住外人ノ生命財産ノ安全ニ対シテハ十分重視シ其ノ何等ノ損害ヲ受クルヲ願ハサルニ付能力ノ及フ限り誠意ヲ以テ保護ス惟保護ノ便利ノ為貴国在留民ニ対シ切ニ今次軍事ニ参加セサル様誠告アリ度シ右回答ス

二九二 九月十八日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

上海付近及び黃浦江ノ中立問題ニツキ外交部

ヨリノ回答ニ關スル件

第八五〇号

往電第八〇七号ニ閲シ

九月十六日夜外交部員總長ノ命ニ依リ関係各國公使館ヲ訪問シ九月七日付協同通牒ニ對スル回答トシテ十六日付外交部覚書ヲ持參シタルカ右覚書ハ其冒頭ニ於テ黃浦江ニ戰争アル場合關係國ハ強制手段ニ出テサルヘカラサルヤモ知レストノ点ハ外交部トシテ乍遺憾同意シ能ハサルコトヲ述ヘタル後上海及黃浦江ノ中立問題ハ戰局ヲ限定セムトスル支那政府ノ政策トモ一致スルコトナレハ（現江浙戰爭中上海

及吳淞ノ一定地域ヲ中立ト為ス提議ヲ考慮スルニ吝ナラス（）中立地帶ヲ設クルトスレハ江浙双方ニ於テ一定条件ヲ協定スルノ必要アリトテ往電第八〇七号所載一乃至五ノ条件ヲ列挙シ且（）中立地帶ハ外國居留地境界ヨリ五哩ノ地域並上海ヨリ吳淞ニ至ル黃浦江ノ部分及吳淞砲台ノ周囲三哩ノ地域ヲ包含セシムヘキコト（前記ノ条件ヲ受諾スルニ於テハ九月十七日正午ヨリ十九日正午ニ至ル二日間内ニ之ヲ実行スルヲ要スルコト及（）前記中立ハ江浙戰爭ノ終了ト同時ニ終止スルコト等ヲ記載シアリ

依テ九月十七日伊太利公使館ニ關係國代表者會議ヲ開キ回答ヲ討議シタルカ本使ハ右支那側要求ノ實行不可能ナルコトヲ指摘シタルニ各公使共ニ之賛成シ結局外交部ニ宛テ外交部提議ノ實現ハ交戰兩当事者ノ協定ニ俟ツヘキ事項ナルヲ以テ五國代表者ハ之ニ對シ何等意見ヲ表示スルヲ得ス又五國代表者ハ上海付近及黃浦江ノ中立ニ閑スル交戰当事者間ノ協定ノ成立ヲ熱望スルモ若シ右ノ如キ協定成立セサル場合ニハ九月七日付覚書ニ記載セル黃浦江ニ於テハ開戦ヲ許与シ得サルコト並右ノ如キ戰争若ハ上海ヨリ海ニ至ル外国语航海業ニ對スル干渉ヲ防止スル為場合ニ依リテハ強制

手段ヲ執ル権利ヲ留保スル旨ノ声明ヲ維持セサルヘカラサル旨ヲ回答スルコトナリ十七日付覚書トシテ同日伊太利公使之ヲ顧維鈞ニ交付セリ  
上海、南京、杭州へ転電セリ

二九三 九月十八日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

奉天討伐ノ大總統令発布ノ件

死セス東南多事ノ時ニ當リテ大局ヲ破壊セントスルノ罪断シテ許シ難シ國家ノ權力ヲ以テ強硬制止セサルヲ得ス即チ総副司令及各司令ニ命シテ討伐セシム軍隊経過地方ノ内外人民ノ生命財産ハ完全ニ保護セシムヘシ奉天各軍隊ノ帰順スルモノハ其ノ罪ヲ問ハス云々  
奉天、上海、杭州ニ転電セリ

二九四 九月十八日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

盧永祥、孫文等ノ軍費援助ニ關シ張作霖内話

報告ノ件

第三一八号

九月十七日小官別用ヲ以テ張作霖ニ會見シタル際内話ノ大要左ノ通り

（）之迄盧永祥ヨリ軍費ノ援助方ヲ申越シタルコト一再ナラサリシモ浙江ハ元來支那ニテハ江蘇ト共ニ最モ富裕ナル地方ト目セラレ居ル處ナルヲ以テ其都度之ヲ婉曲ニ拒絶シ居リシモ最近又々熱心ニ援助ヲ要求シ来リ時局柄已ムヲ得スト認メ差当リ四十万弗ヲ送ルコトシタリ又段祺瑞ヨリモ此際直隸派内部ノ分裂ヲ促進スル為運動費ヲ構ヘ次テ平定ス以来専ラ其ノ悔悟ヲ期シタルニ野心未タ

求シ来リタルヲ以テ之亦已ムヲ得スト考ヘ不取敢五十万  
弗ヲ送ルコトトシタリ

(二)孫文ハ愈々北伐スルコトトナリタルモ之亦軍費欠乏シ居

ルヲ以テ其援助方ヲ申シ来レリ不日孫科廣東政府ヲ代表  
ン來奉ノ筈ナルカ其目的ハ軍費要求ニ外ナラス併シ之ハ

成ルヘク拒绝スル積リナリ

(三)鮑貴卿ハ曹鋐ノ依頼ニ応シ數日前來奉シタルカ今日ノ場

合直隸側ニテ先ツ其態度ヲ変更セサル限り到底當方ノ軍

事行動ヲ中止スル能ハサルハ云フ迄モナシ又鮑ハ自分ト

兄弟モ同様且極メテ近キ親戚ナレハ同人ハ當分當地ニ滯

留スヘシ

北京、天津、上海、廣東、杭州へ転電セリ

二九五 九月十九日 斎藤朝鮮總督、児玉閏東長官宛(電報)

中國時局ノ現況ト各国ノ態度ニ關スル件

合第二五〇号

一、浙江江蘇兩軍ノ衝突ハ概シテ浙江側ニ有利ナルカ如キ  
モ一勝一敗アリ殊ニ昨今兩軍トモ稍疲労ノ色アリ戰局ニ  
著キ發展ナシ差当リ同方面ニ於テ決戰的ノ衝突ヲ見ルコ

トナカルヘキ見込ナリ尤モ目下双方トモ買収又ハ離間策

ニ努メ居レル模様ニテ其ノ成功如何ニヨリテハ局面ノ展

開ヲ見ルコトナキヲ保セサルヘシ

二、江蘇督軍ヨリ屢々中央政府及吳佩孚ニ援助ヲ求メ居ル

モ僅少ノ援兵派遣セラレタルニ止マリ又福建江西安徽ノ

諸省ハ省境ニ兵ヲ配置シタルモ未タ浙江侵入ノ挙ニ出テ

ス尚形勢ヲ觀望シ居レルモノ如シ又孫文ハ盧永祥援助

ノ為メ江西省侵入ノ計画ヲ立テ之ヲ揚言シ居レルモ四囲

ノ状況ニ顧ミ其ノ実行困難ナルヘシ

三、張作霖盧永祥ト共ニ反直隸派ノ巨頭タル段祺瑞ハ從來

直隸派討伐ノ旗幟ヲ鮮明ニスヘント伝ヘラレタルカ最近

我方に對シ奉直何レニモ偏セス兩者調停ノ任ニ當ラムト

スル内意アルコトヲ漏シタルモ果シテ其ノ真意ニ出テタルモノナルヤ否ヤ明ナラス

四、直隸派就中吳佩孚ト張作霖トノ關係緊張シ昨今双方ヨリ兵ヲ山海關熱河方面ニ集中シ已ニ一部衝突ノ報アル處

直隸派側ニ在リテハ内部ノ結束必ラスシモ鞏固ナラス現ニ王懷慶馮玉祥王承斌等ノ態度ハ微温的ニシテ吳ノ頤使ニ甘セサルモノノ如ク又軍資乏シク加フルニ直隸付近ノ

ラレ居ルモ今日迄各方面探査ノ結果何等ノ証跡アルヲ認メス尚先般來英國大使及米國代理大使來省支那時局ニ関スル本大臣ノ觀測ヲ求メタル際本大臣ヨリ右風説ニ言及シタル處米國代理大使ハ之ニ答ヘ吳佩孚ハ支那統一ノ実力及声望ヲ有セス米國政府カ何等同人支持ノ政策ヲ執ルカ如キコトハ思ヒモ寄ラサル所ナルコトヲ述ヘタルカ其ノ後本國政府ノ訓令トシテ米國ハ支那ノ時局ニ對シ不干渉ノ態度ヲ執ル方針ナルコト及支那ノ時局ニ關シ之迄如何ナル國トモ意見ノ交換ヲ為シタルノ事實ナキコトヲ通報シ来レリ

二九六 九月十九日 在上海矢田總領事ヨリ  
斎藤朝鮮總督、児玉閏東長官宛(電報)

盧永祥ノ上海到着、並ビニ江浙今後ノ戰局ノ  
推移ニ關スル上海商務總會等ノ觀測報告ノ件

(九月二十日接受)

杭州領事發大臣宛電報第六四号ニ關シ

盧永祥ハ昨十八日夜當地着直ニ護軍署ニ入レリ盧ノ杭州脫

出ノ報伝ハリテヨリ當地方人心稍々動搖ヲ來シ租界ノ警戒

リ吳佩孚ニ武器ヲ供給セリト云フカ如キ報道往々流布セ

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦

アル商務總会交渉署辺ノ觀測ヲ綜合スルニ北方ニ於ケル戰争ノ伸展如何ニモ關係ハアルモ大勢ハ既ニ浙江側ニ不利ニシテ今後種々ノ曲折ハアランモ結局潰敗ノ運命ニ陥ルノ外ナキモノノ如シ當地支那側各團体ハ本日午後三時商務總会ニ緊急會議ヲ開キ此機會ニ於テ盧ノ顔ヲ損フコトナクシテ江浙戰爭ヲ終止セシムル可能性ノ有無ニ付討議スル筈ナリ但シ商務總会役員ノ語ル處ニ依レハ盧ハ奉天側ニ對スル義理合ト自己ノ面目上ヨリ此ノ儘干戈ヲ收ムルヲ肯セサルヘク最後ノ一戰ヲ試ムル意向ラシケレハ紳商側ノ和平運動ハ成功困難ナルヘシトノコトナリ

北京、奉天、天津、漢口、南京、杭州へ転電セリ

二九七 九月二十日 在中國芳沢公使ヨリ  
常原外務大臣宛(電報)

時局問題ニ關シ吳佩孚ト會談ノ件

第八六三号(極秘)

吳佩孚ハ九月十七日着京、挨拶ノ為十八日其ノ外交課長ヲシテ本使ニ名刺ヲ届ケ(各公使ニモ送リタルモノノ如シ)シメタル上更ニ參謀長李<sup>セイリ</sup>ヲ二回迄送り越シ吳自身親シク本使ヲ訪問シタキ希望ナルモ何分着京早々忙殺セラレ居

テ吳氏ハ張ヲ目シテ馬賊ト称スルモ彼ハ大總統ト義兄弟ノ間柄ニアリ又彼ノ政治ヲ以テ匪政ト称セラルモ東三省ハ全然獨立セルモノニアラス政治ノ一部ハ北京政府ト連絡アルヤニ見受ケラル故日本カ張ト交渉セリトテ何等非難ヲ受クヘキ理由ナシ況ノヤ日本ハ滿州ニ於テ絶大ノ利害關係ヲ有シ之カ為生スル交渉ハ北京政府ニ由ツテ為スモ何等効果無キ事實ナルニ於テヲヤ

唯茲ニ断リ置クヲ要スルハ冒險者流カ個人的ニ支那ニ於テ或ル党派ニ加担スルカ如キハ皆無ト言ハサルコトニシテ此ノ場合往々誤解ヲ生スル嫌アルモ之ハ政府ノ行為トハ全然別個ノモノニシテ政府トシテハ斯ノ如キ冒險者ヲ取締ルニ努メ居ル次第ナリ、故ニ孰れノ点ヨリスルモ日本カ匪政ヲ助クルモノトスルハ甚タ解シ難キ次第ナリト難詰シタルニ吳ハ自説ノ誤ヲ覺リタリト見ヘ自分カ匪政ヲ助クルモノト言ヘルハ現在ヲ指セルニアラス将来ノコトヲ言フモノニシテ将来ハ滿州平定セラレ趙爾巽、徐世昌時代ニ復帰スヘキニ依リ其場合ニ対シ予メ日本ノ諒解ヲ得度キ次第ナリト誤魔化シタリ(其頃ハ匪政ナルモノ之無キ筈ナリ)依テ本使ハ窮追スルコトヲ避ケ将来ヲ予想シテ何等確言スルコトハ

アル商務總会交渉署辺ノ觀測ヲ綜合スルニ北方ニ於ケル戰争ノ伸展如何ニモ關係ハアルモ大勢ハ既ニ浙江側ニ不利ニシテ今後種々ノ曲折ハアランモ結局潰敗ノ運命ニ陥ルノ外ナキモノノ如シ當地支那側各團体ハ本日午後三時商務總会ニ緊急會議ヲ開キ此機會ニ於テ盧ノ顔ヲ損フコトナクシテ江浙戰爭ヲ終止セシムル可能性ノ有無ニ付討議スル筈ナリ但シ商務總会役員ノ語ル處ニ依レハ盧ハ奉天側ニ對スル義理合ト自己ノ面目上ヨリ此ノ儘干戈ヲ收ムルヲ肯セサルヘク最後ノ一戰ヲ試ムル意向ラシケレハ紳商側ノ和平運動ハ成功困難ナルヘシトノコトナリ

北京、奉天、天津、漢口、南京、杭州へ転電セリ

二九八 九月二十二日 外務省公表

中國時局ニ對シ不干涉ノ方針ナル旨發表ノ件

公表第十六号 大正十三年九月二十二日 外務省

出淵亞細亞局長談

帝国政府ノ支那ニ対スル態度ニ付テハ過般臨時議会ニ於テ幣原外務大臣ヨリ演説セラレタ通支那ノ内政ニ干与セサル方針テアルコトハ今更事新シク言フヲ俟タナイ所テアル從テ今回ノ内乱ニ対シテモ不干涉ノ方針ヲ執リ儼ニ公正ナル態度ヲ持シテ居ル次第テアル尚諸外国中ニ支那ノ内政ニ干涉スル計画カアルトカ又ハ直隸派援助ノ陰謀カアルトカ言フカ如キ風評カ往々伝ヘラレテ居ルケレトモ右ハ何レモ所謂一片ノ浮説テアツテ毫モ信ヲ措クニ足ラナイノテアル支那ニ於テ今回ノ如キ動乱ヲ見ルニ至ツタノハ帝国政府ノ甚タ遺憾トスル所テアツテ吾人ハ支那官民カ克ク時局ノ重大ナルコトヲ自覺シ速ニ干戈ヲ戢メ秩序ノ恢復ニ努メムコトヲ希望シテ已マナイモノテアル

二九九 九月二十三日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
**吳佩孚ノ満州進出計画ニ対シ中国政府ニ警告**  
別電 同日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第八八三号  
中国政府ニ対シ満州ノ利権保護ニ関スル声明案  
第八八二号（至急極秘） （九月二十四日接受）

スル可能性アリト言フモ過言ニアラス尤モ現在ニ於テハ單ニ朝陽付近ノ小衝突ノ外奉直未タ交戦セス而モ勝敗ハ実戦ニ依リ決セラルヘキカ故ニ今日右ノ言ヲ敢テスルハ些カ杞憂ニ過キルノ誹アルヤ測ラレスト雖（直隸軍ハ吳佩孚之ヲ統率スル点ニ於テ世間ヨリ勝味アル如ク看做サルモ軍資金兵器防寒具ニ於テ欠点アリ奉天軍ニ於テ持久策ニ出ツルニ於テハ勝敗未タ逆睹シ難シ）英國公使ノ如キハ今次ノ争乱ヲ目シテ吳佩孚ノ武力統一ノ一部トシ又米国代理公使ノ如キハ同國ノ伝統的傾向ニ依ルモノカ吳ニ接近ヲ努メ居ル節モアリ概シテ英米ハ吳ニ同情ヲ有スト觀察セラル上彼ノ晉京以来總統モ内閣モ万事彼ノ頤使ニ甘んシ顏惠慶王克敏ノ如キ非戰的傾向ニ存スル事情ニシテ政府ハ軍費ヲ古紙鈔ノ如キハ吳ニ奉天征伐ノ成竹アルヲ聞キ三十万元ノ私財提供ヲ約セシ情報サヘ存スル事情ニシテ政府ハ軍費ヲ古紙幣ニ求ムル迄モ吳ノ意ニ從ハサルヲ得サルヘキ模様アリ彼カ意氣ノ旺盛ナル又理由ナシトセサルニ依リ奉直戦ニシテ勝敗ヲ見サルカ或ハ奉天側ノ勝利ニ終ル場合ハ我國トシテ懸念スル必要ナキモ其然ラサル場合即チ吳佩孚戰勝ノ場合ヲ目安トシテ対策ヲ講スルコト我ニ於テ最モ必要ナル処本

吳佩孚カ奉天軍ヲ眼中ニ置カス既ニ居乍ラ満州ヲ席巻セルカ如キ意氣ヲ示セルハ往電第八六三号ニ於テモ認メラルヲ得ヘク當時本使ハ彼カ何等為ニスル處アリトテ斯ノ如キ大言ヲ試ミタルカ少クトモ海路満州ニ進出セムト言フ点ノ如キハ日本側ヲ通シテ張作霖ヲ牽制セムトスル魂胆ニアラナルカラ疑ヒタルモ其前後余人ニ語レル所ヲ綜合スルニ右海路渡満ノ如キモ相当計画ヲ立テ居る趣（溫樹德ノ艦隊護衛ノ下ニ汽船八隻ヲシテ陸兵ヲ當口ニ運送セシメムトシ先ツ以テ温ヲ北京ニ呼寄スヘキヲ言ヒ温赴京ハ既ニ事實トナリ居ルカ如シ）ニモアリテ且十七日彼カ曹鋐ノ同意ヲ得タリト伝ヘラル大規模ノ陸上配備ノ如キモ著々予定ノ進行ヲ遂ケツツアル事実ニ鑑ミ彼トシテハ相當成算ヲ有スルモノト見テ大過ナカルヘキ処驕頑ナル彼ニシテ一度満州ニ足ヲ入ルルニ至ラムカ戰勝ノ意氣ハ益々彼ノ性情ヲ煽り場合ニ依リ或ハ我勢力及利権ヲ蹂躪スルニ至ルナキヲ保セス而モ彼ハ張トハ個人的ニ不俱戴天ノ間柄ナルヲ以テ我政府又ハ個人カ從来張ト結ヒタル公私ノ約束ノ如キ彼ハ之ヲ否認スルニ至ルモ測ラレス而シテ事茲ニ至レハ我ハ結局實力ヲ以テ彼ヲ制スルノ外ナク張吳ノ争ハ転シテ日支ノ交戦ト変

無為ニ終ルハ後患一層怖ルヘキモノアリ況シヤ彼ノ滿州進  
出カ事實トナラサル場合ニ於テモ彼初メ直隸一派ヲシテ  
度我決意ヲ体得セシメ置クハ帝國ノ威信ヲ高ムル上ニ於テ  
頗ル利益アルニ於テヲヤ故ニ我ハ決然叙上ノ手段ニ出テ目  
下ノ機会ヲ利用シ彼ニ頂門ノ一針ヲ加ヘ依テ以テ滿州ニ於  
ケル将来ヲ約セシムルノ素地ヲ作ルハ最喫緊ノコトト言ハ  
サルヲ得ス將又右ノ如キ警告ヲ与フルニ於テハ上海中立問  
題ノ場合ト同様顧維鈞ヨリ種々自分勝手ノ註文ヲ提出シ來  
ルヘク其場合ニハ註文ノ条件如何ニモ依ルコトナルヘキモ  
戰鬪ト直接關係アルモノナルニ於テハ奉直両軍ノ間ニ協議  
セシメ其他ニ就テハ事柄ニ依リ考慮決定スルヨリ致方ナカ  
ルヘク卑見ニテハ鐵道ハ結局中立ト為サシムル方然ルヘキ  
カト存ス

之ヲ要スルニ吳佩孚ノ滿州乘込計画ノ発表ハ我対応策ノ決  
定ヲ急カシムルニ至リタルト同時ニ我ニ乗スヘキノ機會ヲ  
坐視スルモノニアラサルコトヲ茲ニ予メ声明ス

第三三七号（極秘）  
（九月二十四日接受）

奉直雙方ニ對シ武力ニ訴ウルヲ止メ平和的手  
段ニヨリ解決ヲ圖ルベキ旨警告發送方ニツキ  
卑見開陳ノ件

第三三七号（極秘）  
（九月二十三日）

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

ルヘキコトアルヲ慮リ日本カ同地方ニ於テ有スル権利及利  
益カ右ノ戰鬪行為ニ依リ侵害セラルル場合アリトセハ之ヲ  
定ニ急カシムルニ至リタルト同時ニ我ニ乗スヘキノ機會ヲ  
坐視スルモノニアラサルコトヲ茲ニ予メ声明ス

ス虞アル点ナリト雖モ今回ノ戰争ニシテ直隸派ノ利益ニ発展セムカ往電第八一三号ニモ一言セル通り我ハ早晚独力ヲ以テ事態ノ処理ヲ企テサルヘカラサル次第ナルニ依リ彼ヲ誤解セシメサル様最善ヲ尽スヘキハ勿論ナルモ之ヲ虞レテ無為ニ終ルハ後患一層怖ルヘキモノアリ況ソヤ彼ノ滿州進出カ事實トナラサル場合ニ於テモ彼初メ直隸一派ラシテ一度我決意ヲ体得セシメ置クハ帝國ノ威信ヲ高ムル上ニ於テ頗ル利益アルニ於テヲヤ故ニ我ハ決然叙上ノ手段ニ出テ目下ノ機会ヲ利用シ彼ニ頂門ノ一針ヲ加ヘ依テ以テ滿州ニ於ケル将来ヲ約セシムルノ素地ヲ作ルハ最喫緊ノコトト言ハサルヲ得ス将又右ノ如キ警告ヲ与フルニ於テハ上海中立問

与ヘタルモノニシテ我ハ巧ニ之ヲ利用シテ満州ニ於ケル地  
歩ヲ現在及将来ニ亘リ確保セシムルニ適シ其時機ハ將ニ目  
睫ノ間ニ迫レル次第ナル處之ヲ実行スルニ當リ第一ノ要件  
タルヘキモノハ政府ノ決心ニシテ本使ノ見ヲ以テスレハ帝  
國ノ滿州ニ於ケル利害關係ハ支那ノ他ノ部分全体ニ對スル  
モノヨリ一層重大且緊切ナルモノト言ハサルヲ得サルニ依  
リ場合ニ依リテハ實力ヲ擁シテ事ニ臨ムノ覺悟ヲ必要トス  
ヘク本件警告ノ發送ハ或ハ之ヲ考慮スヘキ時機ヲ画スルモ  
ノトモ言ヒ得ヘキカ故此等ノ点ヲ併セテ慎重御詮議ノ上  
至急廟議ヲ決定セラレムコトヲ切望ス

ルへク其場合ニハ註文ノ条件如何ニモ依ルコトナルヘキモ  
戦闘ト直接関係アルモノナルニ於テハ奉直両軍ノ間ニ協議  
セシメ其他ニ就テハ事柄ニ依リ考慮決定スルヨリ致方ナカ  
ルヘク卑見ニテハ鉄道ハ結局中立ト為サシムル方然ルヘキ

(別電)  
九月二十三日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第八八三号  
中国政府ニ対シ満州ノ利益保護ニ関スル声明案  
第八八三号(至急極秘)別電 (九月二十四日接受)  
日本公使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ中華民国政府ニ向テ左ノ  
通告ヲ為ス光榮ヲ有ス

ルヘキコトアルヲ慮リ日本カ同地方ニ於テ有スル権利及  
益カ右ノ戦鬪行為ニ依リ侵害セラルル場合アリトセハ之ヲ  
坐視スルモノニアラサルコトヲ茲ニ予メ声明ス

三〇〇 九月二十三日  
幣原外務大臣宛（電報）

奉直双方ニ如シ武力ニ謀止川ニ止ノ平和的手段ニヨリ解決ヲ図ルベキ旨警告發送方ニツキ

第三三七号（極秘）

(九月二十四日接受)

奉直戦ノ将来ニ關シ各方面ノ意見ヲ參照スル悲觀樂觀恰モ  
相半シ一般人民ハ前年ノ敗戦ニ顧ミ寧ロ悲觀説ヲ唱ヘ之ニ

反シ軍事当局者ハ前年ニ比シ兵備ノ一層充実ヲ頼リトシテ  
勝戦ヲ期シ居ルモノノ如キモ公平ニ時局ヲ観測スル所第三者

トシテハ奉天側ノ必勝ヲ確信シ居ル者寧ロ少キカ如シ、從ツテ今日ニ於テハ全ク何等ノ予見ヲモ許シ難キノ状態ニ在

リ戦局カ奉天側ノ有利ニ落着シタル場合ニ取ルヘキ帝国政  
府ノ方針ハ往電第二七五号ニモ申進メ置キタル通り我レニ

セラルル處時局前陳ノ通戦局ノ前途不明ニシテ素人筋ニハ取リテハ今日ヨリ左シテ考量ヲ費スノ必要ナキカ如ク思考

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三〇一

三七〇

当強硬ナル警告ヲ発シ以テ他国ノ種々ナル宣伝ニ依リ迷惑ヲ蒙ルヘキ我カ立場ヲ擁護スルノ伏線ヲ作り置クコト必要ナルニ非サルヤ然シテ右通告ハ奉直戦ノ勝敗カ何レトモ決セサル今日（出来得レハ奉天側ニ有利ナル時機例へハ朝陽陥落ノ機ヲ捉フルカ如キ）ニ於テ決行スルコトハ日本カ張

ヲ擁護スル為ニ為シタルモノナリトノ非難ヲ避ケ得ヘント思考セラル惟フニ帝国ノ支那ニ於ケル利害ハ歴史的ニ国防上経済上特殊ノモノアリ、全然他ノ地域ト同一視スヘカラ

サルモノアリ、從ツテ帝国政府トシテハ此ノ方面ノ秩序ヲ維持シ其利益ヲ保全スル為ニハ其全力ヲ傾注セサルヘカラ

ス現ニ奉直開戦後既ニ当地方邦人ノ蒙レル經濟上ノ打撃文ニテモ鮮少ナラサルモノアリ奉天ニ於ケル綿糸布商及雜貨商ノ支那商ニ対スル売掛代金ノミニテモ百五十万円ニ達

ス若シ夫レ一朝奉天軍慘敗ノ曉ニ於テ滿蒙各地ノ秩序紊乱シ其蒙ルコトアルヘキ被害ノ甚大ナルモノアルヘキヲ思ハ

ハ前記ノ如ク万全ノ策ヲ講シ置クコト緊要ナルニ非サルカ重ネテ茲ニ愚見ヲ開陳ス

在支公使ヘ転電シ関東長官ヘ暗送セリ

ニ若干ノ弾薬ヲ送リタリ

（三）段祺瑞ヨリハ久シク何等ノ消息ナク從テ直派切崩シカ如何ナル程度迄進捗シ居ルヤ不明ナリ

前記奉天側ノ作戦ニ閔スル事項ハ他ニ漏レサル様極秘ニ付セラレタシ

在支公使、上海、杭州及天津ヘ転電セリ

三〇一 九月二十五日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ヨリ直隸軍ノ満州進出ノ際満鉄使用方  
申出ニ対シ回答振り指示アリタキ件

第八九〇号

九月二十二日吳佩孚ハ在当地満鉄代表者竹内ニ向テ直隸軍満州進出ノ際ニ於ケル鉄道利用方ニ付予メ承諾ヲ得度キ旨希望シタルニ依リ竹内ハ右ハ頗ル重大事項ナルニ付其一存ニテハ確答シ難キ旨ヲ答ヘ尚私見トシテ斯ノ如キ事柄ハ本使ニ相談セラル可キ筋合ナルヘク満鉄本社ニテモ決シ兼ヌル問題ナルヘシト付言シタル処吳ハ之ヲ諒トン公使ノ方ヘハ当初ヨリ連絡ヲ取ル積リナルカ尚満鉄本社、関東庁及閑

東軍司令官ニモ自分ノ方ヨリ使者ヲ送ル事トス可キ旨語リ

九月二十二日吳佩孚ハ在当地満鉄代表者竹内ニ向テ直隸軍

第八九一號（極秘）

（九月二十六日接受）

野増次郎ノ内話報告ノ件

三〇三 九月二十五日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚入京後ノ動向並ビニ対日態度ニツキ岡野增次郎カ本使ニ内話セル處ニ拵レハ吳佩孚ハ十七日入

ヲ擁護スル為ニ為シタルモノナリトノ非難ヲ避ケ得ヘント思考セラル惟フニ帝国ノ支那ニ於ケル利害ハ歴史的ニ国防上経済上特殊ノモノアリ、全然他ノ地域ト同一視スヘカラ

サルモノアリ、從ツテ帝国政府トシテハ此ノ方面ノ秩序ヲ維持シ其利益ヲ保全スル為ニハ其全力ヲ傾注セサルヘカラ

ス現ニ奉直開戦後既ニ当地方邦人ノ蒙レル經濟上ノ打撃文ニテモ鮮少ナラサルモノアリ奉天ニ於ケル綿糸布商及雜貨商ノ支那商ニ対スル売掛代金ノミニテモ百五十万円ニ達

ス若シ夫レ一朝奉天軍慘敗ノ曉ニ於テ滿蒙各地ノ秩序紊乱シ其蒙ルコトアルヘキ被害ノ甚大ナルモノアルヘキヲ思ハ

ハ前記ノ如ク万全ノ策ヲ講シ置クコト緊要ナルニ非サルカ重ネテ茲ニ愚見ヲ開陳ス

在支公使ヘ転電シ関東長官ヘ暗送セリ

第三四二号

（九月二十五日接受）

二十三日夜張作霖ハ左ノ通本官ニ語レリ

（一）山海関ハ要害ノ地ニシテ之ヲ奪取スル為ニハ多大ノ犠牲ヲ払ハサルヘカラサルヲ以テ差当リ同方面ニ対シテハ我

カ主力ヲ錦州一帯ニ集メ當分ノ内单ニ敵ヲ牽制スルノ程度ニ止メ而シテ熱河方面ニ向ツテハ全力ヲ以テ攻勢ヲ取

リ今ヤ既ニ朝陽、開魯ヲ陥レ吳督軍ハ開魯ニ向ヒタルヲ以テ近ク赤峰熱河ヲ奪取シ瀋州方面ニ出テ背後ヨリ敵ヲ

突クノ計画ニテ現ニ少シモ戰線ニ立タサル兵六万ヲ有ス、尤モ奉天側トシテハ熱河ト山海関ヲ我カ手ニ收メタ

ル上ハ敢テ進出セス直ニ持久戦ニ移ル積リナリ

（二）盧永祥ノ杭州退出ハ盧ト孫トノ間ニ妥協成立シタルノ結果ナリトノ說アルモ未タ確報ニ接セサルヲ以テ真相不明ナリ、但シ盧ノ來電ハ極メテ樂觀的ニシテ且安心セヨト

特ニ書キ添ヘアリタリ、尤モ最近其ノ請求ニ応シ盧ノ許

居タル由ナルニ付其内何等我方ニ申込ミ来ルカト思ハルル

處東支鐵道建造經營約款ノ軍隊輸送規定ハ今回ノ如キ場合ニ適用ス可キモノナルヤ疑ヒアル所ニシテ交戦者ノ一方ニ

軍隊輸送ヲ許サハ他方ハ之ニ向ヒテ對敵行動ヲ敢テスルニ至リ我物資的損害ハ勿論交通安全モ到底保持シ難キ事トナ

ル可キニ依リ拙電第八八二号中ニ断言セシ如ク結局中立トシテ双方ニ使用ヲ許ササル外ナカラシカト考ヘル次第ナル

モ此ノ方針ヲ執ル場合ニ於テモ其実施時機ニ付テハ頗ル注意ヲ要シ現在奉天軍ヲ運搬シ居ル事情モアリ且又将来ノ戰

局等ニモ考慮ヲ及ホス必要アルヨリ差当リテハ相當行動ノ余地ヲ存シ置ク事或ハ適當トモ考ヘラル之等ノ点ニ關シ何

分ノ御意見至急御指示置キ相成度シ

奉天ヘ転電セリ

三〇一 九月二十四日

（在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

対直隸作戦並ビニ盧永祥、段祺瑞ノ動向ニツ

ヰ張作霖内話ノ件

京直ニ曹鋐ニ謁見セルニ曹鋐ハ万事舉ケテ吳ニ一任スル旨ヲ述ヘ且自己ノ任期満了ノ上ハ吳ニ於テ大總統ヲ引受ケムコトヲ希望セルニ吳ハ大總統トナルハ絶対ニ拒絶スルモ國務一切ノ責任ハ引受クヘシト語リタル由ナルカ往電第八八二号中ニモ些カ記述セシ如ク同人普京後ハ事實上ノ「ディクテータ」タル感アリ駐日公使汪榮寶急遽帰任ヲ命セラレシ如キ其一例ニシテ汪ハ從来種々口実ヲ設ケテ帰任ヲ肯セサリシモ岡野カ不用意ニ洩セル處ニ拠レハ坂西中將ハ吳

カ日本ト連絡ヲ計ルハ當地ニ於テ本使ト接触スル以外ニ日本ニ於テモ適當ノ代表者ヲ有シ東京政府幹部ヲ直接動カス必要アルコトヲ建言シ吳ハ十八日本使ト会談ノ際本使カ満州ニ於ケル事態ノ動搖ハ日本ノ無関心タルヲ得サル處ナリト語リタルコトニ思合ハセ立チ處ニ右ノ建言ヲ採用シ直ニ汪榮寶ヲ呼出シ汪カ帰任ヲ肯セサルハ留学生費用ノ為ナルヘキ処爾今必要額ヲ吳ヨリ支給スルニ付至急帰任スヘシト命令シ汪ハ大急キ帰任スルコトトナレル趣ナルカ吳ノ独断専行ハ今後益々顯著トナラムカト思ハル而シテ目下ノ處彼ハ種々ナル人物ヲ其配下ニ集メムト計画シ居ル模様アリ路透通信員「ワーン」ノ如キモ既ニ顧問ニ雇入レ又日本側ニ

三〇五 九月二十六日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

顏總理ノ晩餐会ノ席上吳佩孚ヨリ滿州へ進攻  
ノ際鉄道使用等ノ便宜供与方希望アリタルニ  
ツキ回答振り請訓ノ件

（九月二十七日接受）

第九〇〇号

吳佩孚カ本使ト会談ヲ重ネ度キ希望ヲ有シ其機会ヲ作ル為種々手ヲ尽シテ食事ニ招待セルモ本使ハ聊カ考フル處モアリ体善ク謝絶スルト共ニ若第三者カ彼我双方ヲ招待シ右ノ機會ヲ与フル如キ事アラハ喜ンテ之ニ応スヘキ旨答ヘ置タル處其結果カ顏國務總理ハ九月二十五日彼我両者ヲ晩餐ニ招ク事トナリ食後顏ヨリ時局問題ニ付開口シ來タリ曹鋐ハ憲法上適法ノ大總統ニシテ現政府ハ何レノ点ヨリ見ルモ正當政府ナル以上之カ既ニ討逆令ヲ發布シタル以上ハ奉天軍ハ叛逆軍ニシテ中央政府ハ滿州ニ於ケル日本人ノ生命財產等ハ充分保護スヘク故ニ日本政府ニ於テモ直隸軍ヲ正當ノ國軍トシ奉天軍ハ之ヲ逆軍トシテ取扱ハレンコトヲ希望スル旨ヲ語リタルニ依リ本使ハ右ハ支那政府ノ立場ヨリセハ一理アル事ナルモ外國ニ我國ノ立場ヨリセハ又異ナリタ

於テハ坂西、岡野ノ外小谷節夫、佐々木嘉吉モ雇傭セラレルコトナリ九月二十四日同中將ヨリ本使ニ報告シ出タル處裏之右ニ関シテハ種々伝説ヲ耳ニシ居タルニ依リ今回ノ任命カ戰鬪ニ干与スルヲ目的トスルモノナルニ於テハ承諾シ難シト考ヘ居タルニ付此点ニ付念ヲ押シタルニ同中將ハ絶対ニ之ヲ否認シ其任務ハ軍事ヲ離レ寧ロ外交的方面ヲ目的トスルモノニシテ取分ケ吳カ滿州ニ進出セル場合日本トノ関係最モ細心ノ注意ヲ要スルニ付此種ノ事柄ニ触掌スル為メニシテ同中將自身トシテハ此任命ヲ受諾スルコト日本ニ取リテ利益ト考ヘタル結果ナル由ニ付本使モ異議ヲ挾ム必要ヲ認メス其通リナラハ差支ナキ旨答ヘ置タリ為念

三〇四 九月二十五日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
坂西中將ノ直魯予巡閱使顧問就任ニツキ申進  
ノ件

第八九三号

（九月二十六日接受）

## 対策ニツキ意見開陳ノ件

三七四

迄之ニ異議ヲ唱へス而カモ或ル事項ニ付テハ奉天ト連絡ヲ保チ來レル事実アルカ故ニ今ニ及ヒテ翻然此関係ヲ覆ヘサントスルハ實際不可能ノコトナルヘシト説キタル所吳ハ此

点ニ付テハ議論モ繼續セス転シテ直隸軍カ滿州ニ入り込ミタル際日本ヨリ鉄道ノ使用及ヒ付屬地通過ニ付便宜ヲ受ケタク鉄道ニ付テハ條約規定ノ半額割引ヲ希望スト述ヘタルニ付キ本使ハ今回ノ事變ニ關シ日本政府カ不偏不党ノ態度ナルコトハ已ニ訓令ニモ接シ居リ今之ヲ言明スルニ躊躇セサル所ナルモ右ノ如キ事実問題ニ付テハ即答差控ヘサルヲ得ス而シテ本使一己トシテハ出来得ル丈ヶ便宜ヲ取計ヒタキ積リナルモ委細ハ早速政府ニ報告ノ上回答ヲ俟チテ確答スルコトトセント答ヘ彼ハ尚其場合ニハ在満州日本文武官憲ヨリモ便宜ヲ受ケタキ旨希望セリ就テハ往電第八八二号及第八八九号等ヲ御参照ノ上右鉄道使用及付屬地通過事項ニ対スル回答振り御回相成度シ

奉天ヘ転電シ天津ヘ暗送セリ

三〇六 九月二十六日 児玉閑東長官ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ノ満鉄使用申出ニ対シ我方ノ執ルベキ

前記特使來リタル場合ハ満鉄トシテハ「滿蒙ニ於テ殊ニ満鉄沿線ニ於テ戰闘ヲ見ル如キハ満鉄ニ取り重大ナル事柄ナリ、之ヲ予想セル軍隊輸送ノ申込ニ対シ満鉄限リ回答スルヲ得ス須ク日本政府ノ意向ヲ問合サレタシ」ト体ヨク拒絶ノ意味ヲ以テ回答シタキ希望アリ、至極妥当ナル回答振りト認メラル

本官ハ時局ニ対シテハ予メ御訓令ニ基キ慎重ノ態度ヲ持シ過誤ナキ様期シツツアルモ東三省殊ニ南滿州ハ我国特殊利害ノ地域ナルニ鑑ミ其ノ現状ヲ破壞シ延テ之ヲ交戰地域ニ置クカ如キ帝国ハ之ヲ防止スルノ必要アリト認ムルヲ以テ

斯ノ如ク奉直兩軍交戰ノ進展ニ伴ヒ我カ特殊ノ利害關係ヲ有スル東三省ニ直接重大ナル影響及フヘキ事態ハ益々緊切ヲ加フルニ至レリ此ノ際政府ハ予メ東三省ニ対スル我カ帝國政府ノ態度ヲ一層闡明ニセラレ確乎タル方針ヲ示サレンコトヲ切望ス、惟フニ両軍衝突ノ結果ハ之ヲ逆睹スヘカラナルモ差當リ帝国政府トンテハ次ノ場合ヲ予想シ其ノ態度ヲ決定シ置クヲ急務ナリト認ム、即チ奉ノ不利ニシテ東三省ハ兵馬ノ巷トナラントスル虞アルニ至ラハ帝国政府ハ南滿州ノ治安維持ノ為機ヲ逸セス最有効ナル自衛的行動ヲ取ラルルコトニ根本方針ヲ確定セラレント望ム

若シ前述ノ根本方針ヲ確立セラル上ハ其ノ前提トンテ奉

直両軍ノ勝敗未タ決セサル今日ニ於テ速ニ北京政府ニ対シ如何ナル場合ニ於テモ南滿州ノ治安ヲ攪乱スルカ如キ行動

ハ該地方ニ緊切ノ關係ヲ有スル帝国政府ノ断シテ容認スルコト能ハサル所以ヲ警告シ一方奉天側ニ対シテハ飽迄モ自衛的行動ノ範囲ヲ越ヘサル様警告ヲ發シ以テ戰鬪区域ノ局

## 第九五号

本月二十二日吳佩孚ハ在北京滿鉄公所長ニ対シ戰局進展ニ

伴ヒ直隸軍カ滿鉄沿線ニ至リタル場合ハ好意ヲ以テ軍隊輸送方御引受願ヒタシト申出テタルヲ以テ同公所長ハ軍隊輸送ハ手続其ノ他ノ都合モアル故ニ所長限り引受難シト述ヘタル處戰局モ急ニ迫リ居ルニ付不日特使ヲ大連旅順ニ派遣シ予メ日本側各當局ノ諒解ヲ得ルコトニ致シタシト付言セシ趣ナリ

限ヲ慾漬シ併セテ東三省ニ対シ帝国政府ノ立場ヲ闡明シ且他日帝国政府カ自衛的行動ニ出ツル場合ニ於テ列國ヲシテ我国ノ立場ヲ諒解セシメ其ノ行動ノ当然ナル所以ヲ明カニスル素地ヲ作り置クハ時局ニ対スル最適當ナル措置ナリト認ムル次第ナリ、右請訓スルト同時ニ時局ニ闕シ卑見ヲ開陳ス

在支公使及奉天ヘ転電セリ

三〇七 九月二十六日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

中國時局ニ關シ邦人義勇兵募集ニツキ報告ノ件

機密公第三九六号

大正十三年九月二十六日

在奉天

総領事 船津 辰一郎（印）

外務大臣男爵 常原 喜重郎殿  
支那時局ニ關シ邦人義勇兵募集ニ關スル件

支那時局ニ關シ張宗昌ノ顧問ト称スル奉天藤波町居住倉谷箕藏カ秘密裡ニ義勇兵ノ募集ニ着手シ配下川崎某ヲ募兵ノ

為メ大連方面へ出発セシメタル件ニ付キテハ本月十八日付機密公第三七九号拙信ヲ以テ及報告置候處其後大連警務署長ノ右ニ閔スル通報ニヨレハ川崎力ハ大正十年ノ頃大連市栄町末永豊太郎方傭人トシテ雇ハレ居リシ縁故ヲ述リ末永方ニ寄寓シ奉天新聞大連支局記者益田積三ヲ通シ今回ノ募兵ハ張宗昌ノ旨ヲ享ケ奉天特務機關菊地少将ノ諒解ヲ得タルノミナラス関東厅ノ諒解ヲ得タルヲ以テ（此点甚タ疑ハシキモ原文ノ儘ヲ記ス）地方警察官憲モ亦絶対ニ之ヲ阻止スルカ如キコト無之応募者ニ対シテハ出發前支度料トシテ五十円（後二十円ニ減額ス）軍役中ハ毎月奉天大洋五十円ヲ支給スル外被服食料ヲ給シ其他種々ノ特典アリト称シテ義勇兵ノ募集ヲ為シタル為メ目下就職難ニ苦シミ居ルモノハ勿論思ハシキ収入ナキモノハ期セスシテ之ニ応募シ忽チニシテ五十名ノ人員ヲ得タルモ川崎ハ倉谷ヨリ募集費用トシテ金三百円ヲ受領シタル内五十円ヲ費消シ僅カニ二百五十円ヲ所持スルニ過キス支度料ノ交付不能ナルノミナラス大連出發ノ準備スラ困難ナルヨリ応募者五十名ヲ三十名ニ減員シ且ツ支度料ハ奉天着ノ上交付スヘシトテ応募者ノ諒解ヲ求メ本月十七日午後四時秘密裡ニ寄々前記末永豊太

郎方ニ一同ヲ集合セシメ同夜十時発列車ニテ出発スヘク準備中大連警務署ニ於テ之ヲ探知シ応募者一同ニ対シテハ帝國ノ方針ニ反シテ此種ノ輕挙ニ出テタルコトヲ訓戒シ川崎ニ対シテハ其無謀ヲ嚴戒スルト共ニ閔東州内ニ於テ再ヒ斯カル計画ヲ実行スヘカラサルコトヲ嚴命シ解散セシメタルニ応募者中ニハ既ニ家財ヲ売却シ又ハ妻子ヲ知人ニ托シ或ハ奉公先ヲ辞去セシ者等尠カラス川崎ノ欺瞞行為ヲ憤慨スル者多カリシカ結局川崎ノ所持金中ヨリ一人毎ニ金五円ツツノ破約金ヲ交付シ無事解散セリトノコトニ有之候条何等御参考迄此段報告申進候也

## 三〇八 九月二十七日 幣原外務大臣宛（電報）

## 王財政總長ノ直隸軍ノ軍費調達情況並ビニ戰

## 局ノ前途ニ閔スル内話報告ノ件

第九〇三号 （九月二十八日接受）

討伐軍ノ陣容成リタルモ所要軍費ノ籌款ハ現下ノ財政状態ニ照ラシ頗ル困難ト目セラレ或ハ外国銀行團ニ接洽スヘシト為シ或ハ金法案ノ解決ヲ期スヘシトモ伝ヘラレ次テ閔税ヲ担保トスル國庫券及崇文門稅收ヲ引当トスル特別國庫券

発行ノ計画アルヤノ報道アリ最近ニハ滄石鉄道借款ノ締結ニ依ル約十三万磅ノ前貸金成立ノ報モアリ甚シキニ至リテハ政府ハ窮余水災義捐金ヲ流用シテ當面焦眉ノ軍費ニ充ツヘシトノ風説サヘ伝ヘラレタルカ九月二十七日王財政總長ハ岸田ニ對シ王ハ曹總統及吳佩孚ノ懇望ニ依リ重任シタルモ軍費ノ調達ニ付テハ元ヨリ確タル成算アルニアラス從テ京畿治安維持ニ要スル經費ノ調達ニ閔シテハ最善ノ努力ヲ尽スヘキモ莫大ナル軍費ニ至テハ到底其責ニ任シ難キ事ヲ留保シテ就任セル次第ナリトテ先此際金法案ヲ一挙ニ解決スヘシトノ報道ヲ否認シ更ニ滄石鉄道借款成立説モ王ノ聞知セサル処ナリト付言シタル上今日迄ノ處軍隊移動等ニ要スル費用ハ專ラ總統府方面ノ電達及曹總統吳佩孚等ノ内論ニ依ル地方ヨリノ醸集ニ依レリ地方ヨリノ回金ハ意外ニ多額ニ上リ山東ノ六十二万湖北ノ八十萬河南ノ五十萬ヲ始メトシ其他ヨリモ二、三十万ツツノ醵出アルノミナラス一方兵站軍需總監ニ特任セラレタル曹鍊ニ於テ既ニ天津ヲ中心トシ軍需品現品（此ノ額約二百万弗）徵發ノ見込ミモ立チタルニ付差當リ予定ノ軍事行動ヲ進捲スルコトヲ得ヘシ而シテ王財政總長トシテハ目下絶対必要限度ノ經費捻出ニ苦

奉天へ転電シ天津へ暗送セリ

三〇九 九月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

討逆司令吳佩孚ノ張作霖討伐ニ伴イ外國居

留民保護ニツキ布告ヲ發シタル件

第九〇八号 （九月二十八日接受）

吳佩孚ハ討逆軍總司令ノ名ヲ以テ長文ノ布告ヲ發シタルカ

其要旨左ノ如シ

張作霖討伐ノ理由ハ既ニ大總統令ニ依リ明ナリ中央ハ合法政府ノ威令ヲ以テ内乱ヲ鎮定スルモノニシテ各友邦亦支那ノ統一ヲ希望スルノ至情ニ基キ深ク之ヲ諒トシ同情ヲ表ス（沿途）ノ外国居留民ノ生命財産ハ條約ニ照ラシテ厚ク保護スヘク殊ニ南滿州鉄道及日本居留民多数ニシテ關係甚タ密接ナルニ顧ミ必ス安ンシテ從業セシメ市街ノ損失ナカラシメ以テ唇齒輔車ノ信義ヲ尽シ日支親善ノ精神ヲ貫徹スヘシ云々

奉天ニ転電セリ

三一〇 九月二十九日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ノ出陣前ニ我ガ方ノ立場声明方有効ト

第九一四号（極秘）

拙電第八八三号ノ對支聲明ハ固ヨリ帝國本然ノ立場ヲ知ラシムル方法ナリト雖モ兼テ一種際物的効能ヲ有スルハ拙電第八八二号所述ノ通ナルニ依リ之カ發送ノ機如何ハ頗ル大切ナル事柄ニ属シ現下ノ状勢ニ照セハ出來得ル丈迅速ニ發

送スルヲ要スルモノニシテ本使トンテハ其効果カ如何ニ吳佩孚ノ態度ニ現ハルルカラ観察スルコト将来ノ画策上甚タ肝要ナルモノナル處直隸派ノ軍隊ハ既ニ大部分戰地ニ向ヒタル次第ナルヲ以テ先般同人カ主部隊ヲ出発セシメタル時ハ自己ノ戰地ニ向フ時機ナルヲ語レル点ニ顧ミ或ハ其当地ヨリノ進出モ間近ニアランカト思ハル次第ナル處右ノ声明発送ニシテ彼ノ出発後トナルカ如キ場合アランカ甚シク妙ヲ欠クコトトナルヘキニ付至急廟議ヲ決定セラレンコトヲ切望ス

因ニ吳ノ出陣ニ就テハ種々ノ取沙汰アリ或ハ彼ノ直接配下タルヘキ胡景翼（元陝西省ノ匪賊）ノ如キ張作霖ヨリ五十万弗ヲ得ル為一師二旅ヲ擁シテ通州ニ出營セル儘吳ノ出動命令ヲ肯セス又吳ノ軍資ハ往電第九〇三号王克敏ノ談話ニ就テ考フルモ一ヶ月ノ軍資ニ足ラス、然モ将来ノ収入ハ何等保障セラレ居ラサル為此等ニ掣肘セラレテ容易ニ出発スルヲ得スト觀察スル向モアリ且九月二十八日東方時報社ハ吳カ最近計画ヲ变更シ奉天軍ヲ閔内ニ誘致シ得サル限り熱河ノ把握ヲ鞏固ニシテ守勢ヲ執リ先以テ上海方面ノ戰争ヲ決スル傍外交問題主トシテ対日關係ノ整理ニ鞅掌スルコト

トナレル旨報シ居レルニ付吳カ北京ヲ出ルハ或ハ未タ接近シ居ラサルヤ計ラレサルモ此場合ニ於テモ右ニ報スル如ク

對日外交ニ鞅掌スル考ヲ有スル以上我ハ先彼ニ手応アル警告ヲ与ヘテ折衝ニ資スル必要アリ將又順天時報ヲ初メ其他邦人經營ノ諸新聞紙中動モスレハ北京政府ノ意ニ逆フカ如キ記事論説ヲ掲タル場合帝國政府ニ於テ果シテ吳ニ警告ヲ与ヘントセラルニ於テハ右ノ如キ記事論説ハ之ヲ看過スルコト致シ（タ）ク何レニスルモ政府ノ御決定ハ本使ノ至急承知シ度キ所ナルニ依リ事情御洞察ノ上何分ノ儀御訓アリタシ

魂胆ナルヲ以テ結局奉天側ノ勝利ニ帰スヘント語リタル趣ナリ

（一）最近飛行機ニ依リテ山海關方面ヲ偵察シ來リタル仏人Boixノ談ニ依レハ且下直隸軍ハ大ニ山海關方面ニ兵力ヲ集中シツツアリトノコトナルカ右ハ奉天軍ノ主力ヲ熱河方面ニ引付ケ置キ其虚ニ乗シ高粱ノ取入レヲ待閔外ニ突入セントスル方策ニアラスヤト觀測スルモノナリ

（二）奉天軍カ朝陽ヲ占領スル迄ハ非常ノ激戦アリタルカ如ク奉天側ハ誇大ニ報道シ居ルモ実地同方面ヲ視察シ來リタル邦人ノ言ニ依レハ同地ノ直隸軍ハ余リ戦ハシシテ予定ノ退却ヲ為セルモノノ如ク奉天軍ノ死傷者ノ如キモ今日迄ニ僅ニ百五十名ヲ出テ斯要スルニ未タ戦争ラシキモノハ開始セラレタルニアラスト

ントノ英國領事談等ニツキ報告ノ件

第三五五号

（九月三十日接受）

（一）當地英國領事ハ滿鉄外人係ニ對シ奉直兩軍ノ兵力ニ於テハ奉天軍ハ到底直隸軍ノ敵ニアラサルモ最近北京公使

ヨリノ内報ニ依レハ馮玉祥ノ軍隊ハ熱河方面ニ於テ愈奉軍ト衝突スル場合ハ妥協ヲ遂ケ直隸側ニ裏切ラントスル

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三一一三一二

第五九七号

三一一 九月二十九日 在奉天船津總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

共同勧告案ヲ提議サレタキ旨私見申出ノ件

九月二十四日仏國大使來訪支那ノ動亂益々拡大シテ国内無

秩序ニ陥ルノ危険アルコトヲ述へ此際同大使一己ノ私見トシテハ列国ニ於テ人道上ノ見地ヨリ奉直双方ニ対シ戦争中止ノ勧告ヲ為スノ必要アルヘク之カ為ニハ日本政府自ラ率先シ右共同勧告案ヲ列国ニ提議セラレムコトヲ希望スル旨並ニ日本政府ヨリ此ノ提議アルニ於テハ仏国政府ハ欣然支持ヲ与フヘキコト疑ヲ容レサル旨ヲ申出テタリ本大臣ハ先ツ右申出カ全然同大使限リノ私見ナルコトヲ確メタル上本大臣モ亦一個ノ私見トシテ自分ハ戦争ノ中止勧告案ニ付テハ予テ考量ヲ加ヘツツアルモノ下ノ情勢ニ際シ奉直孰レモ勝算歴然タルモノノ如ク吹聴セル折柄外国ヨリ右勧告アルトキハ其ノ動機如何ニ純潔ナリトモ孰レカノ一方又ハ双方共ニ猜疑ノ念ヲ以テ之ヲ迎ヘ自己ニ不利ナル一種ノ干渉ナリトシテ之ニ反抗スルコトナシトセス事茲ニ至ラハ列国ハ計画ヲ抛棄スルカ然ラサレハ更ニ強圧ヲ支那ニ加フルノ外ナカルヘク前者ノ場合ニハ列国ニ取リテ支那ニ対スル威信ヲ失墜スルノ虞アリ又後者ノ場合ニハ仮令強圧其ノ効ヲ奏スルコトアリトスルモ不自然ニ成立セル平和ハ到底永続ヲ期スヘカラス遠カラス再ヒ危機ノ切迫ヲ見ルニ至ルヘシ從テ本件勧告ニ付テハ今暫ク時機ノ熟スルヲ待ツヲ適當ト思

考スト答ヘタリ仏国大使ハ之ニ対シ追テ勧告力失敗ニ「了」トモ支那ノ時局ハ之力為今日ヨリモ一層陥惡ヲ加フルモノト謂フヘカラス又支那ニ対スル若干ノ不面目ノ如キハ他ノ一方ニ於テ世界ノ公論ヨリ受クヘキ同情的認識ニ顧ミ深ク意ニ介スルニ足ラサルヘシト述ヘタルニ付本大臣ハ仮令支那ニ対スル不面目ハ忍フヘシトスルモ勧告ノ為支那人ノ誤解ト憤懣トヲ招クノ虞アリ以上尚篤ト慎重ナル用意ヲ要スル旨ヲ再説セルニ仏国大使ハ能ク了解セリ何レニスルモ斯ノ如キ列国共同措置ノ必要アルニ至ラハ日本ニ於テ率先發議セラレムコトヲ望ムト答ヘタリ本大臣ハ同大使ノ好意ヲ謝シ追テ適當ノ時機ニ於テ右好意ヲ利用スルコトアルヘシト告ケ置ケリ

### 三一三 九月二十九日 在中原外務大臣ヨリ

幣原外務大臣（電報）

### 駐日英國大使ハ中國紛争ニ関シ列國協調ニ重

### キヲ置キ暫ク平和促進ノ機会ヲ注視スル外ナ

### キ旨申述ノ件

第五九八号  
九月二十五日英國大使來訪前日仏国大使ハ同大使ト會見ノ

節支那ニ於ケル戦争中止ノ勧告問題ニ言及シ既ニ同一ノ自説ヲ本大臣ヘモ述ヘ置キタル旨内話ノ次第アリタリト語リ右仏国大使ノ説ニ対スル本大臣ノ意見ヲ問ヒタルニ付往電第五九七号仏国大使ニ応酬セルト同一趣旨ヲ答ヘタル処英

国大使ハ本大臣ノ意見カ全然英國政府ノ意見ト一致セル旨ヲ述ヘ今日列国側ヨリ支那ニ対シ何等ノ措置ヲ執ルモ有益ナル結果ヲ期待シ難ク列国トシテハ暫ク平和促進ノ機会ヲ注視スルノ外ナキ旨（The Powers have only to watch an occasion for the pacification of China）本国政府來電中ニ見エタリト云ヒ仏国大使ノ説モ恐クハ何等仏国政府ノ意見ヲ反映スルモノニ非サルヘシ尙ホ英國政府ハ列国協

調ニ重ヲ措キ単獨行動ハ面白カラスト思考スル旨付言セリ

次テ本大臣ハ貴電第八八八号ニ基キ北京方面ニ於テハ英國大使ヨリ日本ハ張作霖援助ニ決定シ吳佩孚ノ満州侵入防止策ヲ攻究シ居ル旨北京ニ電報セルヤノ風説アル趣ヲ指摘シタルニ同大使ハ憤慨ノ色ヲ示シ自分ハ今回開戦以来未タ一回モ北京ヘ電報セルコトナキ旨強ク断言シ斯ノ如キ風説ハ何人カ流布スルヤ自分ヲ誣ユルモ甚シトテ同大使カ常ニ英國政府ノ方針ヲ体シ日英同盟ノ消滅ニ拘ハラス日本トノ旧

### 三一四 九月三十日 整原外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛（電報）

滿鉄ノ奉天軍隊輸送ハ普通業務トシテ取計タ  
ル旨並ビニ直隸軍輸送ハ今後時局ノ推移ニ応  
ジ処理スル外ナキニツキ然ルベク応酬サレタ  
キ件

### 第六〇二号

貴電第八九〇号ニ関シ

過般來満鉄会社ニ於テ奉天軍隊ヲ輸送シタルハ先例モアリ同社ノ普通業務トシテ取計ヒタルニ過キス又奉天官憲カ自己管内ノ一地点ヨリ他ノ地点ヘノ軍隊輸送ヲ満鉄ニ求メタルニ当リ我方トシテハ鐵道沿線ノ治安ニ妨ナキ場合ニ於テ妄リニ故障ヲ挾ムヘキ謂モナク且ツ右軍隊輸送ノ承認ハ一方ニ対スル何等軍事的便宜ヲ供セムトスルカ如キ趣旨ニ出テタルニアラサルハ勿論ナル処将来満鉄沿線ノ治安維持ノ

為必要アリト認メラルル場合ニハ滿鉄会社ニ命ン孰レノ支那軍隊ニ対シテモ輸送ヲ拒絶セシムルコトアルヘシ從テ直隸軍隊輸送問題ニ付テハ今後時局ノ推移ニ応シテ處理スルノ外ナク今日ヨリ予メ許否ヲ決スルコトヲ得ス貴官ハ先方ヨリ本問題交渉アラハ以上ノ趣旨ヲ体シテ可然応酬セラレ度

右奉天、関東長官ニ転電シ尚適宜説明ヲ付シ長春、天津、上海、漢口、廣東ニ転電アリタシ

三一五 十月四日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

奉直両派ニ対シ交通自在ノ立場ヲ維持シテ張  
吳両者ヲ操縦スルコト最モ必要ナル旨意見具

申ノ件

第九四九号 (極秘)

(十月五日接受)

盧永祥カ急ニ攻勢ヲ棄テ守勢ニ転シタルハ大体ニ於テ其将来ヲ悲觀セシムル趣アルト共ニ奉天軍ニ直接間接ノ悪影響ヲ与ヘタルハ当然ノ義ニシテ直派内部ノ結束稍々見ルヘキモノアルニ至リタルカ如キ当ニ其一反射作用ト認ムルヲ得ヘク為ニ奉直未タ主力ノ衝突ヲ見サルニ既ニ勝利ハ直隸

九一四号ニ一言セシ如ク先ツ差當リ対日關係ノ妥定ニ傾注スト言フハ強チ無稽ノ取沙汰ニアラス又本使ノ実感スル所等モ確カニ此傾向アルカ故ニ(彼レ北京ヲ出ツルモ直ニ戰線ニ赴クヤ否ヤ疑アリ或ハ當地付近例之豊台又ハ天津ニ本營ヲ置カソカト思ハル)直隸軍ノ将来又必シモ樂觀ヲ許ルササルモノアリ勝敗ノ判断ハ結局實戰ニ俟タサルヘカラサルモ要スルニ(一)吳佩孚敗北シテ洛陽ニ引揚クル場合(二)張作霖敗北ノ場合(三)引分ノ場合ノ三者ノ外ニ出テサルヘキ処(一)ノ場合ハ滿州ニ於テ絶大ナル利害關係ヲ有スル帝國トシテ周到ナル攻究ヲ遂ケ置クヘキ必要アルコト勿論ナルカ(一)及(三)ノ場合ニ付テハ滿州ノ閥スル限り特ニ懸念スヘキ必要ナキモ吳佩孚カ将来我方ニ対シ不快ノ感ヲ抱キ其結果支那ノ中央ニ於ケル帝國ノ立場ヲシテ再ヒ不利ナラシムル虞アリ旁帝国トシテハ此間单ニ消極方面ニノミ没頭スルコトトナク此等ノ場合ニ付テモ適切ナル方策ヲ講スルヲ必要トス殊ニ支那ニ対スル帝國ノ立場ヨリ云ヘハ凡ソ機会アル毎ニ之ヲ逸セス我利權ノ發展ニ利用スヘキハ當然ニ属ス而シテ此方針ニ基ク画策ハ出来得ル丈早目ニ之ヲ決定シ現在ノ如ク兩勢対峙シ互ニ鎗ヲ削レル時機ニ乗スルコト最適切ニシテ

軍ニ向ヘリト迄予断スルモノアルニ至リタリト雖本使ノ観ル所ヲ以テスレハ直軍兵數及統帥ニ於テ優レハ奉軍ハ財力兵器ニ於テ一日ノ長アルカ如ク両者ノ優劣ハ容易ニ断スルヲ得ス而モ奉軍ハ冬季ニ戰フヲ得ヘキモ直軍ハ之ニ堪ユルヲ得サルヘキ弱点アリ彼ノ吳佩孚カニヶ月ニシテ滿州ヲ經略スト放言セルハ寧ロ嚴寒ノ候ニ先立チテ兵ヲ収ムル必要ヲ認メタル「アイロニイ」ナルカ如クニモ感セラル節アリ故ニ若シ両軍主力互ニ相制シテ持久戦ニ入ラムカ直隸軍部下ノ裏切ヲ怖レテ急ニ軍隊部署ノ変更ヲ始メ又山海關方面ノ陸戰ヲ援ケシムル為杜錫珪ノ海軍ヲ招キタルモ江蘇蘇局ノ為急速ニ來航セス加フルニ軍費亦思フニ委セサル為予定ノ計画ニ変更ヲ加フルノ已ムヲ得サルニ至リタル模様アリ其參謀長李成林カ海軍ヲ使用シテ營口ニ軍ヲ送ルカ如キハ費用其他ノ点ヨリ到底可能ノコトニアラスト最近佃ニ洩ラシタル如キ一面ノ消息ヲ伝フルモノナルヘキト共ニ吳ハ今日ニ於テハ入京當時ト異リ将来ヲ悲觀セサル迄モ幾分行路ニ難関アルヲ感知シ来リタルヤニ想像セラレ從テ往電第

危険無シトセス、將又張吳孰カ一方ニ偏スルハ其徹底的ニ遂行（脱<sup>?</sup>）ニ於テ之又確ニ一策ナリト雖モ）今日迄ニ知リ得タル兩者ノ内情ヨリ推察スルニ素ヨリ断言シ難キ次第ナルモ或ハ結局兩者再ヒ帶甲和平ノ状態ニ復帰スルコトトナルヤモ測リ難ク此ノ故ニ我方トシテハ表面上不偏不党ヲ標榜スルコト適當ナランモ此ノ表面上ノ政策ノミヲ金科玉条トナシ両派争闘ノ帰結ヲ考ヘ之ニ応スル対策ヲ講スルニアラサレハ悔ヲ後日ニ残スヘシ、勿論張作霖ト我ノ関係ハ特殊ノモノナルカ故ニ彼大勝ヲ得テ中原ニ驟足ヲ展フルカ如キ場合アリトスルモ彼カ満州ヲ根拠トスル限リ我ニ何等ノ策無キ次第ニアラサルモ吳佩孚ニンテ依然中央ニ勢力ヲ保ツモノトセンカ文字通リノ不偏不党ハ後日彼ノ報復材料トナルカ少ク共輕蔑ノ理由トナリ、支那本部ニ於ケル我勢力利權ノ發展ハ素ヨリ通商貿易ノ發達スラ大妨害ヲ受クルニ至ルハ殆ント疑ヲ容レサル処ナルニ依リ我ハ此際國際生存ノ真諦ニ立脚シ専ラ我将来ヲ慮シテ適切ノ方策ヲ廻ラス必要アル出差当リ吳佩孚及政府ノ最必要ヲ感シ居ル処ハ日本ノ好意ト軍資ニシテ現下急迫ノ時機ニ於ケル其ノ値ハ平時ニ於ケル夫レニ數倍スヘキニ依リ吳カ日本ノ資本及技能

吳交通總長及高等ヲシテ「ファガソン」外二名ノ米人ト？

ノ宅ニ密会商議セシメタル趣ニモアリ又彼ノ滄石鉄道ノ如キモ交通總長及曹銳ト天津、安利公司トノ間ニ商議ヲ進メ材料契約前渡金ノ名ヲ以テ約十五万磅ヲ（脱企テ居ル情報モアリ且現内閣高凌霨ヲ農商總長タラシメタルハ磁山ヲ提供シテ英米資本ヲ招致センカ為メナリトノ噂モ存在シ凡ソ之等ノ情報ハ一々眞実ナリトハ保証シ難キモ多少ノ根拠ハ之レアル可ク又貴電第五九八号ニ依レハ英國大使ハ閣下ニ対シ未タ當國時局ニ關シ當地英國公使ニ對シ一回モ電報ヲ発シタルコトナシト言明シタルカ如キハ固ヨリ信ス可カラサルト同時ニ今回ノ内乱ニ際シ英米人ノ同情カ吳佩孚ニ集要求トハ容易ニ一致スヘキコト之ヲ予期スルニ難カラサル次第ナルヲ以テ我レハ徒ラニ（不明）ノ政策ヲ弄セス自ラ進シテ機先ヲ制シ先ツ一石ヲ置キテ将来ノ足場ヲ作ル必要アリ而シテ我レ一度此ノ政策ニ出テンカ吳ニシテ満州（不明）スル場合ハ勿論又敗戦シテ洛陽ニ引下ル場合ト雖我ハ此ノ縁故ヲ迎リテ相當彼ヲ利用スルヲ得ヘキカ故ニ彼カ生存スル限り全然損失トナルカ如キコト殆ト無カルヘシ

ヲ以テ鐵道鉱山ノ開発ヲ遂ケント切望シ居ル（此点ハ吳カ滿鉄代表者其ノ他ニ語レル処ヲ綜合シテ疑ナキカ如シ）ヲ幸ヒ滿鉄又ハ三井三菱或ハ大倉等ノ如キ財閥ヨリ内密彼ニリトス尤モ斯ノ如キ方法ハ或ハ西原借款ノ二ノ舞ト論スルモノナキヲ保セスト雖吳ノ政治的生命力比較的健実ニシテ其地盤モ亦広大ナルヲ思ハハ自然贈ヲ吹クノ必要ナキヲ悟リ得ヘク況シヤ其ノ金額ニ於テモ殆ント比較ニナラサル少額ヲ以テ足ル可キニ於テヲヤ故ニ我ハ此際一種ノ捨石トシテ之ヲ試ムルニ躊躇スヘキ理由ナキノミナラス、若シ遼巡此機會ヲ逸センカ利權ハ遂ニ他国ノ掌裡ニ帰スヘキ虞アリ現ニ本使カ得タル情報ニ依レハ現農商總長高凌霨ハ最近大總統ニ向ヒ露國ハ張作霖ト協定ノ結果張ヲ助ク可日本モ亦種々ノ關係上同人ヲ援助スヘキニ依リ政府ハ之ニ对抗スル為メ米國ノ歎心ヲ買ヒ其ノ援助ヲ受クルヲ要ス而シテ之カ為ニハ先以テ鐵道敷設権ヲ同國ニ与ヘ政府ハ幾千カノ前渡金ヲ得ルコトセハ一挙兩得ナルヘシト建言シ（張志潭ノ策トモ称セラル）其ノ結果總統ハ九月三十日王秘書長、

尤モ斯ク云ヘハトテ本使ハ張作霖ヲ排セントスルモノニアラス我國カ張ニ相当ノ便宜ヲ与フル必要アルハ現ニ本戰爭開始以前（往電第七五四号）ニモ一言セシムニシテ今ニ於テ此見ヲ捨ツルモノニアラサルノミナラス彼ニ對シテモ其ノ現ニ最モ欲スル処ノモノヲ選ンテ内密之ヲ与ヘ以テ徐々ニ後日ノ利用ニ備フルハ甚ダ策ノ得タルモノト信スルモノニシテ要ハ此際張吳兩者ヲシテ相互ニ我利權ノ仲張ヲ保険セシメントスルニ在リ或ハ説ラナスマノ擾亂ノ永続ヲ助成スルモノトシテ此方策ヲ排スルナキヲ保セスト雖モ此方策タルヤ支那ノ実情ニ適スル實際的方法ニシテ我方ニ於テ此種ノ方策ヲ執ラサル場合ニ於テモ擾亂ハ容易ニ戢マラサル可ク併カモ列強カ日本ニ遠慮シテ利益ヲ逸スカ如キコト之ナキハ明白ニ有之旁我方トシテハ直隸反直兩派ニ対シ変通自在ノ立場ヲ維持シテ張吳両者ヲ操縱スルコト最必要ナル可ク併カモ如上ノ方策ヲ施スハ既ニ述ヘタル如ク目下ノ時機ヲ他ニシテ或ハ再ヒ求ム可カラサルニ依リ至急御考慮ヲ煩ハシタク將又往電第八八三号ノ声明ニシテ若シ政府ノ御意向ニ投セルモノトセハ彼ト是トハ調節関連センメ以テ機微ノ効果ヲ發揮スルニ力ム可ク本計画ノ実行ニ要スヘキ金

額モ両方面合計三四百万円乃至五六百万円モアラハ事足ル  
ヘキニ付機ヲ逸セス迅速御詮議ノ上至急何分ノ御回示アラ  
ンコトヲ切望ス

奉天、天津へ暗送セリ

三一六 十月六日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

直隸軍ノ東三省進出ノ場合ニ於ケル日本ノ各  
種事業等ノ承認問題ニツキ王毓芝等ト会談ノ  
件

第九五八号（極秘）

（十月七日接受）

（欄外註記）

十月四日大總統秘書長王毓芝國務院秘書長孫潤宇同伴來訪  
先ツ以テ数日来大總統ヨリ本使ヲ訪問ノ上時局ニ對スル日  
本ノ意向ヲ承ハル様命セラレ居リ本日其為メ來訪セル旨ヲ  
述ヘタル上元来大總統ノ北京ニ移ラサル前即チ保定ニ居住  
當時ヨリ張作霖トノ関係ヲ円満ニ保チ度キ希望ヲ有シ或ハ  
趙玉珂或ハ鮑貴卿ヲ奉天ニ遣シ張ヲ慰撫説得スルニ努メタ  
ルモ結局其効ナク却テ先方ヨリ挑戦的態度ニ出テ出兵スル  
ニ至リタル為メ此方モ已ムナク討逆令ヲ発スルコトトナリ  
タル次第ニシテ大總統モ誠ニ遺憾ニ感シ居ルモ事一旦茲ニ

ト呼ハス且ツ滿州ニ在テハ種々ノ事業ト關係トヲ有スルヲ  
以テ土地ノ権力者タル張作霖ヲ無視スル能ハサル事情ナル  
カ然シ之カ為メ日本ハ北京政府ヲ中央政府ト認メサルニア  
ラス之モ依然憲法上ノ政府ト認メ居ルハ御承知ノ通ナルニ  
依リ此点ハ了トセラレタシ  
而シテ茲ニ注意ヲ要スルハ個人個人ノ立場ニシテ滿州力地  
理上經濟上日本ト特殊ノ關係ニアリ從テ在留民モ多数ニ上  
リ居ル為個人的ニ種々ナル利害關係ヲ生スル結果或ハ自然  
奉天ニ同情ヲ有スルニ至レモノアルコトニシテ此種個人  
ノ立場ハ政府モ之ヲ如何トモスルヲ得サルコト恰モ直隸派  
ニ同情スル日本人（之又相当多數アリ）ヲ如何トモスル能  
ハサル如シ蓋シ斯ノ如キ個人ノ立場ハ全然政府ノ其ト異ナ  
ルカ故ニシテ政府トシテハ其立場國家ニアルカ故決シテ張  
ニ偏セス又直隸派ニモ傾ムカス不偏不党ヲ当初ヨリ主義ト  
セルモノナルコトハ本使カ屢々宣明セル通ナリ、尤モ滿州  
ニ於テハ日本ハ滿鉄始メ種々ナル形ニ於テ絶大ノ利害關係  
ヲ有スルニ依リ之カ危殆ニ瀕スルカ如キ場合アラハ到底坐  
視スルヲ得サルコト勿論ナルモ斯ノ如キ場合ヲ除キテハ孰  
レノ党派ニ対シテモ嚴ニ中立ノ態度ヲ持続スヘシ、尙ホ満

至リタル上ハ終局迄戦フ覚悟ナルト共ニ今日ヨリ大ニ考慮  
セサルヘカラサルコトハ滿州ニ於ケル日本トノ關係ニシテ  
日本ノ既得権及日本人ノ各種事業ハ勿論中央政府ニ於テ之  
ヲ尊重スヘク又日本カ張作霖ト締結セル諸約束モ元来滿州  
ハ張ノ私産ニアラサルカ故ニ中央ハ其責任ヲ負ヒ皆之ハ認  
ムルツモリナルニ依リ人民ヲ安堵セシムル為メ日本政府ニ  
於テ此趣旨ヲ公布周知セシメラルカ又ハ支那政府自ラニ  
ヲ宣明スルカ何レトモ日本ノ撰択ニ任シ之ヲ行フコトニ致  
スヘク又国軍（即チ直隸派）滿州ニ乗込ミタル上ハ軍政及  
民政ノ二長官ヲ設クル必要アル處此地位ニハ日本ノ意ニ投  
スル人物ヲ挙クルコトトスヘキニ依リ日本政府ニ於テモ充  
分支那政府ノ意ノアル處ヲ了セラレ度シト述ヘタルニ依リ  
本使ハ成程支那政府カ現在張作霖ヲ逆賊ト見做サレ居ルハ  
一応無理モナキ次第ナルモ元来安福派ヲ倒シタルハ奉直連  
合ノ力ナルカ更ニ一昨年ニ至リ奉直相互分離シテ戰争ヲ為  
シ現大總統ハ其後憲法ニ依リ正當ニ就任セラレタルモ東三  
省ハ依然中央ノ権力以外ニ立チテ独立ヲ維持シ昔日ノ奉直  
兩派ハ今日モ尚対立セル感アル為メ日本トシテハ此沿革ト  
事実ヲ無視スル能ハス直隸派奉天派ト呼ヒテ政府及逆賊ト

停ヲ為シタルモノト推定ス可キ事当然ニシテ其結果張作霖一種ノ威嚇トナル可キニ付張ニシテ此戦争ノ為滅亡スレハ兎モ角将来張力依然東三省ニ蟠居スルモノトセハ彼ノ恨ハ之ヲ敢テスルハ单ニ先方ノ張作霖牽制策ニ利用セラルニ過キサル可キヲ以テ我ハ先方ノ声言ハ満足トスル所ナルモ之カ公表ハ日本政府之ヲ為スト将又支那政府自ラ之ヲ為ストヲ問ハス其必要ヲ認メス若シ夫レ日本人民ヲ安心セシムル方法ニ至リテハ支那政府ノ声言ヲ諒得シ日本政府自身ニ於テ可然措置ス可ントノ旨ヲ婉曲ニ答へ置ク事適當ナランカト思考ス尤モ政府ニ於テ此際右声言ヲ何等カノ形式ニ於テ取付ケ置クヲ可トセラルニ於テハ本使ニ於テモ可然折衝ヲ試ミルニ反対ナラサルモ此ノ場合ハ自然幾分カ我将来ヲ「コンミット」セサルヲ得サル立場トナルヘク現在ノ情勢ニ照セハ今暫ク觀望シ居ル方得策ナルヤニ考ヘラルニ付之等ノ点モ併セテ御研究相成度ク尚本件ハ國務總理ト地位、勢力ニ於テ殆ト軒輊ナキ王カ（王ハ時局ニ臨ミ形式上ノ事ハ外交總長ニ交渉セラルモ宜シカラソモ本件ノ如キ

奉天、天津へ暗送セリ

（欄外註記）

不要回答

公使ノ意見ハ結局觀望ト云フコト也

（欄外註記）

三一七 十月六日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

孫秘書長へ回答ノ件

第九六〇号

貴電第六〇二号ニ関シ

十月二日孫秘書長ヲ招致シ貴電ノ趣旨ヲ篤ト説明シ吳佩孚

ノ如キハ其後數次ノ稟請ニ拘ラス今ニ何等ノ御回訓ニ接セ

ス為ニ折角ノ機会ヲ逸スル虞アル次第ナルカ之程重大ナラサル性質ノ事件ニシテモ御回訓ノ遲ルルカ又ハ時局ニ関スル館長ノ心得方徹底ヲ欠ケル為手違ヲ生シタルモノアリ其最モ甚シキ実例ハ捷利号事件ニシテ九月二十日發拙電第八六五号及同二十六日拙電第八九七号以来兩三回或ハ直接御催促申上ケ或ハ転電ノ方法ニ依リ御注意ヲ喚起セルニ拘ラス何等ノ御沙汰ナク而モ閔東長官ハ其間何等経伺ノ手続ヲ履マス二十七日午後出航ヲ許可シタル如キアリ又拙電第九三三号「チャンチリー」号飛行機ノ如キモ船津總領事來電第二八二号ニ依レハ十月四日及六日各十台宛大連ヨリ既ニ奉天ニ到着セル趣ニモアリ手違ヲ生シ居ルハ前者ト類似セルカ其責任所在ノ問題ハ別トシ何レノ途當国政府又ハ吳佩孚ニ対シ之ヲ説明スル要アル處右ノ如キ内部ノ手違ハ何等正当ノ理由ト為スヲ得サルコト當然ナルト共ニ誠ニ当惑ヲ感セサルヲ得ス

従テ例ヘハ貴電第六〇九号山東貨捐税ノ如キ本使モ亦直接コト云フ迄モナキ儀ナルニ拘ラス拙電第八八二号声明ノ件ニ申入ル事或ハ適當カト考ヘ居タルモ先方ノ依頼事項ニ關スル我方ノ取扱振り右様ノ始末ナル以上本件ニ付

ニ伝達ヲ求メタル処孫ハ委曲拝承シタルカ日本政府ノ意思ニハ予想ヲ含ムモノナリヤ換言スレハ満鉄沿線ノ治安カ亂ルルヤ否ヤハ實際直隸軍ノ輸送ヲ實行シタル後ニアラサレハ判明セサル儀ト思考スル専處日本政府ノ意向ハ单ニ直隸軍ヲ輸送スルニ於テハ治安ニ危険アルヘントノ予想ノ下ニ之カ輸送ヲ禁止スルコトアルヘントノ儀ナリヤトノ意味合ヲ推問シタルニ対シ吳佩孚ニ於テモ孫同様ノ疑問アラハ其節ハ政府ニ問合セ何分ノ儀回答ニ及フヘキモ今回ハ兎ニ角政府ヨリ申越ノ次第吳ニ伝達セラレタント述へ置キタルカ本件ニ対シテハ其後先方ヨリ何等ノ申出ニ接セス右不取敢奉天閔東厅ニ転電シ尚本電及往電第九〇〇号貴電第六〇二号ヲ綜合シ貴電第六〇二号末尾ノ通電報シ置ケリ

三一八 十月八日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

時局ニ關スル案件ハ迅速ニ處理スルヲ要スル

キ至急御回示ヲ得タキ件

（十月九日接受）

時局ニ關スル案件ハ出来得ルタケ迅速ニ處理スルヲ要スル

コト云フ迄モナキ儀ナルニ拘ラス拙電第八八二号声明ノ件ニ付

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三一八

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三一九 三二〇

三九〇

吳佩孚ニ嚴重申入ルル事ハ余リニ手前勝手ト非難サルルモ

致シ方無ク旁吳ニ対スル申入ハ之ヲ控ヘ居ル始末ナルカ今

後斯ノ如キ事度々發生スル様ニテハ唯ニ本使力職務執行上

困惑スルノミナラス大ニ國家ノ利益ヲ傷ツクル虞アルニ付

時局問題處理方ニ付テハ殊ニ切実御配慮ヲ煩ハシ度シ尙前

記捷利号事件ハ御承知ノ通當初吳佩孚ヨリ直接本使ニ依頼

セシ事件ニモ有之何トカ同提案ニ説明ヲ与フル必要有之或

ハ赤裸々ニ事情ヲ打明ケ我方ノ手違ヒハ手違トシテ「アド

ミット」シ置ク事適當カト存スル処右ニテ御異存ナキヤ飛

行機説ニ閔スル支那政府ヘノ回答振リト併セテ至急御指示

相成度シ将又冒頭所載拙電第八八二号ノ如キ或ハ拙電第九

四九号ノ件ノ如キ御詮議ニ相當時日ヲ要スヘキ事柄ナル可

キモ時機ヲ逸シテハ殆ト用ヲ為ササルト且本使トシテハ日

常応対上ノ心得ニモ關係アルニ付可否何レトモ貴見承知致

シ度キニ付何分ノ儀折返シ御回示ヲ請フ

三一九 十月八日

幣原外務大臣ヨリ  
兒玉関東長官宛（電報）

奉天官憲ヨリ軍事輸送ノタメ機関車貨車等ノ

貸与申出ニ閔シ滿鉄ニ示達方ノ件

三二〇 十月十一日

幣原外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛（電報）

日本ノ滿蒙ニ於ケル権利利益ノ保全ニ閔シ奉

直両軍二個別ニ同一ノ声明ヲ發出スルニ決定

ノ旨並ビニ日本ノ真意説明方訓令ノ件

別電 同日幣原外務大臣發在中国芳沢公使宛電報第六二

九号 右覚書

第六二八号 至急

直隸側ニ於テ特ニ滿蒙ニ於ケル我権利利益尊重ノ意向ヲ明

ニセント努メ居ル次第ハ累次ノ貴電ニ依リ承知セルモ政府

ニ於テ慎重考量ノ末是迄貴官ト吳佩孚又ハ孫潤宇等トノ会

ト説明セラレ度將又右覚書ハ十五日（水曜日）朝当地ニ於

テ発表ノ筈ニ付支那側ニテ取急キ発表ノ意向アル場合ニハ

水曜日以後ニ延ハサシムル様御配慮アリ度シ

尚覚書手交済ノ上ハ大至急電報アリ度シ

右奉天及関東長官ニ転電アリ度シ（別電ハ転電ニ及ハス）

（別電）

十月十一日幣原外務大臣發在中国芳沢公使宛電報第六二九号

外交總長ニ手交スペキ滿蒙特別利權保全ニ閔スル覚書

第六二九号 別電至急

帝国政府ハ今回不幸ニシテ勃発セル支那国内ノ争乱ニ対シ

テハ絶ヘス嚴正不干涉ノ態度ヲ執リ來レリ戰端ノ開始セラ

レタル原因ノ如何ヲ問ハス現ニ対抗スル両軍共ニ等シク支

那國民ノ一部ヲ成スモノニシテ日本ノ支那國民ニ対スルヤ

偏ニ友好善隣ノ関係ヲ増進セムトスルノ外何等他意アルコ

トナシ

之ト同時ニ滿蒙地方ニ於テハ帝國臣民ノ居住スルモノ実ニ

數十萬ニ上リ日本ノ投資及企業極メテ莫大ナルモノアリ殊

ニ帝國自身ノ康寧懸リテ同地方ノ治安秩序ニ存スル所亦頗

ニ干涉セムトスルカ如キ趣旨ニ出テタルニ非サルコトヲ篤

在奉天總領事ヨリノ報告ニ依レハ奉天支那官憲ハ滿鉄ニ對シ軍事輸送ノ為メ機関車貨車等貸与方ヲ申出テタル趣ノ處シ右約定ノ範囲ヲ超ヘ軍隊軍需品輸送ノ為メ機関車貨車等ヲ貸与スルコトハ差控ヘシメ度ク又京奉線ニ對スル融通ハ一切差止メ度キニ付右滿鉄ニ示達方可然御配慮アリ度シ在支公使及在奉天總領事ヘ転電アリ度シ

第二七号

趣旨ニ基カスンテ茲ニ両軍ニ対シ以上ノ明瞭ナル事實ニ付  
嚴肅ナル注意ヲ喚起シ且斯ノ如ク緊切ナル日本ノ権利利益  
ハ十分尊重保全セラルヘキコトヲ最重要視スルノ意ヲ表明  
ス

三一三一 十月十一日 整原外務大臣ヨリ  
在奉天船津總領事宛（電報）

張作霖ニ対シ日本ノ満蒙利権保全ニ關シ覚書

手交方並ビニ日本ノ立場ニツキ説明セラレタ

キ旨訓令ノ件

第一六五号 至急

貴官ハ來ル十三日（月曜日）張作霖（差支アル場合ハ其ノ  
代理人）ニ面会ノ上別電第一六六号覚書ヲ手交シ満蒙ニ於  
ケル我緊切ナル権利利益ノ保全ニ付テハ我國民的感覺ノ極  
メテ銳敏ナルハ自然ノ情勢ニシテ今次戰局ノ發展ニ伴ヒ一  
般ニ不安ノ念ヲ加フルニ至レル處帝国政府ハ素ヨリ張總司  
令ノ麾下ニ屬スル諸軍カ滿蒙ノ秩序維持ヲ念トシ極力日本  
ノ権利利益ヲ尊重スヘキコトヲ信賴スルモ茲ニ念ノ為全然  
友好的精神ニ依リ日本ノ立場ヲ声明シテ奉天軍ノ切実ナル  
考量ヲ促サムトスル次第ナルコト並右覚書ハ同日同文ヲ以

テ在北京帝國公使ヨリ直隸軍側ニ対シテモ通告シタルコト

ヲ口頭ニテ述ヘラレ度尚直隸軍ト云ヒ反直隸軍ト云ヒ日本  
ノ見地ヨリスレハ共ニ等ク親善ナル友邦國民ノ一部ナルカ  
故ニ帝國政府ハ今ヤ両軍カ兵火ノ間ニ相見ミエ同胞骨肉互  
ニ相食ムノ慘状ヲ呈スルニ至リタルヲ見テ深ク隣邦ノ不幸  
ヲ悲ムモノナリト雖本件措置ハ両軍ノ孰レニ対シテモ何等  
偏頗又ハ非友誼の意義ヲ含マサルハ勿論又毫モ支那ノ内  
争ニ干渉セムトスルカ如キ趣旨ニ出テタルニ非サルコトヲ

篤ト説明セラレ度將又右覚書ハ十五日（水曜日）朝当地ニ  
於テ発表ノ筈ニ付支那側ニテ取急キ発表ノ意向アル場合ニ  
ハ水曜日以後ニ延ハサンマル様御配慮アリ度シ  
尚覚書手交済ノ上ハ大至急電報アリ度シ  
右別電ト共ニ北京及閔東長官ニ転電アリ度シ

（編註）別電第一六六号ハ十月十一日発在中国公使宛往電第六二  
八号別電第六二九号ト同文

三一三二 十月十一日 整原外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛（電報）

在本邦英米仏伊四国代表ニ対シ我方ノ満蒙ノ  
利権保全ニ關スル覚書訖文ヲ手交シ我方ノ立

### 場説明ノ件

別電

同日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六二三

六号

我方ノ満蒙利権保全ノ立場説明ノタメ四国代表ハ

手交セル覚書

第六三五号

往電第六二八号ニ關シ

十月十一日在本邦英米仏伊四国代表者ヲ招致シ別電第六二三  
六号覚書訖文ヲ手交シ本大臣ヨリ詳細我立場ヲ説明シ置ケ  
リ委細別ニ電報ス

右奉天ニ転電アリタシ

（別電）

十月十一日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六二三六号

我方ノ満蒙利権保全ノ立場説明ノタメ四国代表ハ手交セル覚書

The Japanese Government have consistently observed  
an attitude of strict non-interference in the civil strife

now unfortunately dividing China. Whatever may have  
been the causes of such conflict, the two opposing  
forces are equally parts of the Chinese people, with  
whom Japan has no other desire than to promote rela-

tions of friendship and good neighbourhood.

At the same time, hundreds of thousands of Japanese subjects are actually resident, and Japanese investments and enterprises on a vast scale are in evidence, in the region of Manchuria and Mongolia. In particular, Japan's own security depends largely upon the maintenance of law and order in that region. With no intention whatever of interfering in the domestic trouble of China, the Japanese Government desire to call the serious attention of both contending forces to these obvious facts and to state that Japan deems it of capital importance that these rights and interests, so essential to her, be fully respected and safeguarded.

三一三三 十月十一日 整原外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛（電報）

四国代表者ニ対シ日本ノ奉直兩派宛覺書

大要説明ノ件

第六二八号

七 第一次奉天・直隸両派ノ交戦 三一三一 三一三三

三九三

## 七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三三四

三九四

近支那政局ノ大要殊ニ山海關付近ニ於ケル戰況ヲ説明シタル上帝国政府ハ今次ノ支那内争ニ対シ嚴正不干涉ノ態度ヲ恪守シ來リ将来ニ於テモ之ヲ持続スル意思ナル處一般民衆

ハ満蒙ニ於ケル我権利利益保全ニ関シ其ノ感覚頗ル銳敏ナルモノアリ蓋シ此等ノ権利利益ハ日本カ満州ノ野ニ於テ兩

度ノ戰争ニ國運ヲ賭シタル結果取得享有スルコトヲ得ルニ至リタルモノニシテ若シ奉直両軍ノ孰レカニ依リ無視セラ

ルルカ如キコトアラムカ例へハ満州地方ニ於ケル本邦人ノ

多數ノ住宅又ハ巨額ノ財産ニシテ兵火又ハ劫掠ノ危險ニ曝サレ又ハ同地方無秩序ノ状態ニ陥ルカ如キコトアラムカ日本国内ノ人心必スヤ激昂ヲ極ムルニ至ルヘク既ニ近來戰局

今後ノ發展ニ関シ興奮ノ状アルコト御承知ノ通ナリト述へ斯ル事態ノ現出ヲ予防スル為帝國政府ハ此機會ニ於テ奉直

両軍ニ対シ前記我権利利益ノ尊重方ニ関シ友誼的ニ警告ヲ与フルコト適當ナルヘント認メタリ尙ホ今回ノ措置ハ何等

干渉又ハ和平勸告ノ意味ヲ有スル次第ニアラス单ニ我権利

利益保全ノ趣旨ニ出テタルニ外ナラサルモ奉直両軍ニ通告

スルニ先チ貴官並貴国政府ニ内報スルコト然ルヘント認メ

來訪ヲ乞ヒタル趣ヲ告ケ往電第六三六八号覺書写ヲ手交セル

ニ各代表者何レモ之ヲ諒トシ個人トシテハ何等異存ナキ旨挨拶セリ

三三四 十月十二日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

直隸軍劣勢ニ急変シタル今日、我方ノ覺書ヲ

吳佩孚ニ手交スルハ誤解ヲ生ム怖レアルニツ

牛暫時見合ス方得策ナル旨申進ノ件

第九八三号(大至急極秘)

貴電第六二一八号及第六二九号拝誦御来示ノ警告的声明ハ往電第八八三号電稟ト趣旨ニ於テ大体合致スル次第ニテ此処迄取運ハレタルハ欣幸ニ堪ヘサルモ之ヲ実施スル時期ハ最

慎重ニ考慮スル必要アリ從テ此際御考慮ヲ迎ヘタキハ此点ナル處前記電稟當時ノ趣旨ハ実ハ吳佩孚ニ於テ意氣冲天ノ

勢ニ駈ラレ直ニ満州ヲ席捲スルカ如キ氣勢ヲ示シタル為其機ヲ逸セス進テ警告的声明ヲ發シテ彼ニ一擊ヲ加へ以テ我

声価ノ發揚ニ資セムトシタル次第ニシテ奉天側ニ之ヲ申入

ルルハ全然必要ナント言フニアラサルモ格別差迫リタル形勢ニモアラサル為右ハ主トシテ直隸側ヲ目標トセルモノナ

ル處其後迭次ノ往電ニ依リ御承知ノ通り戰局ハ急転ノ勢ニ

テ昨今ノ形勢ハ寧ロ甚タ直軍ニ不利ニシテ吳佩孚力卒然戰線ニ出動シタル如キ又右ノ形勢ヲト知スルニ足ルモノアリ叙上刻下ノ形勢ニ於テハ満蒙利權保全ニ関スル我方警告モ少クトモ今日トンテハ北京政府乃至直隸軍ニ対シテハ本使ノ予期セルカ如キ実効ナキノミナラス(往電第九六八号参考)寧ロ或ハ却テ先方ヲシテ我方ノ真意ヲ曲解セシメ累ラ

我立場ニ及ホスノ虞ナシトセス旁々帝國政府ニ於テ一面往電第九四九号ノ如キ方法ニ依リ直隸派ニ対シ實際上好意ヲ表彰スルノ御意志ナキ限り今回ノ申入ハ或ハ後累ヲ貽スノ憂ナキヲ保シ難ク寧ロ更ニ適切ナル時機ヲ窺フ方得策ナルヘキカト存セラルニ付テハ既ニ廟議ノ御決定ヲ經タル儀ナルヘキモ刻下極メテ機微ナル時局ニ際シ帝國ノ一舉一動甚タ慎重ヲ要スヘキモノアルニ顧ミ本件警告申入ハ戰局今后ノ發展ヲ注視ノ上適當ノ時機ヲ俟ツ方帝國ノ対支國策上最得策ト信セラルニ付右一応御再考ヲ賜ハリタク從テ十三日外交總長ニ申入ノ儀ハ兔ニ角差控ユルコトト致シタク右卑見率直ニ申上ク何分ノ儀御垂示アラムコトヲ希望ス右奉天總領事及閔東長官ヘ転電セリ

ニ各代表者何レモ之ヲ諒トシ個人トシテハ何等異存ナキ旨挨拶セリ

三四五 十月十二日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

直隸軍劣勢ニ急変シタル今日、我方ノ覺書ヲ

吳佩孚ニ手交スルハ誤解ヲ生ム怖レアルニツ

牛暫時見合ス方得策ナル旨申進ノ件

第九八三号(大至急極秘)

三四五 十月十二日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ヨリ日本ノ張作霖援助非難並ビニ直軍

ノ満州進出ニ際シ日本ノ支援方要請ニツキ申

出ノ件

(十月十三日接受)

往電第一三三号ニ關シ吳佩孚カ本官ニ面談ヲ希望シ居ルニ

付其ノ出征前北京ニ至急來リ吳レスヤト潘復ヨリ再三ノ申

出アリ又吳ノ日本語通訳薛某白堅武ノ名刺ヲ携ヘ迎接ノ為

トテ去ル四日來津本官ノ出発ヲ待テル様ノ次第ニテ此ノ上

ノ拒絶ハ潘復ニ對スル關係上モ面白カラスト考ヘ公使ノ内

許ヲ得テ晉京去ル九日吳佩孚ヲ其ノ總司令部ニ往訪ス一応

ノ挨拶交換ノ後晚餐ノ卓上吳ハ例ノ張作霖馬賊出身説ヨリ

順逆論、日支提携、黃人同盟ヲ説キ出シ是故ニ討逆軍ヲ起

スニ至レルカ馬賊タリ逆徒タル張ハ滿州ニ於テ日本人ヲ殺傷シ其ノ條約所定ノ権利利益ヲ損傷シ居ルニ貴國ハ尚之ヲ

援助セントスルノ所以ヲ知ルニ苦シムト謂ヘルヲ以テ本官ハ帝國政府ニ其ノ不偏不党ノ声明ニ反セル事實アリヤト反

モ現ニ瀋州ノ貴國兵ハ直隸軍移動ヲ日夜詳細ニ取調ヘ奉天軍ニ報告シ居リ又日本人中張援助ヲ力説奔走シ居ル者アルハ歴然タル事実ナリト答ヘタルニ付我カ兵カ直隸軍移動状況ヲ奉天軍ニ通報ノ目的ヲ以テ取調ヘ居ルカ如キコト断シテ之ナン然レトモ我カ邦字新聞カ公然直軍軍事輸送ヲ詳記報道シ居ル事実之アリ本官早クニ之ヲ注意シ其ノ記事ヲ差止メンカト思ヘルモ貴國官憲ヨリハ未タ一回ノ抗議ニモ接セサルヲ以テ斯ル記事ハ貴方ノ歯牙ニタモ掛ケラレサルコトカト考ヘ其ノ儘ニ致シ居ル次第ナルカ軍機保護上迷惑トアラハ明日ニモ差止ムヘン

張援助ヲ説ク邦人アルハ事実ナリ人各個々志ス所アリ個々ノ志ハ政府ノ力ヲ以テ如何トモスヘカラスト雖帝国政府ノ方針ハ夙ニ決シニ、三者ノ能ク左右スヘキ所ニ非ス

吳曰ク二、三者ノ言説モ終ニ多数ヲ動カシ政府ヲモ動カスノ例鮮ナカラス、抑モ日本人力ニ依リテ満州經營ヲ進メントスルノ意ヲ解スル能ハス、滿州ハ山東ノ苦力財力ニ依リテ發達ヲ遂ケツツアリ余ハ山東出身ナレハ自然満州ノ事物ニ親シメルノミナラス親シク長ク満州ニアリ妻モ長春ノ生レナリ余程満州ニ縁故深キモノ無カルヘク然モ日支

躊躇セス其ノ他ニ尚未希望ノ条件アラハ一々申出テラルヘク余不敏ナルモ大總統ノ意ヲ体シ國務院ノ上ニ在リテ政治外交ヲモ處理スルノ權能ヲ有ス何事ト雖モ協議ニ応スルヲ得ヘク日支關係ニ就テハ極東ノ大局ヨリ夙ニ憂慮シ貴我提携ヲ現ニセンコトヲ希フ此ノ点ハ切ニ貴國公使並帝國政府ニ致サレンコトヲ請フ云々

談終リテ白堅武ニ面談セルモ吳ノ意ヲ補充セルニ過キス  
北京ヘ転電セリ

三二六 十月十二日 吉岡天津軍司令官ヨリ  
武藤參謀次長宛（電報）

馮玉祥ノ曹銀、吳佩孚ニ対スル離反並ビニ張

作霖ヨリ馮玉祥宛交付金百万円天津ニ到着ノ

件

（十月十四日外務省写接受）

閔電第一六九号  
閔電第三二八号ノ返

一、馮玉祥ハ九日第一回通電ニ於テ曹錕以下曹錕左右ノ要人ヲ弾劾シタルコト坂電ノ如シ予テ吳佩孚ノ戰線出発ヲ

待チ居タル馮玉祥ハ第二次ノ激シキ電報ヲ打チ右要人ノ弾劾ヲ名トシ軍ヲ率イ北京ニ入ルヘク（彼ノ軍隊ノ大部

ノ関係ニ就テ最モ顧念シ居ルハ既述ノ如ク山東人カ満州ニ發展ノ要アルカ如ク日本国民ノ満州ニ進出ノ意ハ深ク之ヲ諒トス余カ他日満州ヲ得テ張ヲ追フノ日アラハ日本人ノ發展ニモ決シテ惡シカラサルヘキハ自ラ信シテ疑ハス然ルニ貴國政府モ亦余ノ満州侵入ニ対シ多少ノ懸念アルモノノ如シ仮ニ鴨緑江口ヨリ兵ヲ進ムル場合安奉線利用ハ條約上我ニ許サレタル權利ナルカ條約論ハ暫ク措キ満鉄ハ逆徒討伐ノ為軍事輸送ヲ引受クヘキヤト言ヘルニ付満州ニ於ケル帝國ノ地位ハ帝國ノ力ヲ以テ自ラ保護スルノ決意ト承知ス他ノ力ニ依ルニアラサレハ我満州經營ノ基礎危シトナシ故ニ我ハ張ヲ援護スト考フルコト凡百ノ誤解ノ源ナリ吳氏自ラ帝國政府ノ不偏不党ノ主義方針ヲ信頼セラルヘシ帝國政府ノ真意ヲ諒解シ満州処分ノ成案ヲ得貴我ノ間充分意志疏通セハ軍事輸送問題ノ如キ吳氏ノ軍満州ニ入ルノ日現地ニ於テ短時日ニ解決セラルヘシ其ノ根本ヲ叔措キ使用ヲ云々スルカ故ニ事徒ニ面倒ニシテ誤解ヲ重ヌルノミト言ヘルニ吳曰ク満州問題ニ關シ余ノ意見ハ詳細芳沢公使ニ開陳シ置ケリ即チ日本ノ既得權ハ飽ク迄モ尊重スルノ外條約規定ノ権利ニシテ張ノ未タ貴國ニ許ササルモノヲモ之ヲモ与フルニ

ハ古北口ニアリ）曹錕ヲ捕ヘテ監禁シ吳佩孚ノ後路ヲ絶ツ計画ニシテ胡景翼ノ軍隊ハ統々通州ニ入りツツアリ孫岳北京警備司令官モ亦之ニ徴フヘシ吳佩孚ハ胡景翼ト孫岳ノ反応ヲ知ラス張福来、孫岳ヲシテ馮玉祥ヲ抑ヘシムル計画ナリソモ今ヤ無効ナリ馮玉祥ハ此ノ計画ヲ実行スヘク前進ニ当リ道路ヲ修理シ且ツ多數ノ自動車ヲ徵發携行セルナリ

二、張作霖ヨリ日本金百万円本日当地ニ到着セリ馮玉祥ニハ予告シアルヲ以テ取り急キ交付スル旨電報スル筈以下天電第一七〇号ニ続ク

閔東、奉天スミ

三二七 十月十三日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ノ日本トノ提携申出ハ傾聽スペキコト並ビニ我ガ方ノ直隸軍輸送調査ハ多少手加減

（十月十四日接受）

第一四六号

其ノ所説而已ナラス出征ノ前夜然モ敗戦ノ報頻リニ至ル間ニモ拘ハラス本官接待ニ努メタルニテモ明ラカナリ潘復ノ語ル所ニ依レハ今回ノ事變以来吳ハ日本トノ接触ニ殊ニ腐心シ岡野其ノ他ヲ使用スル外小谷節夫、熊武官ヲ日本ニ特派シ自ラモ芳沢公使勧説ニ努メ尚心許ナク心得本官招致面談ヲ希望スルニ至レルモノ由今ヤ戰闘ハ一進一退流言蜚語益々盛ニシテ勝敗ノ數明ラカナラス反直派ハ稍々五角ノ勢ニ近キ線ニ漕キ付ケタルモ前途尚幾多ノ曲折アルヘキヲ免レス或ハ往電第一四一号所載ノ通決戦ヲ見スシテ調停ニ終ルナキヲ保セス其ノ何レトモ我レハ我レニ有利ナル状勢ヲ誘致スルニアルヘキヲ以テ吳カ当面ノ政治的必要ヨリ日支關係ノ等閑ニ付スヘカラサルニ想到セルハ必然ノ勢ナルモ我レトシテ之ニ乘シテ益々其ノ啓発ニ努ムヘク往電第一四五号所載ノ通彼ハ何事ニテモ希望アラハ申出テラレタシト縷述シ居リ彼ノ性格トシテ右ハ一時ヲ糊塗スルモノトモ考ヘラレサルニ付内密ニ相当ノ要求ヲ試ミ先方ノ希望ヲ聞キ彼自ラ出シタル手ヲ辿リテ彼トノ接触ヲ益々深クスルコト最然ルヘクト思考ス又吳ハ灤州駐在ノ我カ兵カ直軍軍事輸送ノ状況調査ニ努ムルヲ氣ニシ右ハ全ク奉天軍通報ノ目

## 第三八九号（至急）

（十月十四日接受）

## 貴電第一六五号ニ閲シ

本十二日午後三時張総司令ヲ往訪シ貴電第一六六号覚書ヲ手交シ同時ニ口頭ヲ以テ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト申述ヘタル処張総司令ハ日本ノ立場ニ鑑ミ友誼的見地ヨリ此種声明ニ出テタルヲ諒トン且該覚書ハ奉天側ニトリ却テ有利ナルモノナリトテ悦テ之ヲ受理スルト共ニ一面日本政府カ今日斯ル声明ヲ為スニ至リシハ後日講和調停等ニ出テムトスル伏線ニアラサルヤト反問シタルニ付本官ハ其辺ノ事情ハ知悉シ居ラスト軽ク答ヘ置ケリ

猶張ハ該覚書ニ対シ答復ノ必要アラハ精読ノ上回答スヘント回答セリ

在支公使、関東長官、在満州各領事、上海、漢口、廣東、濟南、福州、南京、杭州、雲南へ転電セリ

## 三二九 十月十三日

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

馮玉祥ノ吳佩孚ヨリ離反ニツキ河野大倉組重役ノ内話並ビニ馮ニ軍資金百五十万円交付ニ

閔シ張作霖内話ノ件

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三一九 三三〇

## 第三九〇号

（十月十四日接受）

## 過日北京ヨリ来奉セル河野大倉組重役ノ内話シタル處ニ依

レハ直軍第十一師長馮玉祥ハ吳佩孚ニ好感ヲ有セス近ク独立ヲ宣言スヘク既ニ其通電ヲ天津ニ於テ用意センメ居レリトノ趣ナリシカ本十三日張総司令ノ本官ニ内話スル所ニ拠レハ張ハ奉天第二軍司令李景林ヲシテ馮玉祥ト接衝セシメツツアリシカ馮ハ愈々直軍ニ反対スルコトトナリ本十三日軍費トシテ百五十万円ヲ其副官長ニ交付セシメタルヲ以テ同人ハ近ク天津若ハ北京ニ引揚クルナラム云々ト  
北京、天津、上海へ転電セリ

## 三三〇 十月十三日

在上海矢田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

盧永祥ノ亡命ニ閲スル岡村中佐ノ談話ニツキ

## 申進ノ件

## 第三五三号

（十月十四日接受）

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

往電第三五〇号ニ閲シ岡村中佐ノ談話左ノ通盧永祥等ノ亡命ハ十二日夜会議ノ結果彈丸ノ缺乏ト部下ノ反抗ノ為此上ノ戦争継続不能ナリト認メ急ニ思立チ何豊林、盧少嘉（盧ノ息子）王參謀長等合計七名十三日午前八時半発ノ上海丸

的ニ出シト断セルハ先方ニ多少ノ掛引アリトスルモ強チニ無理ナラスト存ス何トナレハ輸送調査報告ハ常ニ当地新聞等ニモ絶ヘス詳報掲載セラレ右ニ依ルモ我軍ニ於テ余程之ニ注意調査ニ從事シ居ルコトノ想像サルレハナリ我軍トシテハ又無理ナラサルモ調査方法等ニ多少手加減ヲ為シ無遠慮ニ之ヲ行ハサルコトニ致度当地駐在軍側トモ協定シ絶対ニ軍事機密ニ属スヘキ新聞材料ハ之ヲ供給セス又掲載方取締ルコトセリ斯様ノコトヨリ直隸側カ兔角我レヲ奉天ニ通スルモノトナシ開戦以来前線彼我ノ間ニ紛争ヲ釀シ居ルモノト想像セラル、依テ此ノ際北京公使館ヨリ館員及武官共同派出前線ノ状況ヲ視察セシメラレ我力官民無心ノ間彼我ノ誤解ノ原因ヲ撒キツツアルカ如キコトナキ様至急調査セシメラルルコト必要ト思考ス御詮議ヲ仰ク

以上吳ト会見ヨリ思ヒ付キノ次第申上ク  
在支公使ヘ転電ス

## 三二八 十月十三日

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

張作霖ニ対シ覺書ヲ手交スルト共ニ趣旨申述

ニツキ報告ノ件

ニテ日本ニ向ヘルカ自分モ船迄見送リ無線電信問題等ニ関スル從来ノ好意ヲ謝シ置キタリ彼等脱出後ノ軍隊首脳者中第十師長陳榮山ハ既ニ租界内自宅ニ引籠リ居リ現ニ戰争ノ意思アルハ感致平楊化昭ノ二名ナルカ全軍統率ノ威力ナク前線ニアル軍隊ハ今ヤ徐樹錚ヲ頼リテ其結束ヲ堅メントシツツアルモ徐トテモ崩レカカレル軍隊ヲ引受クルコトハ相當考慮ヲ要スルモノトナシ現ニ極力戰線ノ模様ヲ調査シ居ルモノノ如シ自分ノ見ル處ニテハ其後戰線ニハ大ナル變化ナキモ徐樹錚ノ統率ニ帰スルト否トヲ問ハス今後ノ戰局ノ予想出来ス云々

在支公使、奉天、天津、青島、南京、杭州、漢口、福州、廣東ニ転電、蘇州へ暗送セリ

三三一 十月十四日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

### 直隸軍行動ヘノ日本軍人ノ妨害ニ関スル顧外

第九九〇号

往電第九八九号末段ニ閲シ

顧外交總長ハ外国人側ニ於テ戰爭ノ障害トナルカ如キ行動

ノモノニテ軍事上ノ電報ヲ取扱フモノニ外ナラスシテ支那

ノ軍機ヲ漏洩セムトスルカ如キ目的ニ出ツルモノニアラスト説明シタルニ顧總長ハ無線電信ハ傍受セラルルコトアルノミナラス其肝要電報ニ限ルコトハ華府會議ニ於テ既ニ諒解確立セルコトヲ述ヘタルヲ以テ本使ハ軍人カ軍用電報ノ發受ヲ取扱フモノナル以上毫モ華府會議ノ諒解ニ反スルコトナシト応酬シタルニ總長ハ否平服ノ日本人多數アリタリトノコトナリト述ヘタルニ付此等ノ日本人力軍人ナルヤ否ヤハ実状ヲ取調ヘタル上ニアラサレハ判明セサルヘシト答ヘタル処兔ニ角実状取調方希望スル旨述ヘタルニ付本使モ實際ノ状況ヲ問質スコトハ差支ナシト答ヘタル上苦情ヲ言ハハ寧ロ我方ヨリ述フヘキコト多々アリ即チ最近ニ至リ山海關方面ニ於テ日本軍隊ニ於テ種々侮辱ヲ受ケタル事件既ニ数件ニ上リ其内最甚シキハ我通信兵一名數十名ノ支那兵ノ為非常ナル暴行ヲ受ケ重傷ヲ被リタル事実アリ斯ノ如キハ誠ニ重大ナル問題ト言ハサルヘカラス就テハ此事件ヲ始メ其他数件ニ関シテハ何レ兩三日中正式ニ本使ヨリ總長ニ交渉スヘキモ不取敢此種事件ノ頻発ヲ歎遏スル為昨日本使ノ代理者ヲシテ陸軍總長ニ警告セシメタルニ同總長モ誠ニ

申訳無キ旨答ヘタル趣ナリ  
兎ニ角前記各個ノ事件ニ就テハ夫々書面ニ認メタル上更ニ談判ニ及フヘキ旨述ヘタル処總長ハ承知セル旨答ヘタリ天津ヘ転電セリ

三三二 十月十四日 外務省公表

北京政府及ビ奉天官憲ニ對シ滿蒙ノ治安秩序ニツキ注意ヲ喚起シ並ビニ同地方ニ於ケル日本ノ権利利益ニ關シ意志表明ノ件

公表第二十号 大正十三年十月十四日午後五時公表

外務省

十月十三日在北京帝国公使及在奉天帝国總領事ハ帝国政府ノ訓令ニ依リ北京政府及奉天官憲ニ對シ夫々左記覺書ヲ交付セリ

覚書

帝国政府ハ今回不幸ニシテ勃発セル支那国内ノ争乱ニ対シテハ絶エス厳正不干涉ノ態度ヲ執リ來レリ戰端ノ開始セラレタル原因ノ如何ヲ問ハス現ニ对抗スル両軍共ニ等シク支那国民ノ一部ヲ成スモノニシテ日本ノ支那国民ニ

アルニ於テハ當該國及支那両國ノ為甚タ好マンカラサル事態ヲ發生スルノ虞アリ然ルニ最近出先軍憲ヨリ頻ニ電報ノ次第アリ其主ナルモノヲ擧クレハ

(一) 戰線ノ暫壕内ニ数日前、日本軍人二名入込ミタルニ付戰線内ナルコトヲ説明シテ退去セシメタリ

(二) 軍用列車通過ノ都度日本軍人停車場ニ在リテ列車内ノ事項ヲ手帖ニ書留メツツアリ

(三) 秦皇島無線電信ヲ使用シテ盛ニ種々ノ情報ヲ発送シツツアリ現ニ吳總司令昨十二日山海關ニ到著早速戰線ノ視察ヲ遂ケタルニ多數ノ日本人總司令一行ニ付纏ヒ其後該日本人等ハ秦皇島無線ニ依リ諸種ノ情報ヲ発送セリ

右等ノ事項ハ事軍機ニ關シ甚タ面白カラサル次第ナリト述べタルニ付本使ハ第一北京、山海關ハ之ヲ數段ニ分チ列國軍隊ニ於テ其守備ヲ分担シツツアリテ灤州ヨリ山海關間ハ日本軍ノ受持區域ニ屬シ從テ右守備ノ目的ノ為必要ト認ムル措置ヲ執ルコトアルハ當然ノコトナリ例ヘハ停車場ニ於テ通過列車ニ關スル事項ヲ書留ムルカ如キモ守備ノ任務上其日ノ出来事ヲ上官ニ報告スル必要ニ基クモノト言ハサルヘカラス將又秦皇島無線ノ使用ニ就テハ元來右無線ハ軍用

対スルヤ偏ニ友好善隣ノ関係ヲ増進セムトスルノ外何等  
他意アルコトナシ

之ト同時ニ満蒙地方ニ於テハ帝国臣民ノ居住スルモノ実  
ニ數十万ニ上リ日本ノ投資及企業極メテ莫大ナルモノア  
リ殊ニ帝国自身ノ康寧懸リテ同地方ノ治安秩序ニ存スル  
所亦頗ル多シ帝國政府ハ毫モ支那ノ内争ニ干涉セムトス  
ルカ如キ趣旨ニ基カスシテ茲ニ両軍ニ対シ以上ノ明瞭ナ  
ル事実ニ付嚴肅ナル注意ヲ喚起シ且斯ノ如ク緊切ナル日  
本ノ権利利益ハ十分尊重保全セラルヘキコトヲ最モ重要  
視スルノ意ヲ表明ス

三三三 十月十四日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

### 秦皇島付近ノ彼我將卒間ニ小紛擾絶エザルニ

ツキ治安ノタメ我ガ軍艦派遣等ノ措置方要請

ノ件

（十月十五日接受）

往電第一三九号通信兵殴打事件以来幸ニ無事ナリシ處最近  
直隸軍將校秦皇島ニ於ケル我守備隊ニ到リ無線電信ノ検閲  
ヲ要求シ守備隊長之ヲ峻拒シタル事件アリ之ニ依リテ想像

スレハ其他報告ニ接セサル彼我將卒間ノ小紛擾絶ヘサルモ  
ノ如シ右ハ畢竟支那兵力無智不規律ナルト前線ニ於ケル  
我兵力過少カ却テ事端ヲ誘発セシムルモノト思考ス併シテ  
斯ル彼我將卒間ノ争ハ惹テ我在留民ニ危害ノ及フ無キヲ保  
シ難ク一方交通保安ノ見地ヨリスルモ該地方ニ相當我威力  
ノ增加ハ必要ト認メラルニ付テハ閣下発在支公使宛電報  
第五七四号ノ如ク増兵方不可能トセハ成ルヘク速ニ軍艦ヲ  
秦皇島派遣ノ如キ措置ヲ請フ

支へ転電セリ

三三四 十月十五日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

### 馮玉祥ハ戰意ナク何等異図ヲ懷キ画策シアル

ハ疑ナキ旨観測ノ件

第一〇〇〇号（極秘）

十月十三日夜教育總長黃鄂橋三郎ヲ秘密ニ訪問ノ上馮玉祥  
ノ部下変装ノ上三々五々北京ニ入込ミツツアリ茲數日内ニ  
或ハ馮ヨリ時局收拾ニ関スル通電ヲ發スル段取トナルヘキ  
処（王承斌ハ馮ト結托シ居ル由）其際ハ現ニ北京ニ在ル政  
府ノ兵力（約六、七千）ト馮ノ軍隊トノ間ニ衝突ヲ見ルヤ

モ計ラレス又其以前ト雖モ馮ト段祺瑞ノ間ヲ取持チタル黃  
鄂自身ハ既ニ直隸派ノ連中ヨリ目ヲ付ケラレ初メタルニ依  
リ身辺幾分危険ヲ感シ居ルニ付暫時橘万ニ避難スル必要生  
スルヤモ計ラレサルニ依リ其際ハ宜敷頗ム旨申入レタル趣  
ナルニ依リ往電第九九三号等ノ情報ニ照シ馮ノ北京入りハ  
或ハ近ク事実トナルヘキカトモ思ハル次第ナルカ馮ト連  
絡セル相手方ニ付テハ拙電既ニ報シタル処ニテ御承知ノ通  
或ハ吳佩孚ト言ヒ或ハ段祺瑞ト言フ二説アリ容易ニ真ヲ握  
ミ得サルモ馮カ出先ニ於テ戦意ナク（彼ハ既ニ奉天側ト款  
ヲ通シ其結果奉天軍ノ張宗昌モ熱河方面ヨリ引揚ケ初メタ  
リトノ噂アリ）何等異図ヲ懷キテ画策シ居ルハ最早疑ナキ  
モノノ如ク從テ盧永祥、何豐林ノ上海逃亡カ幾分形勢ニ影  
響ヲ及ホスコトアリトスルモ早晚彼ハ中央ニ於テ一事件ヲ  
惹起スルニ至ランカトモ觀測セラル右不取敢  
天津、奉天へ転電セリ

三三五 十月十五日 在南京林出領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

### 降伏セル浙江軍ノ武装解除等ニ關シ報告ノ件

第一五四号

（十月十六日接受）

在支公使、上海、奉天、天津、廣東、福州、杭州へ転電シ  
青島、漢口、濟南、蘇州、蕪湖、九江、宜昌へ暗送セリ

七 第一次奉天・直隸両派ノ交戦 三三六

四〇四

三三六 十月十五日 富永長崎県知事ヨリ  
幣原外務大臣他宛

浙江督軍盧永祥ノ亡命ニ関スル件

外高秘第六六三九号 (十月十八日接受)

大正十三年十月十五日

長崎県知事 富永 鴻

内務大臣 若槻礼次郎殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
陸軍大臣 宇垣 一成殿  
海軍大臣 財部 彪殿  
指定府県長官 殿  
佐賀大分各県知事殿  
連、大久保各事務官殿

浙江督軍盧永祥ノ亡命ニ関スル件

浙江督軍盧永祥力何豊林其他ノ幕僚ヲ従へ亡命渡来ノ件ニ

関シ身辺ノ保護ト便宜トヲ与フヘキ旨本月十三日警保局長

ヨリ電報アリ亦同日連絡船乗組査証官ヨリモ無電ニテ長崎

水上警察署長宛右一行渡來ニ付警戒ノ手配及自動車三台用

意方電報アリタルヲ以テ夫々手配ヲ為シ注意中ノ処十四日

記  
一行氏名

浙江省督軍

盧永祥

(伊里布ト変名)

令五十五年

上海護軍使

(張子祥ト変名)

令五十一年

陸軍中将 盧永祥ノ長男

盧耀東

(田中至ト変名)

令三十七年

午前十一時十五分入港ノ汽船上海丸ニテ渡来シタルヲ以テ  
調査スルニ一行ノ氏名ハ左記ノ通ニシテ孰レモ変名ヲ用ヒ  
視察旅行ヲ装ヒ軍事顧問タル予備役陸軍歩兵少佐江副浜二  
東道ノ下ニ渡来シ上陸後直チニ自動車三台ニ分乗市内万歳  
町上野屋旅館ニ入り同家ニテ往訪ノ各新聞記者ニ会見シタ  
ルモ多クヲ語ラス江副少佐及李通訳ヲシテ応対セシメ同夜  
十一時長崎駅発列車ニテ大分(貴)県別府ヘ向ケ出発シタ  
ルヲ以テ保護ノ為メ私服巡查二名ヲ付シ佐賀(貴)県武雄  
駅ニ於テ同(貴)県へ引継ヲナシ警保局長及大分(貴)県  
へハ夫々電報ンタリ而シテ江副少佐及李通訳ノ談話ヲ綜合  
スレハ左ノ如シ

司令官陸軍中將 和資事 感致平

(許達ト変名)

令四十二年

通訳官 李 久

令三十七年

(劉賓ト変名)

陸正汀

(錢訓ト変名)

令四十年

參謀長

江若濃

(俞和ト変名)

令四十年

軍事課長

許見青

(于志ト変名)

令三十五年

新聞記者

閔蓋農

(周堂)

令二十六年

ボイ

張文蘭

同

令三十年

張成

令二十五年

三三七 十月十六日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

奉直ノ勝敗ハ山海闢会戦ニ於テ決スベク茲數  
日ガ天下分目ノ時期ナル旨ノ張孤談話等ノ件

一、談話ノ概要

盧督軍ノ日本へ亡命スヘク決意シタルハ本月十三日午前六

時ニシテ亡命ノ已ムナキニ至リタルハ盧ノ股肱タル第四師

軍團長陳榮山等カ裏切ヲナシ松江モ遂ニ陥落シ軍需品欠乏セ

シノミナラス内部ノ不統一ヲ來タシ形勢不利ニシテ自己ノ

上海ニ止マルハ同地ヲシテ擾乱ノ巷ト化セシム虞アルヲ以

テ之カ秩序ノ維持ヲ徐樹鍾等ニ譲リ暫ク難ヲ本邦ニ避ケ今

後ニ於ケル蘇浙及奉直ノ戰況ヲ觀望シ今後ノ方針ヲ決定ス

ル考ニテ浙江軍ハ未タ全ク潰滅ニ帰シタルニアラサルモ多

クヲ期待シ難ク浙軍ノ敗戦ハ奉直ノ戰況ニ影響スル処尠カ

ラサルヘク亦江蘇軍ハ宣伝巧妙ニシテ軍資金及軍需品ノ欠

乏ヲ高唱シ却ソテ政府ヨリ之カ補給ヲ受クルノ賢策ヲ執レ

リ本邦滯在期間ハ未定ナルモ日下ノ情勢ヨリスレハ四五ヶ

月間ハ別府ニ於テ靜養シ盧督軍自身奉天ニ赴キ張ト会见ス

ルカ左ナクハ一行中ヨリ代ツテ渡奉スルニ至ルヘシ云々

右及申(通)報候也

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三三八

四〇六

最モ能ク諒解スル者ノ一人ナルカ十五日同人ノ談ニ依レハ  
両派ノ勝敗ハ大体山海関ノ戦績ニ依リテ決セラルヘク茲數

日カ天下分目ノ大事ナル時期ト存セラル然ル処直軍前線ノ

兵ハ今尚夏衣ノ儘ニテ朝夕ノ寒冷ニ惱ミ士氣振ハス援軍ト

シテ河南山西安徽等諸方雜多ノ軍隊入り込ミタル為数ノ多

キ割合ニ却テ命令行ハレス指揮ノ統一ヲ欠キ士氣実力ニ於

テ先年ノ奉直戰當時ニ比シ大ニ遜色ヲ見ル由ニテ直軍某旅

長ハ右ノ実状ヲ語リ悲觀シ居レリ尚馮玉祥ハ既ニ曹鋐ニ対

スル退位勧告ヲ準備シ機ヲ見テ王懷慶ト共ニ発電ノ手書ニ

テ馮ハ專ラ山海関戦闘ノ結果ヲ観望シ居ルモノノ如シ馮玉

祥等ノ心事是ノ如クナルヲ承知シテ曹鋐自身モ相當疑惧ノ

念ヲ抱ケルモノト見エ両日以来当地旧墳地利租界ニ在ル

邸宅ノ荷物ヲ夜中密ニ英租界ノ邸宅ヘ運搬シ居リ自分ノ自

動車モ之ニ貸与セリ云々又他方聞込ニ依レハ張作霖ハ予テ

打合ノ通リ馮玉祥ノ態度宣明ヲ速行セシムル為愈相当金額

提供ノ条件ヲ承諾シ此際其ノ決行ヲ見ル様馮玉祥勧説方段

祺瑞ニ本十五日依頼シ来ル趣ナリ

在支公使及在奉天總領事ヘ転電セリ

第四〇一号（極秘） （十月十九日接受）

本官發在支公使宛電報

第三〇五号（極秘）

閣下發大臣宛電報第九五八号ニ關シ客年大震災以降奉天官

憲カ滿州ニ於ケル我既得權ニ對シ利権回収的ノ各種提議ヲ

為シ來レル次第ハ其都度屢次ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル

カ是等提議ハ奉直開戦ト共ニ一時遠慮ノ姿トナリタルモ若

シ奉直戰ニシテ奉天側ノ勝利ニ帰センカ彼等カ更ニ一層強

硬ノ態度ニ出ツヘキハ想像ニ難カラス又商租問題ヲ始メト

シ當方トノ懸案モ此ノ機會ヲ利用シ何トカ有利ニ解決シタ

キ心組ヲ以テ先般來内交渉ヲ試ミタルモ幾分必勝ヲ期待シ

居ル彼等ハ時局ヲ口実トシテ交渉ヲ避ケ其誠意頗ル疑フヘ

キモノアリ然ルニ貴電ニ依レハ直隸側ニ於テハ滿州ニ於ケル日本ノ既得權（條約ニ依ルモノハ勿論单ニ永年ノ慣行ニ

依リ現ニ我方カ獲得シツツアルモノヲモ含ム）日本人ノ各種事業及日本ト張作霖トノ約束ヲモ全部認ムル積リナル趣ナル結果シテ然ラハ奉天官憲カ回収セント企テツツアル日本ノ既得權ヲ尊重スルト同時ニ現ニ支那側カ实行ヲ肯セサル大正四年滿蒙條約全部特ニ商租權（三十ヶ年無償無条件更新ヲ必須条件トス）ヲモ認ムル迄ノ決意アリヤ否ヤ本官参考迄ニ承知致度奉天側ノ勝利必シモ満州ニ於ケル日本ノ既得權ヲ安固ナラシムルノ次第トハ思考セラレサルヲ以テ若シ前記ノ諸点ニ関シ適當ノ機会ニ於テ直隸側ノ意向ヲ内密ニ探り置カルルヲ得ハ或ハ他日大ニ利用スヘキモノナルヤニモ思考セラル何等御参考迄

外務大臣ヘ転電セリ

三三九 十月二十日 在中國芳沢公使（ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

第一〇二七号（極秘）  
往電第一〇〇〇号ニ關シ  
情報ニ依レハ馮玉祥ト段祺瑞間ノ打合ハ既ニ調ヒ馮ハ十月十八日愈其主ナル部下ニ意中ヲ打明ケ二十二日北京ニ乗込

ヨリ支那ニ在ル各国民ノ生命財産ハ支那政府ニ於テ充分之

三三八 十月十八日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

奉直執レノ勝利ニ帰スルモ我ガ滿蒙利権保全

ニ關シ対策講究ノ必要アルニツキ直隸側意向

承知シタク申進ノ件

キ割合ニ却テ命令行ハレス指揮ノ統一ヲ欠キ士氣実力ニ於

テ先年ノ奉直戰當時ニ比シ大ニ遜色ヲ見ル由ニテ直軍某旅

長ハ右ノ実状ヲ語リ悲觀シ居レリ尚馮玉祥ハ既ニ曹鋐ニ対

スル退位勧告ヲ準備シ機ヲ見テ王懷慶ト共ニ発電ノ手書ニ

テ馮ハ專ラ山海関戦闘ノ結果ヲ観望シ居ルモノノ如シ馮玉

祥等ノ心事是ノ如クナルヲ承知シテ曹鋐自身モ相當疑惧ノ

念ヲ抱ケルモノト見エ両日以来当地旧墳地利租界ニ在ル

邸宅ノ荷物ヲ夜中密ニ英租界ノ邸宅ヘ運搬シ居リ自分ノ自

動車モ之ニ貸与セリ云々又他方聞込ニ依レハ張作霖ハ予テ

打合ノ通リ馮玉祥ノ態度宣明ヲ速行セシムル為愈相当金額

提供ノ条件ヲ承諾シ此際其ノ決行ヲ見ル様馮玉祥勧説方段

祺瑞ニ本十五日依頼シ来ル趣ナリ

在支公使及在奉天總領事ヘ転電セリ

ム手筈トナリ又胡景翼ハ現在地点即チ遵化ヨリ右ニ呼応シテ豐潤、開平ノ方面ニ打ツテ出テ吳佩孚ノ背後ヲ絶ツヘク目下北京ニアル馮ノ部下孫岳ハ其手兵ヲ以テ北京ノ秩序ヲ維持スル任ニ当ルヘシトノコトニテ今日迄秘密ニ入京セル馮玉祥ノ兵ハ六、七千ニ達シ居ル由ナリ

不敢敢

奉天、天津、上海ニ転電セリ

三四〇 十月二十日 在中國芳沢公使（ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

滿蒙利権保全ノ我方覺書ニ対スル中國側ノ回  
答ニツキ報告ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一〇二八号  
(十月二十一日接受)

右中國側回答訖文

第一〇二八号  
(十月二十一日接受)

馮ノ北京乗込ミノ手筈ニ関スル情報ノ件

第一〇二七号（極秘）

（十月二十一日接受）

往電第一〇〇〇号ニ關シ

ヲ保護スヘク殊ニ日本人ノ数ハ各国民ニ比シ最多数ニテ其關係モ密接ナルカ故日本ノ権利利益ハ之ヲ尊重保護スヘキ旨本使ニ伝言方命令ヲ受ケタル旨付言シタルニ付本使ハ右約上享有スル権利利益ノ尊重ヲ骨子トシテ一般的ニ論述シタルモノニテ我方希望通リニハアラサルモ支那政府ノ態度トシテハ蓋シ斯ノ如キモノカト思考シタルニ付早速本国政府ニ報告スヘク且熟説シタル上或ハ更ニ申出スル次第アルヘキヤ測リ難キ旨ヲ答ヘ置キタリ猶同秘書ハ右覚書ヲ外交部ヨリ在東京汪公使ニ電報シテ外務省ヘモ提出セシムヘク又二十日中ニ之ヲ公表スル旨付言セリ

奉天、天津、上海ヘ転電セリ

(別電)

中国側回答訳文

第一〇二九号

本月十三日芳沢公使ノ手交セラレタル覚書ニ称スル處ノ各節閲悉セリ查スルニ今回軍事ノ発生セルハ盧永祥張作霖等中央ニ反抗シ兵ヲ起シ覺書ヲ開ケルニ依リ政府ハ乱源ヲ肅正

三四一 十月二十一日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

段、馮提携成立ニ伴ウ政局ノ見通シ並ビニ段

ヨリ政費融通斡旋方依頼ニツキ報告ノ件

第一〇三一号(極秘)

往電第一〇二七号ニ関シ

右情報ニ接シタル際其ノ中、段派ノ使者本使ヲ來訪スヘキ旨耳ニシタル処十月二十日袁良ハ段ノ使者トシテ本使ニ面会ヲ求メタルニ依リ引見セル處馮玉祥、段祺瑞ノ接洽ニ関シ恰モ右貴大臣宛電報ニ符合スルコトヲ絶対極秘トシテ語リ(尤モ馮ノ入京ハ今週中ト言ヘリ)且馮入京ノ上ハ曹鋗ノ退位ヲ迫リ段ノ入京ヲ見ル迄軍政ヲ布ク心算ナルカ馮ハ曹鋗ニ對シテハ以前ヨリ私的關係ニ於テ恩義アル間柄ナルニ由リ之ヲ慮遇スルコトナカルヘク又段ノ入京ハ全國統一國政ノ根本的改善ニ關シ挙国一致ノ希望現ハルルヲ俟チテ実現スヘキ処段ノ真意ニテハ張作霖ノ跋扈ヲモ制スルト共ニ吳佩孚、馮玉祥等モ其傘下ニ集メタキハ當然ナルニ依リ先ツ張紹曾ヲ吳ノ許ニ遣シ若シ吳ニシテ和平ニ賛成セハ喜ンテ是レヲ容ルルナランモ吳ニシテ之ヲ肯ンセサレハ其意

ン統一ヲ促進スル為已ムヲ得シシテ兵ヲ用ヒ討伐スルモノニシテ法正シク言順ナルノ擧ニ属ス予輩ハ國民ノ厭惡スル處ニシテ當然國軍ト同一ニ論スル能ハス貴國政府ノ声明ニ於テ從來敵正不干涉ノ態度ヲ執ラルルコトハ本国政府甚タ重視スル處ナリ猶貴方ノ支那ニ於ケル在留民ノ生命財産ノ安全及條約上享有スル権利利益ニ就テハ本国政府意ヲ用ヒテ極力保護尊重スルコトハ既ニ屢次声明シ以テ大總統ノ命ニ依リ國軍ニ通知遵守セシメ國軍経過ノ地ハ決シテ擾乱セシムルコトナカルヘシ貴国人ノ本国ニ在留スルモノ最多く商業ノ巨大ナルハ本国政府ノ固ヨリ注意スル處ニシテ今回ノ戰時ニ際シ國軍経過シ兵ヲ用ヒルノ区域ニ在ルト本国其他ノ各所ニ在ルトヲ論セス從来敦交睦隣ノ趣旨ニ基キ努メテ保護ヲ為シ何等ノ損害ヲ受ケシメサラムコトヲ冀フ今回戰爭區域一帶地方ノ治安秩序ニ就テハ本国政府及派遣軍事當局ニ於テ極メテ重視スル處ニシテ又必ス維持ニ努ムルニ依リ一方ニ於テ貴國政府ヨリモ現ニ該方面ニ居住スル貴國人ヲ戒メ自ラ慎重ナラシムレハ裨益最鮮少ナラサルナリ 中華民国十三年十月二十日

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三四二

四一〇

急進ヲ促シタルハ或ハ山海閔ノ戰況ニアラスヤト思ハル

次第ナルカ同地方ノ最近ノ形勢拙電第一〇二六号ノ通ナル

以上吳佩孚自身ハ兎ニ角直隸派内部ニモ本件画策実現ノ上

ハ或ハ相当之ニ呼応スルモノ現ハルヘク又此等党派ニ関係

ナキ人物中ニモ例へハ前兩江總督王芝祥ノ如キハ現戰争力

長引ケハ長引ク程人民ノ迷惑スルハ勿論戰後財政經濟ノ紊

乱ハ遂ニ国家ヲ滅ホスニ至ルヘキヲ憂ヒ前四川總督王人

文、趙爾巽及王士珍等ト連合シ實業界ノ方面ヨリ和平運動

ヲ起サント計画シ居ル事實モアリ而モ其意中ノ人物ハ段祺

瑞ナルカ故ニ右馮段ノ「クーデター」实行セラルニ於テ

ハ案外容易ニ成効スルヤモ計ラレサル處元來不偏不党内政

不干涉ハ世界万國ノ國際的定規ニシテ敢テ政策トハ申難ク

政策ハ外國政府ノ胸中ニ存スヘキモノニシテ我國トシテハ

支那ニ於テ機會アル毎ニ其權利利益ヲ伸張スルヲ以テ其國

策トスヘク此見地ニ顧ミ帝國政府ニ於テモ深ク支那ノ将来

列國ノ野心等（英國ノ如キロト腹トハ多大ノ相異アリ機会

アル毎ニ着々自己ノ利益ヲ伸張シツツアリ）ニ顧ミ慎重考

慮シ置カレ本使ヨリ請訓スル場合直ニ適當ナル御訓令ヲ賜

ル様御準備アランコトヲ予メ懇願ス

奉天、天津へ暗送セリ

三四二 十月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

奉直両軍ノ我ガ満蒙權益侵犯ノ場合ノ対処方 攻究ニツキ申進ノ件

（無番号）

満蒙ニ於ケル我權利利益保全ニ関スル声明ニ付直接ニ條約

上ノ権利並ニ既得ノ利益（例へハ租借地付屬地鐵道及中立

地帶等ニ關スル事項）カ兩軍ノ何レカニ依リ侵害セラレン

トスル場合ニ於テハ我ハ武力ニ訴フルモ完全ニ之ヲ保全ス

ヘク若シ其慎アル場合ニ於テハ特ニ之ニ注意ヲ加ヘ未然ニ

防止スル手段ヲ講スヘキハ勿論ノ儀乍ラ從来満蒙ノ方ハ我

特殊利益ヲ有スル地域トナシ列國モ亦其特殊關係ヲ公認ス

ル以上此地方ニ於テ兩軍衝突シ其治安ハ紊レ甚タシキニ至

リテハ戰鬪ノ巷ト化セントスルカ如キ場合ニ於テ帝國政府

ハ自ラ之カ保全ノ為メ必要ナル方法ヲ執ルヘキハ声明書ニ

所謂帝國自身ノ康寧ヲ圖ル所以ナリト思考ス果シテ然リト

セハ前述ノ場合ニ於テ如何ナル臨機ノ処置ヲ執ルヘキヤ惟

フニ現在ノ守備力ヲ以テシテハ我直接ノ權利利益ヲ保全ス

ルニハ不足ナカラシモ後段ノ場合ニ於テ滿蒙ノ治安秩序ヲ維持セントセハ勢ヒ必要ナル兵備ヲ備ヘ置クノ要アルヘク猶又政策上ノ問題トシテ再ヒ兩軍ニ對シ警告ヲ發スル必要モ生スヘシト考ヘラル

以上ハ対支聲明ニ伴ヒ當然攻究シ置クヘキ順序ノ方法ナリト思考ス、依テ本件ニ關シ政府ノ所見御内示セラレンコトヲ請フ

三四三 十月二十二日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

外交部秘書熊塙ヨリ日本ノ山海閔秦皇島方面

二兵力増派中止方申出ニ關スル件

第一〇四一号

本官発天津宛電報第四五号

十月二十一日外交部秘書熊塙顧總長ノ命ニ依リ本使ヲ來訪シ吳佩孚ハ大總統ニ電報ヲ送リ日本カ山海閔秦皇島方面ヘ約四百ノ兵ヲ大連ヨリ増派ストノ噂アル處山海閔、秦皇島方面ニ於ケル日本人ノ保護ハ國軍ニ於テ充分保護ス可キニ付増援ノ必要ナキノミナラス之力為却テ面白カラサル結果ヲ生スルニ付日本公使ニ交渉ノ上中止セラル様至急御配

初メテ聞ク處ナルト共ニ事態容易ナラサルニ付急速外交総長ニ報告ノ上至急電線修繕ヲ行フ様出先官憲ニ掛合フヘキニ付右增兵ノ儀ハ是非事實トナラサル様尽力ヲ得タシト懇願セルニ依リ本使ハ考慮シ置ク旨答ヘ置キタリ就テハ右ノ次第駐屯軍司令官ニ御伝ヘノ上支那側ニテ電信修繕ヲ實行スルヤ否ヤ注意ノ上其結果貴官ヲ經テ當方へ通知アル様致

シ度シ

外務大臣へ転電セリ

三四四 十月二十二日

在奉天津総領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

覺書手交ニ対スル奉直両派ノ反応振ニ照シ此

ルル件

第四〇六号

在支公使発本官宛電報

第九三号(極秘)

貴電第三〇五号ニ閲シ

直隸側ノ本使ニ対スル誓言ハ我方トシテハ無論広義ニ解ス  
ヘキモノナルト同時ニ何等例外ナク我既得權全部ヲ尊重セ  
シムヘキモノト思考ス而シテ先方カスノ如キ申出ヲ為シタ  
ルハ吳佩孚カ日本ト接洽ノ必要ヲ痛感シ初メタル為ニシテ  
彼カ滿州經略ニ望ミヲ有スル限り右広義解釈ハ之ヲ先方ニ  
強ユルコト敢テ困難ニハアラサルヘキト考フル次第ナルモ  
進テ確証ヲ取付クルカ如キハ大臣宛往電第九五八号中ニモ  
論述シタル通些カ機宜ニ適セサル虞アリ我ハ寧ロ直隸派カ

我既得權全部ヲ尊重スルハ当然ノコトニンテ我ニ何等カ好  
意又ハ応援ヲ求メントセハ之レ以上ノ利益ヲ提供スヘキモ  
ノナリトノ姿勢ヲ示シ居ル方得策ナルヘシト考ヘ十月十五  
日孫潤宇本使ヲ來訪セル際モ日本トシテハ支那側カ誓言周  
知ノ方法ヲトルコトヲ格別必要トセス何等必要アラハ日本  
自身ニ於テ可然措置スヘキ旨ヲ語リ置タル次第ナルモ張作  
霖ニ対シテハ自ラ別個ノ方策ヲ用ユヘキコト当然ニシテ本  
使ノ考案ニ依レハ右直隸派ノ申出ハ内密彼ニ仄カシテ一向  
差支ナキノミナラス目下ノ如キ両軍ノ雌雄容易ニ決セス且  
ツ貴地方面ニ於テ張ノ人氣惡シキ上幾分直隸軍ヲ買被リ居  
ル為メ十分之ヲ利用シテ平素ノ懸案解決ニ資スヘキモノニ  
シテ最重要視スヘキ商租問題ノ如キハ此際一氣ニ始末セシ  
ムヘキモノニシテ客月二十五日付大臣宛貴信機密第三九二  
号ノ中ニ所謂先方ノ切ナル希望ヲ容レ此際交渉ヲ中止ゼン  
カ将来容易ニ機會ノ來ルコトアルマシク而モ若シ戦争ニシ  
テ奉天軍ノ勝利ニ終ランカ老猶ナル張ハ到底我手ニ負ヘサ  
ルコトトナルヘキ虞アルニ付日本人ノ道義心ヨリ見テハ多  
少酷ト思ハル嫌アリトモ此際手ヲ緩メス右等懸案ノ解決  
ヲ迫ルコト大ニ必要ト思考スル処右ニ付テハ政府ニ於テモ

格別異議アルコトト思ハレサルニ付貴官ニ於テモ御同意ナルニ於テハ其方針ニテ進マル様致シ度

因ニ今回ノ対支通告ニ対シ外交部ヨリ差出シタル回答ハ單ニ在留民ノ生命財産ノ安全ヲ保障スルニ止マリ大臣宛拙電第九七八号所報ノ支那側申入レト比照シ甚シキ懸隔アルカ如キモ右回答ハ顧維鈞カ日本ノ真意ハ此際支那ノ滿蒙ニ於ケル特別利益ヲ認メシムルニ在リト推測シ殊更之ヲ避ンカ為メ彼一流ノ小才ヲ弄シタル結果ニシテ格別意トスルニ足ラス必要アラハ王毓芝カ本使ニ示シタル経路ニ依リ右ノ如キ形式的ノ書面往復ヲ超過シ適宜政権ノ中心ト折衝スル方法アルヘシト考ヘ居レリ為念申添フ

大臣ヘ転電アリタシ

第七一号

貴電第四二号ニ閲シ

山海關其他戰線地方在留邦人引揚ニ閲シテハ申ス迄モナク絶ヘス注意致シ居リ屢々派遣警部並ニ守備隊側ノ意見ヲ徵シタルモ何レモ未タ其必要ヲ申出テス且避難スヘキ暫壕三ヶ月ヲ支フル糧食ノ設備アリ在留民亦家財ノ大部分ヲ持チ込ミ居ルコトトテ最早ヤ戰局モ長引クヘシトモ思ハレサル同地方ノ実情ニ顧ミ寧ロ引揚ケサル方得策ナルヘシト思料サルル而已ナラス実ハ引揚ケシムルトスルモ其処置ニハ困却セサルヲ得サル次第ニシテ駐屯軍亦同意見ナリ

尚右ニ閲シテ本日參謀長來訪目下ノ形勢此儘直軍ノ敗退ニ了ハラハ敗兵統々当地其他京奉線一帶ニ類レ込ミ暴行掠奪兵變等ノ發生モ想像セサルヲ得サル所駐屯軍トシテハ之カ防備ニ當外ニ於テ勤務シ得ヘキ兵數当地ニテ僅々二十名ニ過キス其他山海關秦皇島灤州ニ更ニ寡少ノ兵名而已ニ駐屯

シ列國協定ニ基ク任務サヘ已ニ遂行シ得サル狀態ニアレハ  
今日以上ノ任務負担ニ堪ニヘキニアラス從テ不本意乍ラ已  
ムヲ得ス増兵方其筋ヘ電票スル由内話セリ右ハ尤モノ次第ニテ山海關ノ戰局日ナラスシテ片付クトスルモ當分ハ北支

旨上申ノ件

第一六八号

(十月二十三日接受)

本官發在支公使宛電報

ニ於テ兵變政變幾多ノ困難紛擾統出セスト謂フヘカラス又事變ニ処シテ（脱）力維持上必要欠クヘカラサル儀ト思考

ス当地外人間ニモ北支ニ於ケル我利害ノ重大ナルニ比較シ

テ寡少ノ兵数ヲ持シテ平然タル我態度ヲ不可解トシ目下ノ

時局ヲ重大視セサルヤト本官ニ尋ヌルモノスラアリ支那人間ニアリテハ我国力ノ減退ノ表現ト看做スモノアリ北支政

局ハ之ヨリ更ニ多事ナラントスルニ方リ苟クモ我実力ニ疑

ヲ挿マシムルカ如キハ将来ノ関係上面白カラサルヲ以テ経

費ノ関係モ有之ヘキモ断然増兵ノ御詮議アル様其筋ニ閣下

ヨリ御稟請煩ハシタク尚当地警察署長過日極ク内密ニ本官ニ対シ直軍敗兵天津ニ入り込ム場合ヲ予想シ微力ナル警察

力ニ相当ナル我兵力ノ實在ハ啻ニ居留民ノ安全ノ為メ而已

ナラス帝国ノ北支ニ於ケル（脱）テハ到底治安ノ維持困難ト思料スルニ付各國ノ協力援助ヲ以テ敗兵ノ天津通過禁

止若クハ武装解除スル手筈ヲ講スル様今日ヨリ本官ノ斡旋

ヲ希望ス其場合ニ配下五千ノ巡警全部ヲ提供スルモ可ナリ

ト申出テ居リ斯様ノ次第ニテ支那側ニテモ敗兵ノ仕末ニハ

已ニ心配シ居ル内情ナリ御参考迄申添フ

大臣ヘ転電セリ

往電第一六九号ニ閑シ

段派ノ消息ニ依レハ右ハ予定ノ計画通り実行サレタル訳ニ  
テ在北京軍隊警察隊ノ全部加担シ居ルヲ以テ兵變ナカルヘ

シ馮玉祥、胡景翼、王承斌等モ一両日中ニ北京ニ乗込ムヘ  
クスクテ第一段ノ「ステップ」トシテ大總統ヲ強要シ吳佩

孚ヲ監收シテ王承斌ヲ以テ代ランメ次テ曹錕ヲ追フノ階段

トナルベク段祺瑞ハ各省代表ノ集会ヲ求メ其ノ擁立ヲ待ツ  
ヘク晉京スヘシ云々

北京、奉天、濟南、上海、廣東、福州、青島、漢口、南京、杭州及香港ヘ転電セリ

三四八 十月二十三日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

時局ニ鑑ミ驅逐艦急派方要請ノ件

第一七一号

往電第一六八号及第一六九号ニ閑シ北京ニ於ケル時局不明乍ラ到底此儘ニハ濟ミ難カルヘキニ付万ニ處スル為メ前

頭往電第一六八号ノ趣旨ニ基キ最寄旅順ヨリ驅逐艦急派方

御詮議相成様致シタシ

公使、奉天ヘ転電セリ

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三四八 三四九 三五〇

馮玉祥ノ一隊北京ニ進入シ各要所占領ニ閑ス

ル情報ノ件

第一六九号

二十三日朝軍用無線電信ニ依レハ馮玉祥ノ一隊北京ニ乘込

ミ要所要所ヲ占領シ電信電話線ヲ切斷外間トノ通信ヲ断チ

日本軍隊ハ戰闘準備ヲナン夫々守備区域ニ就ケリト言フ

北京天津間ノ電信電話不通ニテ狀況不明ナルカ馮玉祥ハ予

テ計画ニ從ヒ愈々吳佩孚排斥ノ態度ヲ鮮明ニシ孫岳指揮ノ

下ニ北京ヲ掌中ニ収メ曹錕ニ対シ停戰命令宣布ヲ迫リタル

モノト想像セラル

在支公使、奉天、濟南、上海、廣東、福州、青島、漢口、南京、杭州、香港ヘ転電セリ

三四七 十月二十三日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

馮玉祥等ノ入京後ニ於ケル北京政局ノ見通シ

ニ閑スル段派ノ消息ニツキ報告ノ件

第一七〇号

中國側ヨリ正当政府樹立マデノ政費援助方申

出ニ対シ我方将来ノ素地作リノタメ融通望シ

キ旨上申ノ件

第一〇五二号（至急）

（十月二十五日接受）

往電第一〇五一号ニ閲シ

黄郛及袁良等ノ申出タル七十万弗ハ總統府ノ官兵武装解除而已ノ為メ差当リ入用ナル額ナルモ今後段祺瑞カ入京シ正當政府樹立スル迄ニハ往電第一〇三一号ニモ見ユル如ク多少日子ヲ要スヘク夫レ迄ノ政費トシテハ結局四五百万弗是非入用ナルコトハ過日袁良カ語リタル通リナル所我ニ於テハ右ノ懇請ヲ斥クルコトトナランカ彼等ノ計画ニ大打撃ヲ与フルコトトナル点ハ兎ニ角一面段派ニ対スル從来ノ我關係ヲ一朝ニシテ水泡ニ帰セシムル惧アリ且彼等ノ画策成功ノ曉我立場ノ非常ニ困難トナルハ当然ノコトナル所目下ノ形勢ニテハ吳佩孚カ差当リ形勢ヲ挽回シ得ヘシトモ思ハレス曹鋐ヲ取り巻ク保定派サヘ却テ往電第九八一号末段所報ノ如キ而已ナラス反吳佩孚陰謀ヲ運ラシ寧ロ此際馮玉祥ノ一味ニ連絡ヲ存シ居ル傾向サヘアル事情ニシテ顏國務總理ノ如キハ当初ヨリ馮ト氣脈ヲ通シ居レリト迄伝ヘラレ居ル

次第ナルニ依リ今回ノ計画ハ大体成功スルモノト見テ誤リナカルヘク我国カ此際袖手傍観スルカ如キハ甚タ理由ナキモノト思ハル勿論本使ト雖モ公然彼等ヲ援助スルカ如キハ総テノ点ヨリ見テ不得策ナルヲ信スルモ徹頭徹尾不偏不党乃至不干涉ニ終始スルカ如キハ彼我ノ特殊關係上將又我國策上当ヲ得タルモノニアラス我ハ寧ロ斯ノ如キ機会ヲ利用シ我利益ノ擁護發展並ニ素地ヲ作ルハ誠ニ喫緊ノ事柄ナルニ依リ時局收拾ニ付表面列強ニ謀議スルハ勿論ノ儀ナルモ裏面ニ於テハ單独ニ支那側ト氣脈ヲ通シ我絶対ノ立場ヨリ自主的活動ヲ為スコト最モ必要ナルニ依リ至急方針ニ廟議ヲ決セラレタシ

尚本使ノ考案ニ依レハ右四、五百万弗ノ融通ハ外聞ヲ避クル為メ且ハ将来ノ素地ヲ作ル為メ滿鉄ヲシテ確實ナル事業権又ハ財産担保ヲ取り張作霖ニ手交シ張ヨリ段派ニ転交セシムルコト好都合ナルヘク段派ニ於テモ此方法ニハ別ニ異議ナキモノト信スヘキ理由アルニ依リ至急在京滿鐵總裁ヨリ大連ニ電命スル様御取運ヒ相成タシ将又差向キノ所要七十萬弗ニ付テハ先方ノ事情窮迫已ムヲ得サル際ニハ當地正金ヨリ一時融通セシムル様取計フ必要アルヤモ計ラレサル

ニ付本電票カ主義ニ於テ御採納ヲ得ヘキヤ否ヤ丈ヶハ折リ返シ至急御一電相煩ハシタシ本電ハ勿論絶対極秘ノ御取扱ヒヲ請フ

三五一 十月二十四日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

天津地域ノ兵力増加ハ焦眉ノ急ト考ヘラルル

旨報告ノ件

第一〇五八号（至急） （十月二十五日接受）

天津地方ニ守備兵増加ノ必要アルハ吉田總領事発本使宛電報第七一号稟議ノ通リナルニ付至急適當ノ措置ヲ講セラル様致シタシ尚当地ハ馮玉祥及警備總司令趙玉珂ノ諒解アル為馮ノ兵ヲ以テ大總統ノ居所ノ周囲ヲ取囲ミ又市外トノ電信電話ヲ切斷シ居ル外目下ノ處市内格別騒擾ヲ見サルモ今後ノ無事ヲ逆睹スル迄ニハ至リ居ラス且山海關方面ノ事情ハ不明ナルモ吳佩孚ノ軍隊カ此儘武装解除セラルモノトハ容易ニ想像シ得サルト共ニ此方面ニ於ケル兵變乃至移動ハ自然当地方面ニ打撃ヲ及ホスコトナキヲ保セサルモ現在最モ危険ニ瀕スルハ天津地方ナルヘキニ依リ同地及沿線守備隊区域ノ兵力増加ハ焦眉ノ急ト考ヘラル

天津へ転電セリ

三五二 十月二十四日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚督戰ノ効無ク直隸軍後退及び吳ノ所在

不明並ビニ敗兵ノ武装解除等ニツキ報告ノ件

（十月二十五日接受）

二十三日払曉ヨリ五泉寺山付近ニ於テ兩軍ノ間ニ激烈ナル高地争奪戦アリ吳佩孚親シク激励シタルモ効無ク奉軍依然同高地ヲ占拠セルカ其後差シタル戰闘ナカリシ処同日午後四時頃ヨリ第一軍總司令部ハ山海關ヲ引揚ケ秦皇島ニ向ヒ爾來引続キ直軍後退シツツアル旨該地守備隊ヨリ電報アリ又秦皇島ニ於ケル直軍ノ我ニ対スル態度最近著シク良好トナレル由北京事変以来吳ハ或ハ運送船ニ依リテ秦皇島ヲ去リタリト云ヒ又自決セリトモ伝ヘラレ所在全然不明トナリ從テ士氣沮喪シ暴力ヲ振フノ氣力無シト云フ近ク王承斌同地ニ赴キ武装解除シ解散セシムルニ至ルヘシトハ段派ノ伝フル処ナリ

ヒタル趣京奉線「マネージャー」ヨリ通知アリ無事入京セ  
ル事ト思料ス

駆逐艦ノ天津急派方電報等送付ノ件  
付属書 同右海軍大臣発旅順防備隊司令等宛  
電報（一）（二）（三）

予定ナル旨旅順防備隊ヨリ電報アリ本二十四日司令官會議  
開催往電第一七八号楊以德申出テノ件ヲ討議シ結局各國司  
令官ノ名ニ於テ戒厳副司令タル楊ニ対シ支那兵八百ノ武装

解除ヲ要求シ楊ハ右ノ要求ニ基キ行動スルノ形式ヲ執ラシ  
ムルモ各国兵力ヲ以テ楊ヲ援助セサル事ニ決シ秦皇島ニ於  
テハ直軍海路退却ノ為同地ニ雲集シ奉軍之ヲ追撃スルコト  
アルヘキヲ予想シ在留外人（日本人二十六名、外人百五十  
余名）保護ハ目下（脱）軍主トシテ之ニ当リ英、仏之ヲ援  
助スルコトシ英ハ歩兵一小隊ヲ増遣シ且威海衛同國軍艦

一隻派遣ノ事ニ決セリ又石炭輸送ニ関シテハ外交團ヨリ屢  
次ノ抗議ニモ拘ハラス我カ要求ヲ実行セサルヲ以テ二十三  
日直接吳ニ交渉シ機関車二輛ヲ提供セシメ開灘鉱務局ノ貨  
車ニ依リ日々八百噸ヲ輸送スルコトニ申合セタリ

在支公使、奉天、上海、南京、漢口へ転電セリ  
三五三 十月二十四日 小林海軍省軍務局長ヨリ  
出淵亞細亞局長宛

（別紙三葉添）

昨二十三日ノ臨時閣議ニ基キ海軍ニ於テハ夫々別紙ノ通發  
電済ニ有之候  
右為念送付ス

（付属書）

官房機密第六二番電報

大正十三年十月二十四日

海軍大臣

旅順防備隊司令宛

麾下駆逐艦二隻ヲ天津ニ急派シ所在帝國官憲ト連絡ヲ保チ  
在留邦人ノ保護ニ任セシムヘシ

過ギザル旨考察ノ件

第一八五号  
(十月二十六日接受)

官房機密第六三番電報

大正十三年十月二十四日

海軍大臣

佐世保鎮守府司令長官宛  
左ノ通旅防司令ニ訓令セリ此旨心得ヘシ

前文

（三）

官房機密第六四番電報

大正十三年十月二十三日

海軍次官

第一艦隊參謀長宛

北支方面ノ情況ニ依リテハ第三戰隊ヲ渤海灣ニ差遣セラル  
ルヤモ知レス就テハ同隊ハ當分佐世保ニ留メ急速出港ノ準備ヲ整ヘシメラレタシ依命

三五四 十月二十五日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

直隸派内ノ排吳計画ハ既ニ久シク馮ノ「ク一  
データー」ハ偶々奉天再戦ノ機会ニ乘ジタルニ

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三五四

ル計画ナリ吳素ヨリ馮等ノ異心ヲ承知セルモ彼等ノ恃ム处  
ハ奉天軍ニ在リトナシ奉天軍ノ軍容成リシト言フモ畢竟ス  
ルニ馬賊ノ集團ノミ吳一度輶ヲ上ケテ陣頭ニ起タハ山海關  
三日ニシテ突破スヘク奉軍ノ敗レルノ勢ヲ以テ馮等ニ臨メ  
ハ彼ハ首風両端ヲ持スルノ輩鎧袖一触ニ值セストハ吳ノ心  
事ナリシナル可ク然ルニ彼親シク軍ヲ督スルモ激戦二旬ニ  
シテ尚戦局意ノ如クナラス遂ニ此変ヲ誘致セリ吳ノ之ニ處  
スル策如何ハ未タ知ラサルモ或ハ該地ニ集合セル二十余隻

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三五五 三五六

四二〇

ノ艦船ニ乗シ青島若ハ龍口ニ出テ河南ニ入ラント試ミスヤトノ観測モアリ其ノ進退ニ付テハ最モ注意スヘシ馮ハ北京ヲ掌中ニ収メ大總統以下閣員ヲ監視ノ下ニ置キ唐紹儀、岑春煊、陳炯明、唐繼堯等ヲモ網羅シテ委員会ヲ組織シ不取敢段祺瑞推戴ノ通電ヲ發セルハ既電ノ通ナルカ馮今後ノ方針ニ至リテハ段派要人ト雖確信ナキモノノ如ク從テ又第二ノ黎元洪タルノ愚ヲ為スヲ恐レテ頻リニ段ニ自重ヲ勧メ段自ラモ挙国一致ノ勸説ニ遭フニアラサレハ輕々シク動カサルノ決意ヲ為シ居ルヲ以テ段ノ出廬ヲ見ルニハ尚幾多ノ曲折アル可シ馮ハ予テ王承斌、齊燮元、王正廷、黃郛ト最モ親密ナルヲ以テ之等ノ輩暫時中心人物トシテ馮ヲ援クルモノナル可シト言フ

公使、奉天、上海ヘ転電セリ

三五五 十月二十六日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ハ馮玉祥ノ背反ヲ憤り最後ノ一戰ヲ試

ムベク準備ノ旨報告ノ件

第一九一号 (十月二十七日接受)

吳佩孚ハ手兵七百余ヲ引率今二十六日午前十一時半東站

令部ヲ其ノ儘呉ノ司令部ト為シ当地ヨリ北倉ニ涉リ兵員ヲ集中秦皇島ヨリ船ニテ送兵シツツアルカ如シ秦皇島ニハ約二列車アリタルヲ以テ之ニ依リ約一万五千ノ兵ヲ当地ニ集

ムルヘク更ニ海軍ニ依レハ一層多數ノ兵員ヲ集合シ得ヘク又山東浙江蘇湖南湖北ノ五省ニ対シ京漢線京奉兩線ニ依リ出兵ノ命令ヲ下セルモノノ如シ之ニ対シ胡景翼幕下一大隊北倉迄進軍シ居レル處呉軍ノ來着ヲ見テ北倉以北ノ鐵道橋梁等二三ヶ所破壊シ北京方面ヨリ援軍招集中斯クシテ北京ヲ目的トシテ當地方ニ數万ノ兵近ク來集スヘキ状況アルヲ以テ駐屯軍ハ之カ対策ヲ攻究シ不取敢參謀本部ニ對シ二大隊(現在ノ三中隊ヲ合セ一連隊)ノ增兵ヲ申請シ北京天津其ノ余ノ沿線ニ於ケル警備ニ充ツル計画ヲ立テ上申済ミ二大隊増遣ノ場合ニハ一大隊ヲ北京ノ警備ニ充ツル予定ナリト云フ不取敢

外務大臣ヘ転電セリ

三五七 十月二十七日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

奉直戦時ニ於ケル本邦軍人ノ行動並ビニ義勇  
兵ノ情報等報告ノ件

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三五七

(東停車場)通過目下北倉ニ駐車シソアリ終始觀戰武官トシテ吳ト共ニアリタル松室少佐ハ東站ニ下車ヲ求メラレタルカ同少佐ノ談ニ依レハ吳ハ馮ノ豹變ヲ大イニ憤リ直接面責スルト共ニ能フヘクノハ懇談ヲ遂ゲタシ能ハサレハ最後ノ一戰ヲ試ムヘク兎ニ角北京ニ向テ驥進スヘシ山海關秦皇島方面戰線ハ依然トシテ北京攻略ノ為メニハ一万余ヲ將付近ニアリ馮軍亦二個旅団ヲ南下セシメアルヲ以テ廊坊以南ニ於テ一戰アルヘク吳軍勝ヲ制スル時ハ北京ノ情勢逆睹スヘカラサルモノアリ尚楊森ノ言ニ依レハ(不明)閻錫山ハ次ニ二旅ヲ將ヒ太原ヲ出テテ石家莊ニ向ヒタリト謂フ公使、奉天、南京、上海、濟南、青島ヘ転電セリ

三五六 十月二十六日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚軍ノ天津地方集結ノ状況並ビニ我駐屯

軍ノ増員ニツキ申進ノ件

第一九五号(至急)

本官発在支公使宛電報第九三号

吳佩孚ノ列車ニ引続キ統々後続部隊來著天津市中朱熙軍司

機密公第四六一号

(十一月三日接受)

大正十三年十月二十七日

在奉天

總領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉直時局ト本邦軍人等ノ行動及義勇兵ニ関スル件

奉直開戦ト共ニ所謂支那浪人並ニ禁制品売込ノ商人等当地方ニ入込ミ来ルモノ少カラサル模様ナルモ彼等カ如何ナル活動ヲナンソツアルヤハ的確ニ調査スルコト困難ニ有之候右ノ外以前赤峰領事タリシ北条太洋ハ客月下旬來奉シ屢々張作霖ニ会見シタル後何等カノ使命ヲ帶ヒテ旬日前上京シ又元関東軍參謀長タリシ休職浜面中將ハ十月一日飄然來奉シ元市川副領事ノ代用官舎タリシ家屋ヲ借受ケ屢々張作霖ニ会見シ種々献策スルトコロアリタルモノノ如ク又自身モ戰線ヲ視察シテ奉天軍ノ実状ヲ報告シ相当張作霖ヨリ信任ヲ得ツツアリ而シテ現ニ奉天軍ト共ニ戰線ニアル邦人將校ハ吉林督軍顧問林少佐奉天省軍事顧問儀我大尉ノ両名ノ外浜本少佐、是永少佐及荒木砲兵少尉等ナル趣ニ有之又關東軍ノ中川參謀モ先般戰線ノ視察ヲ了ヘ同軍ノ浦參謀ハ二十日

朝張学良ト共ニ戰線ヨリ帰奉タル趣ニ有之候尤モ之等將校力戰線ニ赴ケルハ單ニ觀戦ノミノ為ナルヤ將又顧問其他トシテノ特殊任務ヲ有スルモノナリヤハ容易ニ知悉シ得サル處ニ有之候

尚張宗昌ノ依頼ニヨリ邦人倉谷箕藏ノ募集ニ応シテ義勇軍トシテ張宗昌ノ麾下ニ参シタル本邦人ニ対シテハ九月二十日付機密公第三九六号報告ノ通り嚴重取締ヲ加ヘタルカ當館警察署ノ探知スル處ニヨレハ其以前ニ於テ密カニ該軍ニ参加セシモノハ約六十八名ニシテ九月十七日三十三名同二十二日二十四名同二十七日十一名ナリ彼等ハ夫々支那服ヲ着シ支那兵ト共ニ出発シタルカ途中脱出セルモノ三名に於後帰奉セル者九名アリテ一名ハ戦没セル趣ニ有之尚昨今義勇兵中銃殺セラレタル者十余名アリト云フモ確ナラス或ハ待遇等ニ不満ヲ抱キ脱出シテ逮捕投獄セラレタルモノト被存候而シテ該義勇兵ノ隊長トシテハ当地居住予備歩兵曹長東朝來ナル者之ニ当リ予備歩兵上等兵落合栄七郎ナル者副長トシテ敢死隊ナル旗印トシテ行動シ常ニ張宗昌ニ付隨シ居リ之カ世話役トシテ邱參謀担任シ居レル由ニテ其待遇ハ最初ノ中ハ極メテ鄭重ニ取扱ヒ居リシカ漸次厄介視スルニ

待遇等ニ不満ヲ抱キ脱出シテ逮捕投獄セラレタルモノト被存候而シテ該義勇兵ノ隊長トシテハ当地居住予備歩兵曹長東朝來ナル者之ニ当リ予備歩兵上等兵落合栄七郎ナル者副長トシテ敢死隊ナル旗印トシテ行動シ常ニ張宗昌ニ付隨シ居リ之カ世話役トシテ邱參謀担任シ居レル由ニテ其待遇ハ最初ノ中ハ極メテ鄭重ニ取扱ヒ居リシカ漸次厄介視スルニ

至レル趣ニ有之又情報ニヨレハ之等義勇兵中ニハ直軍ニ捕虜トナリ最初ハ耳等ヲ切ラレ隨分慘酷ニ取扱ハレタルモノアリシカ後ニハ証拠トシテ留メ置ク為ニ相当優遇セラレ居レル等伝ヘラレ候

尚町野顧問ハ二十四日夜當地発極内密ニ天津ニ赴キタル由ニ有之候

右何等御参考迄此段報告申進候 敬具  
本信写送付先 在支公使 天津總領事

三五八 十月二十八日 幣原外務大臣宛（ヨリ）

在天津吉田總領事宛（電報）

居留民保護ノタメ天津ニ増兵決定ノ件

往電第八〇号末段ニ関シ  
第八三号（至急）

其ノ後ノ事態ニ顧ミ居留民保護ノ為メ今回大連ヨリ大隊長ノ率キル二個中隊及機関銃隊一小隊（機関銃二挺）ヲ貴地ニ増派スルコトニ決定セリ

北京、奉天及上海ニ転電アリ度シ

三五九 十月三十日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

### 張宗昌軍ノ瀕州進出ニヨル吳軍ノ潰乱並ビニ

#### 張紹曾ノ馮吳間調停斡旋ノ無効ニ関スル情報

##### ニツキ報告ノ件

第二一〇号

（十月三十一日接受）

吳佩孚ハ奉天軍トノ調停ヲ我方ニ依頼ノ件  
第二一四号（至急、極秘）  
（十一月一日接受）

本官發在支公使宛電報

第一一八号

吳佩孚三十一日王廷楨及岡野ヲ以テ本官ニ調停ヲ依頼シ明

日張紹曾ニ面会シ委細協議シ吳ル様懇談アリ依テ同人ニ面談ノコト承諾シタリ岡野ノ云フ所ニ依レハ三十一日朝張福来戰地ヨリ帰来シ山海關秦皇島ノ戰況ヲ語リ吳カ養ヒ来るレル將卒ノ慘憺タル狀況委細ノ報告ニ接シ之レ迄頑強ニ和議ニ応セサリシ吳モ我ヲ折リ遂ニ本官ニ調停ヲ依頼スルノ決意ヲ為シ速ニ奉軍カ停戦ニ応スル様取計ヒ方特ニ依頼希望スル所ナリト謂ヘリ不取敢大臣、奉天へ転電セリ

段派ハ馮軍近ク天津付近ニ顯ハレ吳軍ノ潰滅ヲ確信シツツアーモノノ如ク吳ノ總司令部亦漸次動搖ノ色アリ

アリ山東援軍ノ如キハ遂ニ來ラサルモノノ如シ  
在支公使、奉天、上海、漢口、濟南、南京へ転電シ芝罘、青島、牛莊、香港、杭州へ暗送セリ

三六〇 十月三十一日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ニ於テ日本ヘノ亡命ノ意向アラバ便宜  
供与方得策ナル旨申進ノ件

（十一月一日接受）

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三六〇 三六一

四二三

本官発天津宛電報

第七一號（極秘）

貴電第九七號ニ閔シ

段吳ノ提携ハ固ヨリ十分考慮ノ価値アルノミナラス或ハ時

局ノ平定ニ至大ノ効果アルト同時ニ我対支政策ノ将来ニモ

亦之ヲ善導シ得ヘキコトアルヘク旁本使ニ於テモ予テヨリ

考慮ヲ払ヒタル処ナルモ如何セン吳ト張作霖トノ関係ヲ纏

ムル上ニ於テ多少ノ困難アリ殊ニ最近ノ情勢甚タ吳ニ不利

ニシテ既ニ楊村モ馮軍ノ權下ニアリトノ報道ニシテ事實ナ

ルニ於テハ前記段吳ノ提携策モ到底成効ノ望ナント云ハサ

ルヘカラスト雖モ翻テ考フルニ御承知ノ通吳佩孚ハ支那人

ニ稀ナル逸材ニテ其才幹ニ至リテハ敵味方共ニ之ヲ認メ居

リ若シ吳ニシテ生ヲ全フスルニ於テハ将来再ヒ捲土重来ノ

機ヲ得ヘク從テ我方トシテハ馮玉祥及張作霖等ノ将来ニ於

ケル相互關係ヲ考慮スルト同時ニ吳ノ将来ヲモ考慮ニ容ル

ルノ要アルヘシト思料セラル處右等ノ点ヨリセハ單ニ吳

ノ現状ニ對シ同情的見地ヨリ此際幾分ノ恩義ヲ施シ置クコ

トハ我将来ニ裨益スル処アルヘクト思考セラルニ付若シ

同人ニシテ暫ク難ヲ日本ニ避ケントスルカ如キ意向ヲ懷ク

外務大臣ヘ転電セリ

入込ミ支那町ニ於テ所在掠奪ヲ開始シ余勢対岸伊国租界乃至仏國守備区域ヲ侵スニ至ラハ我兵ヲシテ援助セシムルコトトナリ居リ且差当リノ処外国租界内ノ脅サルコトナカルヘク其後敗兵ヲ乗セタル運送船ノ遡航シ来ルモノナン楊村方面ニ於テ其後両軍ノ衝突ナク馮軍ノ行動頗ル緩漫ナリト云フ

三六三 十一月二日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ハ戰局收拾ハ直接日本ニヨル奉直間調停ヲ希望シ政局收拾ハ張紹曾案ニヨリタキ意

向ノ旨報告ノ件

別電

同日在天津吉田總領事發幣原外務大臣宛電報第二十八号

張紹曾ノ和平調停案

第二一七號（極秘、至急）

往電第二一四號ニ閔シ

今一日段祺瑞ヲ往訪シ昨王廷楨ノ調停依頼ノ始末ヲ述ヘ予

コトアラハ出来得ル限り便宜ヲ与フルコト得策ナルヘクト思考ス其辺固ヨリ御如才ナキコト存スルモ為念申進ス大臣ニ転電セリ

三六二 十一月一日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚軍ノ病兵、敗兵ヲ乘セタル運送船遇航

ノ拒否ニ閔シ決議ノ件

（十一月二日接受）

本官発在支公使宛電報

第一一九號

往電第一一五號ニ閔シ

病兵並ニ敗兵ヲ乘セタル運送船三隻溯航シ來リタルヲ以テ各国軍ニ於テ支那警察隊ト協議ノ上全部下航セシムルコトニ決シ内二隻ハ昨三十一日下流ニ向ヒタルモ一隻ハ今英國租界ニアリ一兵モ上陸セシメサル様英兵嚴重監視中ナリ司令官會議ニ於テハ租界内乃至列國守備区域内ニ上陸セントスル者ニ對シテハ武力ヲ以テ之ヲ阻止スヘキモ北京議定書ニ基ク二十支里以内駐兵阻止ニ閔シテハ實力足ラサルヲ以テ吳佩孚ニ對シ嚴重警告ヲ与ヘ置クニ止メタルカ敗兵統々

テ段氏カ時局調停ニ勞ヲ執リ政局乗出シノ機會ヲ茲ニ求ムルノ機宜ノ处置ト考ヘ居レルニ付一応王ノ依頼ヲ受入レタル次第ヲ述ヘ本官ハ以前ヨリ北洋派先輩タリ國家ノ元（勳）タル段氏ノ調停コソ政局收拾上最然ルヘシ目下ノ処ハ停（戰）ニアリ段カ馮、吳両軍ニ對シ先ツ停戰シ斡旋ヲ試ミ吳ハ馮氏ニ降ルニ非シテ段氏ニ降ルノ形式ヲ以テ吳ヲシテ武將ノ名譽ヲ以テ退カシメ其兵力ハ是レヲ収ムルコトトセハ如何ト說キ兎ニ角ニモ段ハ停戰斡旋ノ勞ヲ執ルヘキ決意ノ一端ヲ示シタルニ付午後張紹曾ニ面談セリ張ハ過日來調停斡旋ノ経過ヲ述ヘ停戰其他政局收拾ニ對シ方策五箇条（別電）ヲ提示セルニ付本官ハ日下ノ処ハ停戰ニアリ戰局ノ收拾ニアリト承知セルニ政局收拾迄戰局切迫ノ此際ニ論セハ吳軍ノ潰敗救フノ暇ナシト說破シ非常ノ際非常ノ決心ヲ以テ吳ハ段ニ身ヲ投シテ將卒ノ急ヲ救フニ非サレハ時機去ラント切言シタル結果段カ停戰斡旋ノ通電ヲ發セハ張ニ於テ段、吳ノ會見ノ上無条件ニ政局收拾ヲ段ニ依頼スルノ途ニ出テシムヘキニ付直ニ段ノ意向ヲ確カメ吳レトノコトニ付本官ハ段ノ内意ハ略今朝確カメタルニ付此上ハ吳ニ其決意アルヤ直接確カムル要アリ吳ニ本官一應会談ノ後

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三六三

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三六四

四二六

段ニ最後ノ決心ヲ迫ルヘント告ヶ張ハ一旦引返シ本官談話ノ要領ヲ吳ニ告ケ更ニ本官ヲ迎ヘタルニ付夜ニ入り本官ハ

吳ヲ列車中ニ往訪セルニ吳ハ余程疲労ノ色ヲ示シナカラモ無キモ現状如何トモ致方ナク一昨年奉直戦ニ英國軍艦々長

ニ調停依頼シ昌黎山海関綏中ニ於テ停戦ヲ為セル事情ヲ述ヘ今回ハ日本ニ調停ヲ依頼シテ戰局收拾致シタントテ調停

依頼ノ意ヲ述ヘタルニ付事情全然異リ今ヤ戰局ノ終末ハ政局ノ收拾ニ關係ス而モ戰局ノ危機ハ刻々迫ルニ非スヤト云

ヘルニ馮軍方面ハ安心ナリ唯奉直停戦成レハ可ナルノミ段氏ニ調停依頼ハ好マンカラス是非トモ日本ノ斡旋ニ依リ停

戰ヲ為シ政局ノ收拾ニ付テハ大体張紹曾案ニテ徐々ニ善後策ヲ講シタク是レカ為ニハ電報往復ニ尚兩三日ヲ費スモ致方ナシト云ヘルニ付兎ニ角帝国政府ノ指揮ヲ請ヒ同時ニ奉天船津總領事ニ電報スヘシト云ヒテ訣レタリ

在支公使、奉天ニ転電セリ

(別電)

十一月二日在天津吉田總領事發幣原外務大臣宛電報第一二八

号 張紹曾ノ和平調停案

第二二八号  
張紹曾和平調停案左ノ通り

(一) 即日停戦各省撤兵ヲ行フ

(二) 交戦者及國民軍協力シテ最高軍事會議ヲ開キ左列事項ヲ議ス

一、国軍ノ兵數  
二、国軍ノ配備  
三、裁兵

四、軍制

(三) 憲法ノ修正及将来政治ノ改善ニ関シテハ國民公推ノ国民會議之ヲ議決シ國会之ヲ議定ス

(四) 各省ノ選挙及法律問題ヲ再問セサルコト

(五) 本案ハ交戦者國軍及國民之ヲ商定<sup>シユジ</sup>スルコト

北京、奉天へ転電セリ

三六四 十一月二日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥軍ノ楊村占領ト吳軍退却ノ混亂情況ニ  
ツキ報告ノ件

第二二九号

本官發在支公使宛電報第一二三号

今朝入手ノ情報ニ依レハ馮軍ハ昨夜楊村ヲ占領シ楊村方面ニアリタル吳軍ハ統々北倉ヲ經テ天津市外西北方面ニ退却

ノ模様アリ吳軍ハ非常ニ混雜動搖シ目下退却方法ニ付協議ヲ進メツツアルモノノ如シ一派ハ海路上上海ニ行カムトシ一

派ハ天津租界ニ遁入セム事ヲ主張シツツアリ独リ吳佩孚ハ

尚列車中ニ在リテ動力本官ハ貴電第七一号ノ御訓令ニ從ヒ之カ救助方策ヲ講シツツアリ不取敢

外務大臣、奉天、漢口、上海、青島、濟南、南京、杭州、香港、芝罘、牛莊へ転電セリ

三六五 十一月一日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

浙江軍千八百名ハ大連ニ上陸シ本二日朝二回ニ亘り満鉄ニ

勵二従事スルヲ標榜シ汽車輸送サレタル件

第四三三号 (十一月二日接受)

浙江軍千八百名ハ大連ニ上陸シ本二日朝二回ニ亘り満鉄ニテ当地着直ニ南門外ニ宿營セリ右ハ哈爾賓製糖会社ノ労働ニ従事スルモノナリト標榜シ汽車輸送セラレタル由ナルモ当地在留外国人ハ既ニ奉軍ニ参加セシムモノナル事ヲ探知

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三六五 三六六

四二七

シ夫々本国及北京公使ニ打電シタル趣ナリ尤モ当地邦字新聞ニ対シテハ閔東庁ヨリ掲載方ヲ差止メタル由右御参考迄在支公使へ転電セリ

三六六 十一月二日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳ノ調停斡旋方依頼ニ對シ一応張作霖ノ説得

ニ努メ張ノ回答ヲ得テ後何分ノ通報ナシタキ件

第二二〇号(至急)(極秘取扱) (十一月三日接受)

本官ハ張紹曾ニ對シ戰局切迫ノ此際政局收拾迄モ論セハ

吳軍ノ潰敗救フノ途モナキヲ以テ先ス停戦ニ力ムヘキノ秋ナリト説キ吳佩孚ニ對シ一昨年奉直戦ノ末期ニ於テ英國軍艦々長調停ノ當時ト今日ハ全然形勢ヲ異ニシ戰局政局相錯

綜シ戰局ノ終末ハ即チ政局展開ノ初期ニシテ政局收拾ヲモ

茲ニ論セハ時期遷延遂ニ政局ノ收拾ヲモ為ス能ハサル可ク

此際ハ非常ノ決心ヲ以テ戰局ノ終決吳軍ノ收拾ニ力ムヘシト論ジタルモ一ハ戰局ノ切迫ヲ認メス馮軍恐ルニ足ラス

トシ奉直停戦成ラハ可ナリ幸ニ帝国政府ノ斡旋ヲ切ニ望ムト云ヒテ聽カサルニ付昨夜ノ会見ハ一応打切りタル次第ナ

ルモ素ヨリ頗勢如何トモスヘカラス今朝ノ戰況別電ノ通ナ  
ルカ吳ハ依然トシテ昨同様ノ旨ヲ繰返シ居ルカ如ク頻ニ帝  
国政府ノ回答ヲ俟チツアリ本官ハ不干涉主義ノ御方針ヲ  
体シニハ段祺瑞ニ調停ノ名ヲナサシムルト共ニ得ヘクン  
ハ吳ノ窮地ニ在ルヲ救ヒタシト心懸ケ居ル次第ナルカ吳カ  
今尚帝国政府ノ訓電ヲ俟チ居ル以上適當ノ御回電ヲ得テ彼  
ノ決心ヲ促スノ外ナク惟フニ大勢既ニ吳ヲ去レル今日政局  
ノ收拾ヲ云々スルカ如キハ時期既ニ遲シ吳ノ執ルヘキ途ハ  
武將ノ名譽ヲ全フシテ敗軍ノ收拾ニアルヘク帝国政府ニ於  
テハ之迄不干涉主義ヲ維持セラレタル以上戰局ノ末期ニ當  
リテ敗軍ノ將ニ援助ヲ与フルコトアル可キニモ有ルマシク就  
テハ吳ニ對スル答酬トシテハ帝国政府ハ船津總領事ヲシテ  
一応吳氏ノ為ニ張作霖説得ニ力メ張ノ回答ヲ得テ何分ノ通  
報ヲナスヘキモ調停ノ時期既ニ遲キ惧アリ然ル場合ニハ人  
道上ノ見地ヨリ吳氏ノ一身ノ安全吳軍ノ收拾ニ就テハ如何  
様ニモ努力致スヘキ旨ヲ諭サレテハ如何カト存セラル尚船  
津總領事ニ御訓令ノ上往電第二一八号吳氏ノ調停希望案ニ  
関シ張作霖ノ回答ヲ取り次テ電報スル様御指揮ヲ仰キタシ  
公使、奉天ニ転電セリ

停戦ニ依リ再起ノ計ヲ為シタント云ヒテ開カス最後ニ岡野  
坂西ハ如何ニシテモ吳ヲ連出シ来ルヘシトテ夜十時過更ニ  
出カケタルモ當時ハ最終ノ列車會議中ナリシナルヘク岡野  
ノ帰リテ久シク居<sup>(待チ)</sup>モ兩人共其儘吳ニ隨從シテ乗船シタ  
ルモノト存セラル吳ヲ空シク逸シタルハ殘念千万ナルモ閣  
下ノ御好意ハ吳ニ伝ヘラレ居ルコトト存ス  
大臣ヘ転電セリ

三六八 十一月三日

在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ヨリ吳ノ逃亡ハ地方擾乱ヲ長引力セル

故日本又ハ外交團ノ決定ニテ武装解除方申出

ノ件

(十一月四日接受)

本官發在支公使宛電報

第一三一号

今朝姚震段ノ旨ヲ含ミテ來訪シ吳佩孚ハ軍艦海圻ニ乗シ運

送船ニ其兵ヲ分乗シ出発セル處其行先ハ山東(龍口又ハ青

島)、江蘇、湖北ノ内ナルヘク何レニシテモ彼ヲ此儘此等

ノ地ニ放ツハ偶々擾亂終滅ノ機ヲ長クスルモノニシテ地方

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三六八 三六九

吳佩孚ニ対シ速ニ下野ヲ決意シ時局收拾ヲ計

ル様勧説セルモ容レズ海路出奔ノ件

本官發在支公使宛電報

第二三三号(極秘級)

貴電第七一号ニ閲シ

去ル一日張紹曾ト会談終リ其辭去セントスルニ臨ミ彼ヲ呼  
出サシメ本官カ吳氏ノ為ニ計ラントスル所以ハ公使カ深ク  
吳ノ人物ヲ惜ミ、得ヘクンハ支那ノ前途ノ為メ之ヲ救フ途  
ヲ講シタントノ内命ヲ含ムカ故ニ外ナラスト内密ノ儀トシ  
テ申聞ケ岡野ニモ同様ノ意ヲ篤ト申含メ吳ニ之ヲ伝フル様  
再三念ヲ押シ申置タルカ吳ニ対シ十分ノ好意ヲ示スニ努メ  
爾來手ヲ換へ品ヲ換へ勢ノ窮レル今日速ニ野ニ下ルノ決意  
ヲ為シテ戰局收拾ヲ計ル様勧説ニ努メ段祺瑞モ同様ノ意味  
ヲ述ヘタル自筆ノ書ヲ以テ王廷楨ヲ吳ノ許ニ送レルモ吳ハ  
最後迄戰局ハ何等ノ懸念ナシト称シ段ニ依ルハ曹鋐トノ関  
係上到底為ス能ハスニ帝国政府ノ武力關係ニ依ル奉直ノ

治安ノ為頗ル懸念ニ堪ヘス故ニ海上ニ於テ我軍ノ手ニ依リ  
差押等ノ手段ナキヤ公使ニ上申シ吳ルル様申出テタルニ付  
直ニ海上ニ抑留スルコトハ到底不可能ナルヘク青島ニ上陸  
ストセハ我ニ關係深キ同地ノ治安維持ノ為トノ理由ヲ以テ  
同地碇泊ノ我船舶ニ依リテ上陸ヲ阻止スルカ如キ措置或ハ  
不可能ニアラサルヘキモ之トテ帝国政府ノ決定ニ俟ツノ外  
ナク唯地方擾亂鎮定ヲ長引カシムルコトハ戰局ヲ長引カセ  
サル見地ヨリ帝国政府又ハ外交團ノ決定ヲ以テ单独又ハ連  
合シテ吳ノ武装解除ヲ命スル等ノ処置ニ出テルコトアルヤ  
モ知レサルカ之トテモ容易ノ義ニアラサルヘク兎ニ角公使  
ニ一応上申シ考慮ヲ仰クヘシト答ヘ置キタリ回答振御回電  
ヲ請フ

外務大臣ヘ転電セリ

三六九 十一月三日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳ノ行先等ニツキ至急回電方ニ関スル件

(十一月五日接受)

本使發在天津總領事宛電報

第七七号

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三七〇 三七一

四三〇

陸軍武官ヨリノ來報ニ拠レハ吳佩孚ハ三日手兵一千ト共ニ塘沽ヨリ乗船何処カ出発シ又右ノ外約二万ノ吳軍モ同行セリトノコトナルガ行先等ト共ニ詳細至急電報アリタシ猶武官室方面ノ判断ニ拠レハ右ハ山東若ハ揚子江方面ニ向ヒタルモノナルヘントノコトナルカ右様ノ模様ナルニ於テハ此等各領事ヘモ転報シ置カレタシ

三七〇 十一月四日 在青島堀内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ノ青島上陸中止方ヲ勧告等ニ關スル日

英米各領事ノ協議事項報告ノ件  
第二二〇号  
(十一月五日接受)  
吉田總領事發大臣宛電報第二二一號ニ關シ萬一吳佩孚ニシテ手兵ヲ率ヒ當地ニ上陸スルニ於テハ當地治安維持困難ナルヤモ計リ難キヲ以テ本官ハ四日英、米領事ト協議ノ上(一) 永翔号ノ當地ニ到着シタル時ハ日米両國軍艦（日本、鹿島、サクラ、タチバナ、米国駆逐艦三艘）先任將校ヨリ吳佩孚ニ對シ多數各国居留民在住地タル青島ノ治安維持ノ目的ヲ以テ其上陸中止方ヲ勧告スルコト

(二) 若シ同船カ食糧等必需品ノ欠乏ニ依リ他ニ運行スルコト

転電セリ

三七一 十一月六日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ヨリ芝罘寄港ノ政記汽船全部ヲ至急塘

沽ヘ回航方嚴命アリタル件

第五七号（至急）

五日午後七時鎮守使ヨリノ急使來訪只今吳佩孚ヨリ急電ヲ以テ芝罘ニ赴クヘキニ付當地ニ寄港セル政記汽船全部至急塘沽ニ回航セシムヘキ旨嚴命アリタルニ依リ鎮守使ハ不取敢右ノ趣政記公司へ伝達セル旨返電シタル所一方政記公司ニテハ本官ニモ相談アリ邦人高級船員ト再ヒ同方面ニ回航シ難キ旨更ニ電報スルコトニ決定セル趣ナリ尚政記公司汽船茂利号<sup>モリ</sup>ハ今五日午後三時塘沽ヨリ寄港セルカ同船船長ノ談ニ依レハ同船ハ張福來ノ銃砲弾薬其他多量ノ軍需品ヲ積載シ居タルカ同人逃亡ノ為メ右軍需品ノ処分ニ窮シ昨四日午後七時半塘沽沖ナル支那軍艦ニ赴キ其処分方ヲ申入レタル所軍艦ニテハ同所碇泊ノ吳佩孚坐乗ノ華甲ニ赴クヘントノコトナリシヲ以テ更ニ華甲ニ赴キ前記ノ軍需品処分方ヲ申入レタルニ午後五時ニ至ルモ何等ノ指図ナカリシヲ以テ

ト能ハサル時ハ補充協議ノ為掛員ノ上陸ヲ許容スルコトト決定シ目下両國軍艦先任將校間ニ右実行方法ニ關シ協議中ナリ

在支公使、濟南、芝罘ヘ転電セリ

三七一 十一月四日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ノ脱出狀況ニ關シ報告ノ件

第五四号  
(十一月五日接受)  
四日午後一時塘沽ヨリ入港ノ政記汽船永利船長ノ談ニ依レハ吳佩孚ハ三日午前七時半部下ト共ニ天津ヨリ塘沽着同八時坂西海軍大佐及幹部三十名ト手兵四百余名ヲ引連レ永利ニ乗組ミ爾余ノ手兵六百余名及多量ノ食糧手荷物ハ汽船肇興号ニ搭載セシムメ同十時過キ沖合碇泊ノ仮裝巡洋艦華甲ニ移乗シ同時ニ前記ノ兵員及食糧ヲモ同艦ニ搭載シタルカ午後六時半永利拔錨ノ際尚出帆ノ模様無ク行先地ニ付テハ芝罘、青島、上海等区々ノ説アリシモ多分同日深更軍艦海圻、肇和、永翔援護ノ下ニ南京ニ脱出スヘント想像セラルルトノ事ナリ

在支公使、奉天、天津、上海、青島、濟南、杭州、南京ヘ

三七三 十一月六日 在青島堀内總領事宛（電報）  
幣原外務大臣ヨリ  
吳佩孚ノ青島上陸ノ場合ノ対処振リニツキ訓令ノ件  
第一五一号  
貴電第二二〇号ニ関シ

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三七四 三七五

四三二

貴電第二二六号其ノ他諸般ノ状勢ヲ按スルニ吳佩孚ニ於テ貴地上陸ヲ企ツルカ如キコトナカルヘキカト察セラル萬一貴地ニ入港ノ場合ニハ一応領事団又ハ日米軍艦側ヨリ其上陸中止方ヲ穩カニ勧告スルコトハ差支ナキモ貴地日米海軍当事者間ニ打合ハセタルカ如ク強制手段ニ出ツルコトハ甚タ面白カラサルニ付見合ハス様取計ハレタン尚万一吳佩孚ニ於テ右勧告ニ拘ハラス上陸セムトスルカ如キ場合ニハ已ムヲ得サルニ付成行ニ委スルノ外ナク居留民保護ニ付テハ貴官ノ裁量ニヨリ適當ノ方法ヲ講セラレタシ

右北京、濟南ニ転電アリタシ

三七四 十一月六日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞出廬ニ当リ安福派交通系ノ縁故ヲ巡ル

邦人ノ行動ニツキ注意方申進ノ件

第三三六号 (十一月七日接受)

吳佩孚入津前後同人ヲ囲繞セムトスル邦人三、四入込ミ支那政客ノ間ニ出入リセル形勢アリタルカ吳出発ト共ニ一旦退散ノ傾向アリ段祺瑞出廬ノ形勢生スルト共ニ安福派交通系ノ縁故ヲ巡リ当地ニ押寄セ来ラムトスル邦人モ鮮カラサ

外務省亞細亜局長 出淵 勝次殿

吳佩孚乗船青島入港ノ場合処置方ノ件

本件ニ関スル別紙甲号対馬艦長発海軍大臣、軍令部長宛電報ニ対ン同乙号ノ通海軍次官ヨリ電報相成候条御了知相成度右通牒ス

別紙三葉添

(終)

(付属書一)

甲 号

大正十三年十一月六日 前七・二一対馬発着

(青島) 対馬艦長

海軍大臣  
軍令部長  
対馬機密第二十五番電

一、対馬機密第十九番電第二項吳佩孚乗船永利青島入港ノ場合ニ対スル処置ハ當方ヨリ何分ノ指令アル迄之ヲ見合セ領事団ノ決議並米駆逐艦長トノ協議事項及事情等ニ付

至急詳細電報サレ度依命

ル模様ニシテ右ハ注意ス可キ現(象?)ト存セラル尙外殊ニ西原龜三ノ如キハナルヘク當地方ニ當分ノ間立廻ラセサル様致ササレハ唯ニ段派ノ為ニ不可ナルノミナラス徒ニ我ニ對シ外人間ノ疑惑ヲ深カラシムルノ虞アリ西原ハ既ニ某代議士ヲ通シ陸宗輿ニ内々接触ヲ求メツツアルヤノ噂アルニ付特ニ御注意アリテ當分此方面ニ立廻ラサル様子メ可然御措置ヲ請フ

在支公使ヘ転電セリ

三七五 十一月六日 小林海軍省軍務局長ヨリ  
吳佩孚乗船青島入港ノ際ノ処置方ニツキ通牒

付属書一 十一月六日対馬艦長発海軍大臣、軍令部長宛  
ノ件

二 十一月六日海軍次官発対馬艦長宛電報  
吳佩孚ノ青島入港ニ対シ処置振リノ件

軍務機密第四八四号

(十一月六日外務省接受)

大正十三年十一月六日

海軍省軍務局長 小林 路造(印)

(付属書二)

乙 号

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三七五

四三三

大正十三年十一月六日

海軍次官

対馬艦長宛

電報（暗号）

支那事変ニ対スル帝国政府ノ厳正不干涉方針及國際慣例ニ鑑ミ吳佩孚乗船青島入港ノ場合ニ対スル処置ハ聊カ穩當ナラスト認メラルニ付領事団決議ノ趣旨実行ニ関シテハ乗船ノ碇泊ヲ待ツテ領事団ヨリ上陸中止方ヲ勧告シ海軍ハ之ヲ支援スルニ止メラレ度

三七六 十一月六日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

奉直戰ニ伴ウ奉天軍ノ負傷者数等ニ關スル情

報報告ノ件

公第四六七号

(十一月十一日接受)

大正十三年十一月六日

在奉天

総領事 船津 辰一郎（印）

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

奉直時局ニ關スル件

(+) 本表ノ内溝帮子ニハ直軍俘虜負傷者二百名ヲ収容シ居レリ

収容場所	將校		兵	卒	計	医員
	東北総病院	第一分院				
後方総病院	一〇九	四一五	五二四	二〇		
第一分院	一一五	八四一	九五六	三〇		
第二分院	六五	六五二	七一七	一五		
第三分院	一、〇〇二	一、〇〇二	一五			
溝帮子分院	五二〇	五二〇	一五			
西下窪子分院	七九	七九	一五			
北大當	六〇〇	六〇〇	一五			
義県分院	二七	二七	一五			
錦県分院	一四〇	一四〇				
鄭家屯分院	二八九	四、一三六	四、四二五			
合計	二八九	四、一三六	四、四二五			

(2) 医師ノ定員ハ各分院十五名ノ予定ヲ以テ編成サレ居ルモノニテ目下夫々繁閑ノ状況ニ依リ左右サレ居レハ確數ハ不明ナリト云フ

(3) 右ノ内寢台藁蒲團ヲ使用シ居ルハ東北医院、第一分院講武堂、第三分院北大當ノミニシテ其他ハ炕ノ上ニ起臥シアリ

(4) 看護人ハ患者八名ニ付キ一名ノ予定ヲ以テ雇入レツツアリ奉軍ニテハ戦前既ニ蒲團ヲ四千人分ノ準備ヲ整ヘアリ

シ由ナルモ現在ニ於テハ不足ヲ來タン毛布ヲ代用シアル傷病兵ハ右病院以外ノ医院ニ診療ヲ受クルハ許可シアルモ但シ費用ハ自弁ナリト云フ目下城内満鉄分院ニ入院セルモノ左ノ一名アリ

東三省陸軍歩兵第八旅十四团第二營營長歩兵少校趙長泰二、傷兵後送及奉軍ノ衛生状態

三十一日午後十一時十分着山海關ヨリ傷兵十六名一日午前八時傷兵百九十名後送各分院ニ收容セルカ東北医院係

医官ノ洩ス處ニ依レハ開戦以来傷病兵四千五百中病兵トシテ取扱ヘンモノ僅ニ二十四名ニ過キス第一三軍ノ如キハ山海關攻撃以来宿營セサルコト数旬ナリシモ一名ノ病

奉榆鐵路從事員ニ対シ軍隊輸送開始ニ遡リ本俸十分ノ三增俸スルコトニセリト

五、奉榆鐵路從事員増俸

東三省憲兵ハ第一營奉天第二營吉林第三營黑龍江ニ駐屯シアルカ更ニ一個營ヲ增編スヘク目下二百五十名募集中ナリ而シテ該新募兵ハ三ヶ月教習ノ上第四營ヲ編成シ當

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三七七

四三六

長ニハ現憲兵司令部督査長王柏任命セラルヘント

七、朝陽ヨリ帰来セル奉軍將校ノ語ル處ニ依レハ朝陽方面

ニ匪賊蜂起シ奉軍ノ輜重ヲ襲撃シテ糧食被服ヲ掠奪シ其ノ勢猖獗ナルヲ以テ目下同地駐屯兵討伐中ナルカ該匪賊

團「天下第一軍包打奉天」ト大書セル旗幟ヲ翻シ横行シ

アリト

八、第六旅第十八團長銃殺

第六旅第十八團長劉振東ハ山海關總攻擊ニ当リ遲疑逡巡

常ニ軍ノ統一ヲ欠キアリシカ遂ニ部下軍隊ヨリ反逆者ヲ

出スニ至リ事態容易ナラサルヲ以テ郭副軍司令ハ劉團長

ヲ銃殺シタリト云フ

九、奉軍戰死傷將卒救恤金制度

奉天戰死傷將卒救恤金左ノ如ク制定セリト

師長 戰死	一〇〇、〇〇〇元	戰傷	三〇、〇〇〇元
旅長 ハ	五〇、〇〇〇	ハ	二〇、〇〇〇
團長 ハ	二〇、〇〇〇	ハ	一〇、〇〇〇
營長 ハ	一〇、〇〇〇	ハ	五、〇〇〇
連長 ハ	五、〇〇〇	ハ	一、五〇〇
排長 ハ	三、〇〇〇	ハ	一、〇〇〇

本官發在奉天總領事宛電報  
第九一號

奉軍ニ參加シタル露國人數百ト共ニ邦人ノ一隊旧特務曹長  
何某ノ指揮ノ下ニアル四十名軍糧城ヨリ來津ノ途ニ在リ北

京へ赴カントスルモノノ如ク之等邦人カ京津ノ間ニ於テ出

没スルニテモ或ハ武功ヲ誇リ大言壯語ヲ為ス等不謹慎ノ行

動ヲナスヘキハ想像ニ難カラス然ラサルモ對外關係上時局

柄甚タ宜シカラス依テ張宗昌ニ對シ警告ヲ為ス而已ナラス

是等一隊ノ邦人ニ對シ當館ニ於テハ一応注意ヲ与ヘ奉天引

返シノ命令ニ從ハサレハドシドシ処置スヘキ旨申渡セリ然

レトモ穩便ニ至急山海關方面へ撤退セシメタキニ付テハ貴

官ヨリ張作霖ニ申入ラレ張宗昌ニ對シ右等邦人ヲ貴地方ヘ

引揚ケシム様命令セシメラレタシ

大臣、公使ヘ転電セリ

三七八 十一月七日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

吳佩孚ノ芝罘來港ニツキ報告ノ件

第五九号(至急)

塘沽脱出ノ吳佩孚ハ華甲ニ坐乗シ軍艦二隻及運送船四隻ヲ

司務長 戰死	二、〇〇〇元	戰傷	五〇〇元
下士	〃	自一、八〇〇	至三五〇
卒	〃	五〇〇	二〇〇
團付將校	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
營付將校	三、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
連付將校	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
上校參謀	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
中校副官	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
少校參謀	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
副官	〃	〃	〃

三七七 十一月七日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

奉天軍ニ參加セル邦人ノ一隊ノ京津地區進出

ニ当リ穩便ニ山海關方面ニ撤退方張作霖ニ申

入レアリタキ件

(至急)

第二四〇号

率ヒ今七日午前七時當地ニ來港米國陸戰隊上陸シ目下警戒  
ノ任ニ当リ居レリ不敢敢

北京、天津、青島、濟南、奉天、上海へ転電セリ

三七九 十一月七日 在芝罘別府領事代理ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

芝罘ニ來航セル吳佩孚ヨリ薪水補給ヲ得バ直

ニ拔鎗スペキ旨ノ申出並ビニ各國領事ノ応待

振リニツキ報告ノ件

第六〇号

往電第五九号ニ閑シ

吳佩孚ハ華甲ニ乗リ軍艦肇獻楚予永翔ノ三隻及運送船北  
康、北盛、北華、肇興ノ四隻ヲ率ヒ武装兵士一万余人搭載

來航セル處午前九時米國東洋艦隊旗艦「ヒュウロン」坐乘

ノ「ワシントン」司令長官ヨリ日英米領事ニ對シ至急用談

アルニ付來艦アリタキ旨急報アリタルニ依リ同艦ニ赴キタ

ルニ司令長官ハ只今楚予艦長趙大佐ヨリ無線電信ヲ以テ吳  
及其部下ハ上陸ノ意ナク炭水糧食ノ補給ヲ得ハ直ニ拔鎗ス  
ヘキニ付何分ノ配慮ヲ仰度キ旨申出アリタル處若シ之ヲ拒  
絶スルニ於テハ兵員上陸シ擾乱ヲ來ス虞アルヲ以テ不取敢

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三八〇

四三八

陸戦隊五十余名ヲ上陸セシメタルカ右補給方ニ関シ領事團ニ於テ至急協議ヲ望ム旨懇切ニ述フル處アリタリ依テ四国領事ハ司令長官トモ商議ノ結果首席仏領事ノ名義ヲ以テ同領事館ニ道尹鎮守使及吳佩孚側ノ代表者二名ヲ招来シ一時三国領事ト合同炭水糧食ノ補給ニ關シ協議ヲ為ス尙目下当港在泊ノ米國軍艦ハ「ヒュウロン」ノ外駆逐艦四隻ナリ目下ノ處市面動搖ノ状態ナシ

北京、天津、青島、濟南へ転電セリ

奉天、上海、杭州へ暗送セリ

三八〇 十一月七日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚側ノ米、水、石炭及ビ銀ノ提供要求ニ

対シ日米英仏領事協議ニヨリ銀以外ノ補給ニ  
同意シタル旨報告ノ件

第六一号

（十一月八日接受）

往電第六〇号ニ閲シ

午前十一時仏領事館ニ於テ吳ノ代表楚予、肇艤艦長二名（米艦汽艇ニテ上陸武装兵數十名警護ス）日英米領事鎮守使及道尹会合仏領事ヨリ会合ノ理由ヲ簡単ニ述ヘ次ニ趙楚

予艦長ハ一同ニ對シ自分等ハ中央政府ヲ代表シ吳又ハ馮ヲ代表スルニ非ラスト冒頭ニ置キ鎮守使ニ向ヒ今次來航ノ一万五千兵員ハ飢餓ノ状態ニ瀕シ居ルニ付米二千俵石炭二千五百噸水二十噸及銀十万元提供アリタキ旨申出テタルカ本官及米英仏領事ハ往電第六〇号米艦内ニテ「ワシントン」司令長官ト協議ノ際ハ炭水糧食ノ補給ノミニ限リ四國領事（往電第六〇号三国領事ハ四國領事ノ誤）ニ於テ議ヲ纏メタル次第ナレハ此際現金ノ交付ニ応スルハ論外ナリト鎮守使ニ迫リタル結果鎮守使ハ道尹ト相談ノ上吳ノ代表ニ対シ現金ハ交付スルヲ得サルモ（多少ハ融通スル底意アルカ如シ）炭水米ハ要求通調達スルコトトナリ右補給ノ方法ニ閲シテハ支那官憲ヨリ直接艦船ニ輸送スルコトヲ許シ一時散会ス散会ニ當リ吳ノ代表ハ各領事ニ対シ深厚ナル謝意ヲ表セリ尚右食糧等ヲ調達シ積込ヲ了スル迄ニハ數日ヲ要スヘク吳ノ艦船ハ積込終了次第南下ノ筈ナリト又往電第五八号義平号ニハ十五師五十九管長、十四師五十四團二管長、二十四師九十二團二營長、三師二十旅大隊長及武装解除兵、避難民約二千名乗込ミ居リ當地総商会（商業會議所）ヨリ食糧ノ補給ヲ受ケ今尚碇泊中

北京、天津、青島、濟南、上海、奉天、杭州へ転電セリ

三八一 十一月七日 在青島堀内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚軍上陸ノ場合ニ對スル領事團協議事項

ハ内政不干涉ノ趣旨ニヨリ取消シタル旨報告

/件

第二三九号

（十一月八日接受）

往電第二二〇号ニ閲シ

三八二 十一月八日 在漢口林總領事宛（電報）

アラザル旨回電ノ件

六日海軍次官ヨリ対島艦長ニ對シ日米艦長ニ打合セタル吳

軍上陸阻止ノ手段ハ帝国政府ノ嚴正中立声明ニ顧ミ面白カ

ラサルニ付之ヲ見合セ單ニ領事團ノ決議ヲ支持スル程度ニ

止ムヘキ旨訓電ニ接シタル趣ナリシカ七日朝ニ至リ米國領

事モ亦華府司令長官ヨリ実力ヲ以テ吳軍ノ上陸ヲ阻止ゼン

トスルハ不干涉ノ趣旨ニ反スルニ依リ中止方訓電ニ接シタ

ル趣ヲ以テ米國側ハ領事團ノ申合セヨリ脱退シタキ旨通報

越シタリ元來上陸阻止ノ勧告及之カ実行方法ハ主トシテ米

國側ノ發案ニ係リ本官並対島艦長等モ之ニ賛同シタルニ過

キサル處今ヤ王戒嚴司令ハ督弁ヲ兼任シ商埠内行政ノ全權ヲ掌握シ兵力亦相當ニ充実シ必シモ外國領事團等ニ於テ

アラザル旨回電ノ件

三八三 十一月八日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ノ戰後警備処置並ビニ奉天軍參加ノ邦

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三八一 三八二 三八三

四三九

## 第二四三号

段祺瑞ハ時局鎮靜ト共ニ各軍ノ輒轢漸ク甚シカラントスル  
ニ鑑ミ各部署ヲ定メテ守備ニ就カシムルコトトシ京津並両  
地間ハ馮軍山海関濟南間ハ奉天軍京漢線石家莊ニ到ル間ハ  
胡景翼軍守備ニ任スルコトトナリ夫々其ノ任ニ就ケル由本

官発奉天總領事宛往電第九一号（大臣宛第二四〇号）奉軍  
参加邦人ハ今七日當地總站著警察並ニ軍ヨリ直接撤退ヲ申  
聞ケルト共ニ張宗昌ニ面会速ニ送還方要求シタル処張ハ兎

ニ角本日中ニ芦台ニ移シ其ノ上ニテ奉天方面へ還ラシムヘ

キ旨約セリ

北京、奉天へ転電セリ

三八四 十一月八日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

奉天軍參加ノ邦人等ハ契約金ヲ受取り同軍ヨ  
リ離脱ノ件

第二四五号

本官発奉天宛電報第九三号

往電第九一号ニ関シ奉軍參加邦人ハ当地ヲ撤退スルモ奉軍  
守備区域ノ關係上濟南方面へ派遣セラル事アルヘキヲ慮

（十一月八日接受）

往電第六一号ニ關シ吳ノ率フル艦船ハ其後移動ナク本八日  
青島ニ到着スヘキ巡洋艦海圻ノ當地廻航並炭水食糧ノ積込  
終了次第南京ニ向ケ出港ノ筈ナルカ疲弊セル當地トシテハ

往電第六一号要求額ヲ充タス能ハス結局吳軍ニ對シ米一千  
袋、石炭一千五百噸、水一千噸ヲ供給シ更ニ總商會（商業  
會議所）ヲ經現金四萬元ヲ提供シタル趣ナリ

然ルニ七日夜交渉員本官ヲ來訪シ吳ヨリ當地鹿玉軒記代理  
汽船利通号ニ炭水米ヲ載セ南京迄同航シタキ旨申来リタル

處此際吳ノ一行ヲ一日モ早ク當地ヨリ立去ラシメ人心ノ不

第六三号

（十一月九日接受）

三八五 十一月八日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳ノ南京向ケ出航ニ當リ汽船利通号ト邦人高  
級船員ノ同行方要求ノ旨並ビニ旅順ヨリ我ガ

駆逐艦ノ來航電報ニ關シ報告ノ件

北京、奉天へ転電セリ

三八六 十一月十日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳ノ南京向ケ出航ニ當リ汽船利通号ト邦人高  
級船員ノ同行方要求ノ旨並ビニ旅順ヨリ我ガ

駆逐艦ノ來航電報ニ關シ報告ノ件

（十一月九日接受）

往電第六二号ニ關シ吳ノ率フル艦船ハ其後移動ナク本八日  
青島ニ到着スヘキ巡洋艦海圻ノ當地廻航並炭水食糧ノ積込  
終了次第南京ニ向ケ出港ノ筈ナルカ疲弊セル當地トシテハ

往電第六二号要求額ヲ充タス能ハス結局吳軍ニ對シ米一千  
袋、石炭一千五百噸、水一千噸ヲ供給シ更ニ總商會（商業  
會議所）ヲ經現金四萬元ヲ提供シタル趣ナリ

然ルニ七日夜交渉員本官ヲ來訪シ吳ヨリ當地鹿玉軒記代理  
汽船利通号ニ炭水米ヲ載セ南京迄同航シタキ旨申来リタル

處此際吳ノ一行ヲ一日モ早ク當地ヨリ立去ラシメ人心ノ不

安ヲ一掃シタキニ付同船船長以下高級船員（全部本邦人）

ニ右承諾方篤ト本官ヨリ勧告アリタキ旨申出アリ之ニ対シ

本官ハ同船乗組邦人高級船員ハ曩ニ奉王島方面ニ出動セル  
際吳軍ヨリ多大ノ圧迫ヲ加ヘラレタルヲ以テ恐ラク同航ヲ

肯ンセサルヘキモ一応伝達スヘキ旨回答シ置ケル處一方吳  
軍ハ利通号船主ニ対シ若シ同航ヲ承諾セサルニ於テハ武力

ヲ以テ没収スヘシト威嚇セルニ依リ邦人高級船員ハ自分等  
ノ乗船セサル為船主ニ迷惑ヲ掛け且支那船舶界ニ多大ノ潛

勢力ヲ有スルニ至リタル先輩船員ニ対シテモ義トシテ忍ヒ  
サルヲ以テ食糧炭水以外兵員ヲ乗船シメス南京ニ到着ノ

上ハ直ニ芝罘ニ回航セシメ且同船ノ運航並保安ニ關シテハ  
一切干涉セサル様吳ノ了解ヲ取付ケ乗船スルコトニ決定目  
下荷役中ナルカ大体明九日午後ヲ以テ終了ノ見込ナリ尚本  
隊ヨリ電報アリタリ

公使、天津、青島、濟南、奉天、上海、杭州、南京へ転電

セリ

三八六 十一月十日 在天津吉田總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

（十一月十一日接受）

往電第六三号ニ關シ

九日夜交渉員再ヒ來訪食料炭水積載ノ利通号ヲ威海衛迄同

伴シ同地ニ於テ該軍需品ヲ積替ヘ一日モ早ク人心ヲ安堵セ  
シメ度ニ付利通乗込ノ邦人高級船員ニ対シ威海衛迄同行ス

ル様勧告方依頼アリタルカ本官ハ之ニ対シ利通号船員ハ其  
ノ後態度一変シ威海衛迄行クコトモ大ニ不安ヲ感シ居ル有

様ナレハ仮令勧告スルトモ其ノ効無カラント察セラルルニ  
セリ

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三八六 三八七

付当地ニテ該積載軍需品ヲ華甲ニ積替へ其ノ終了ト共ニ解放スル様致シ度旨応酬シ置ケリ一方利通号船員等ニ於テモ保護方ヲ本官ニ申出ツル處アリタルニ依リ遗漏ナキヲ期スル為第二十九駆逐隊森有司令トモ協議ノ上同司令ヨリ華甲搭乗ノ坂西大佐ニ宛テ利通号乗込邦人高級船員ハ連行サルコトヲ頗ル不安ニ感シ居ル次第ナレハ同船積載ノ軍需品ヲ当地ニテ華甲ニ積替済次第解放方尽力アリタキ意味ノ依頼状ヲ認メ利通号堀口機関長ヲシテ今十日朝風浪風キタル際右司令ノ書信ヲ携ヘ華甲ニ在ル坂西大佐ノ許ニ赴カシメタル處同大佐ハ支那軍艦ニ赴キ不在ナリシニ依リ更ニ吳總司令ニ会見ヲ求メタルモ病氣ナリシ為參謀長張佐民ニ会ヒ前記ノ事情ヲ話シタルニ張參謀長ハ軍需品積載ノ支那汽船（政記公司汽船茂利号ニハ多數ノ軍需品ヲ積載シ居レリ）ハ全部上海迄運行スルトノ話ナルニ依リ同機関長ハ強硬ニ当地ニテ軍需品積替済次第解放スヘキ旨談判シタル結果漸ク張參謀長ハ之ヲ承諾シ同參謀長ヨリ軍需品積替済次第引揚ヶ上海ニ行カサルモ差支ナシトノ保証書ヲ受取ラハ足レリ利通号ハ本日午前十時半港外ノ華甲ニ赴キ右軍需品積替中ナルカ本日中午終了ノ見込ナリ尚華甲ニハ吳夫人、總司

利通及茂利ハ炭水食糧軍需品ヲ華甲ニ積換後直ニ解放セラル  
在支公使、天津、青島、濟南、上海、漢口、奉天、南京、杭州ニ転電セリ

三八九 十一月十六日 在南京林出領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ハ南京ニ上陸セズ、代表ヲシテ齊督軍、  
杜総司令ヲ答訪セシメ出帆遼江ノ旨報告ノ件

## 告ノ件

第一八一号 (十一月十八日接受)

吳佩孚ノ乗船決川瀋蜀二隻ハ十一月十五日午後九時半同運送船四隻ハ十六日午前二時半夫々出帆遼江シ軍艦江利楚泰モ同行セリ

吳佩孚ハ遂ニ当地ニ上陸セス代表ヲ以テ齊督軍及杜総司令ヲ答訪セシメタリ吳齊會見ニ閔シ督軍署ヨリ得タル情報ニ

依レハ齊ハ今後モ吳ト行動ヲ共ニスヘキコトヲ誓ヒタル趣ナリ然レトモ此ノ際態度ノ声明ヲ為サス吳カ湖北着後態度決定ト同時ニ相呼応シテ声明スル筈ナリトノコトナリ

吳佩孚ノ着寧前ヨリ当方面ノ人心動搖シツツアリシカ吳齊

ノ会見ヨリ國民軍ノ南下説伝ハリ人民避難ヲ始メタリ  
支那、奉天、天津、上海、廣東、福州、青島、漢口、濟南、芝罘ヘ転電シ杭州、蘇州、蕪湖、九江ヘ暗送セリ  
三九〇 十一月十七日 在漢口林總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ノ漢口到着ト官民ノ歓迎振リニツキ告ノ件

第一五八号 (十一月十八日接受)  
吳佩孚ハ十七日午後二時半（決川）ニテ多數官民ノ歓迎ヲ受ケ当地江岸停車場着湖南ヨリハ打合セノ為趙恒惕明朝到着ノ筈尚張福來ハ十五日夜當地發河南ニ還レリ

北京、上海、天津、廣東、奉天、長沙及宜昌ヘ転電シ南京、九江、沙市及重慶ヘ暗送セリ  
三九一 十一月十九日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛  
奉直戰ニ於ケル張作霖備聘外人顧問ノ活動ニツキ報告ノ件

（十一月二十五日接受）

令、彭壽莘、汪維城、斬雲鶴（支那情報第二十四号参照）及第三師ノ主兵乗込ミ爾余ノ運送船四隻ニハ河南二十四師ノ兵士分乗シ居ル趣ナリ又吳ノ行先地ニ閔シテハ既ニ上海、南京ト表明セラレ居ルモ伝聞スル処ニ依レハ隕海鉄道ノ起點ナル海州ニ上陸シ直ニ洛陽ニ至ルカ或ハ長江ヲ遡リ漢口ヲ經テ洛陽ニ入り恢復ヲ計ルトノ説ト漢口ニ留リ四川、湖北ノ軍隊ヲ糾合シ再挙ヲ計ルトノ二説アリ吳ハ今夜又ハ明十一日朝出港ノ筈ナリ  
公使、天津、上海、南京、漢口、青島、濟南、奉天、杭州ヘ転電セリ

三八八 十一月十一日 在芝罘別府領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）  
吳佩孚ノ艦船ハ芝罘ヨリ南下ノ旨報告ノ件

第六九号  
華甲ハ軍用船北康、北盛、北華（肇興ハ「ボイラーハ」ニ故障アリ積載ノ高粱、大豆、麥粉及馬糧ヲ華甲ニ積換ヘ积放サル同船ニハ邦人船長及機関長二名乗込ミ）ト共ニ十日午後九時三十分警護ノ軍艦楚予、永翔、肇鯨ハ十一日午前一時過キ夫々拔錨南下セリ海圻ハ遂ニ來ラス往電第六八号ノ

機密公第四九〇号

大正十三年十一月十九日

四四三

在奉天

総領事 船津 辰一郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張作霖傭聘外人顧問ノ奉直戦ニ於ケル活動ニ関ス

ル件

今次奉直戦ニ際シ張作霖傭聘ノ外人技師カ相当活動シタルコトハ曩キニ十月二十四日付機密公第四五三号ヲ以テ及報告置候處今回本官張作霖ト同行天津ニ赴キタル際車中ニ於テ親シク同行セル之等外人顧問等ヨリ聞知シタル處大様左記ノ通りニ有之候

一、英人顧問「サットン」大尉 同人製作ニ係ル迫撃砲カ今回ノ戰闘ニ於テ非常ナル威力アリシコトハ十月十八日付機密公第四三五号ヲ以テ及報告置キタル通リニシテ張作霖ハ同人ノ功績ヲ以テ今回ノ殊勲者ト認メ一躍少将ニ昇任セシメタルヲ以テ同人ハ今回旅行中ハ支那少将ノ軍服ヲ着用シ居リタリ、同人ノ談ニヨレハ該迫撃砲ナルモノハ「サットン」氏ト其友人某トノ二人ニテ特許權ヲ受ケ居ルモノニシテ奉天城外北大營ニ一小工場ヲ建設シ最近一ヶ年間ニ製作シタル砲数ハ実ニ六百門彈丸二十万

發ニシテ其内今回ノ奉直戦ニ十五万発ヲ消費シタリ奉天ニ於テ製作セルモノハ経費ノ関係モアリ着弾距離ハ毫千里モノアリタル製品原料タル銑鉄ハ濠州及カルカッタ方面ヨリ輸入スルモノニシテ之レカ合金ノ方法如何モ「ペント」ノ主要部分ヲナスモノナリ云々  
尙ホ英國領事ノ談ニヨレハ「サットン」大尉ハ中々商売氣アリテ前記ノ銑鉄輸入其他右迫撃砲製作ニヨリテ得タル利益ノミニテモ金五十万円ニ上リ又先般上海競馬ニ當籤シテ銀二十二万四千弗ヲ得一躍成金トナリ又奉直開戦中ハ屢々戦線ニ往復シ実地視察ヲナシテ砲ノ射撃上指導スル處アリタリト

二、仏人顧問ボアクソ 従来張作霖顧問ノ仏人飛行家トシテハ「ブーレー」「マッセ」ノ両名ナリシカ更ラニ「ボアクソ」ナルモノ新ラタニ傭聘セラレ航空處ノ顧問トナリ同人ハ支那ニ在ルコト一二、三年ニシテ支那語ヲ能クシ今回仏國飛行機ヲ奉天側ニ壳込ミタルハ主トシテ

同人ノ奔走ニヨルモノノ如ク尚ホ元青島ニ居リタリト云フ仏人「マチュ」大尉モ開戦ト同時ニ大和ホテルニ滯在シ飛行機壳込ニ相当尽力シタリト云フ  
三、米人顧問ベーカー 元当地駐在ノ米國總領事タリシ同人ハ相當張作霖ノ信用モ厚ク而已ナラス同人亦中々商業氣アリテ一面ベーカー商会ナルモノヲ經營シ居レルヲ以テ兼テヨリ米國ニテ若干持余シ居リタル防寒用皮製胴衣五万四千着ヲ壳込ミタル由ニテ今回張作霖ノ護衛トシテ引率シタル軍隊ハ何レモ之ヲ着用シ居レリ尚ホ「ベーカー」ノ手許ニ八千着アル由ナリ

四、露人顧問 奉天側ノ傭聘セル露国人ハ相當多數ナルカ就中飛行家トシテハ優秀ナルモノモアリ彼等ハ今次ノ

戦争ニ於テ相當活動セルモノト思料セラル現ニ張作霖力アリト称セラレ即チ町野、松井、儀峨、阪東等ノ各顧問

今回入津ノ途次瀋州ニ着スルヤ露人飛行家五六名張作霖ノ乗車ニ來リ戦争中ノ狀況ヲ報告シ且ツ直軍飛行機二十台ヲ捕獲シタルヲ報告シタルヨリ大ニ張ノ嘉賞ヲ博シ

タル模様ナリ要之一般ニ張作霖側ニハ日本人顧問ノ活躍アリト称セラレ即チ町野、松井、儀峨、阪東等ノ各顧問ノアルコトハ相當日本人間ニ喧伝セラレ居ルモ前記ノ如

第一六七号

（十一月二十二日接受）

三九二 十一月二十一日 在漢口林總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

吳佩孚ノ洛陽帰還並ヒニ殘兵ノ動向ニツキ告ノ件

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三九三 三九四

在支公使、天津へ転電シ、南京、上海へ暗送セリ

三九三 十一月二十七日 帰還決定ノ件  
天津ヘノ増遣部隊ノ一部原駐地へ帰還決定ノ件

幣原外務大臣ヨリ  
在天津吉田總領事宛（電報）

支那駐屯軍隸下ニ配屬中ノ満州駐劄師団ノ件  
陸普第四五七八号  
（十二月十日接受）  
北支那派遣軍隊撤去ノ件通牒

大正十三年十二月九日

第八六号

往電第八〇号及第八三号ノ派遣部隊ノ中不取敢二個中隊及  
小機關銃隊ヲ原駐地ニ帰還セシムルコトニ決定セリ

北京、奉天及上海ニ転電アリ度シ

三九四 十二月九日 津野陸軍次官ヨリ  
松平外務次官宛

陸軍次官 津野 一輔（印）

外務次官 松平 恒雄殿

曩ニ満州駐劄師団ヨリ支那駐屯軍司令官ノ隸下ニ属セシメ  
ラレタル歩兵一大隊（一中隊欠）機関銃一小隊ハ十二月五  
日天津發同六日閏東州ニ帰還致候条及通牒候也

## 事項八 北京臨時執政政府ノ成立問題

三九五 十月二十四日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

時局收拾並ビニ日本ノ借款斡旋方及ビ吳佩孚  
ノ将来ニ関スル黃郛、袁良ノ談話報告ノ件

第一〇五一號（極秘）

（十月二十五日接受）

往電第一〇五〇号熊秘書ト入違ヒニ王正廷、黃郛、袁良打  
揃ヒ來訪王ハ玄関ヨリ直ニ辞去シタルカ黃郛、袁良ハ本使  
ニ対シ既ニ國民ハ擧ヶテ戰鬪ヲ嫌忌シツツアリ吾人今次ノ  
計画ハ單ニ支那ノ前途ノ為ノミニ止マラス延テ東亞ノ復興  
ニ貢献セントスルノ抱負ニ抱出ツ今朝黃郛自ラ筆ヲ執リ馮玉  
祥、胡景翼、孫岳其他十余旅長ノ名ヲ以テ天災ノ余禍未タ  
癒ヘス徒ニ無名ノ師ヲ起シ戰ヲ貪ルノ時機ニ非ス宜シク賢  
達ノ士ヲ集メテ時局ノ收拾ヲ期ス可シトノ通電ヲ全國ニ發  
シ吳佩孚ニモ同様電報シタリ馮玉祥ハ目下本部ヲ北苑ニ  
置キ明二十四日胡景翼ノ入京ヲ待チ孫岳ト共ニ三人鼎議ノ  
上善後措置ヲ計ル事トナルヘク段祺瑞ハ前記通電ノ結果  
全國結束ノ見据ツク迄ハ出馬スル事ナカル可シ王正廷ハ元

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 三九五

四四六

支那駐屯軍隸下ニ配屬中ノ満州駐劄師団ノ件  
陸普第四五七八号  
（十二月十日接受）  
部ノ閏東州ヘノ帰還ニツキ通牒ノ件

（十二月十日接受）

四四七